

三

占領地域における諸問題

1 一般問題

629

昭和12年7月31日

在天津堀内総領事より
広田外務大臣宛(電報)

戦線拡大に伴い占領地域治安維持のため警察

官増派方請訓

天津 7月31日前発

本省 7月31日夜着

第六二四號

曩ニ滿洲ヨリ警察官ノ増援ヲ受ケ各地共不眠不休警備ニ服シ居ル處其ノ後益々戦線擴大シ二十九日ノ如キ當地警察分署ノ襲撃ヲ受クル等警察官自ラ奮戦セサルヘカラサル實情ナリ軍ハ當市支那街ノ占領ヲ企圖シ之カ掃蕩中ナルモ其ノ道案内、通譯等警察官ヲ煩ハスコト多ク一面敵ノ工作員、便衣隊、敗走兵等ハ我租界ヲ始メ各地ニ潛入シ後方攪亂、掠脱等ヲ策動シ居リ之カ警戒モ亦容易ナラス一方詳細不明ナルモ山海關副領事ノ報告ニ依レハ北寧沿線各地保安隊ノ叛變アル模様ニテ沿線在住民ノ保護モ現配置數ニテハ萬全

トハ認メ難ク此ノ儘推移スルニ於テハ到底在留民保護並ニ警備ノ目的ヲ達シ難キニ付滿洲ヨリ第二次應援警察官五十名ヲ至急増發相成度シ

右應援警察官ハ秦皇島巡查三、昌黎巡查三、灤州巡查三、唐山警部補一、巡查三、塘沽巡查二、通州巡查四、豐臺巡查三、北平巡查五、天津巡查二三ノ配置トス

同警察官ノ服裝ハ第一次應援者ト同様トシ更ニ天津配屬者ハ騎銃一、實包一〇〇發其ノ他ノ配屬者ハ騎銃二、實包二〇〇發ヲ携行セシメラレ度シ

尙北支一帯交通杜絶ノ惧アルヲ以テ塘沽以東ハ在滿大使ニ於テ人選ノ上直接任地ニ其ノ他ハ天津ニ集合スル様下命方御取計相成度シ

滿ヘ轉電セリ

630

昭和12年8月1日

在天津堀内総領事より
広田外務大臣宛(電報)

天津方面の治安対策につき意見具申

天津 8月1日後発

本省 8月1日夜着

第六三五號

警察官第二次増援方ニ關シテハ曩ニ電請ノ通りナル處軍ハ支那街(特區ヲ含ム)ノ不逞ノ徒ヲ掃蕩シツツアリテ略其ノ工作モ終リタルカ其ノ後ノ治安維持ハ原則トシテ憲兵隊指導ノ下ニ支那側警察ヲシテ當ラシムル様目下軍側ニテ工作中ナル處特區紡績工場方面ニハ邦人警察官ヲ是非共相當數派遣スル必要アリ然ルニ右増援ハ辛フシテ租界内警備ヲ擔當シ得ル程度(天津ニ於ケル戰禍一段落後ハ軍隊ハ前線ニ進出ノ豫定ニテ現ニ租界内ハ領警、義勇隊ヲ以テ警備シ居リ義勇隊ハ其ノ本質上可^及久的速ニ解散セシムル要アリ)ニシテ事情差迫リ居ルヲ以テ不取敢警備員トシテ一人月額六十圓、鮮人四十圓外ニ被服料トシテ最初一人十五圓見當ニテ三十名ヲ現地採用致度キニ付御承認相成度シ
尙軍側ニ於テハ特務機關ヲ擴充シ憲兵隊ヲシテ支那街(特區ヲ含ム)ニ五箇分隊二百八十名ヲ兩三日中ニ配置シ支那側警察機關ヲ指導シ治安回復ヲ計ル計畫ナルカ(北平モ之

ニ倣フ)我方ニ於テモ在留民保護ノ見地ヨリ當地、北平ヲ始メ各地警察力充實ノ必要アルヲ以テ本省ニ於テ警察官三百名ヲ募集シ至急北支ニ増員シ時局ニ即應スル警察活動ヲ促シ今後ノ對策ヲ圓滑ナラシムルコト肝要ナリト認メラル右ハ或ハ本省ニ於テモ既ニ御考慮ノコトトハ存スルモ至急實現方御配慮ノ上何分ノ儀折返シ御回電ヲ請フ配置計畫等ニ關シテハ飛行便ヲ以テ進達ノ筈
滿ハ轉電セリ

631 昭和12年8月1日

在北平森島大使館參事官より
広田外務大臣宛(電報)

冀東保安隊の改編など北平方面における軍側
措置につき報告

第六〇四號

北平 8月1日後発
本省 8月1日夜着

一、三十日午後長辛店ヲ占據セル河邊部隊以外ノ各部隊ハ目下北平ノ周圍ニ於テ敗殘兵及當方面へ逃走中ノ冀東保安隊ニ對スル處理ニ當リ居リ増援隊到着迄ハ現在ノ體勢ヲ

維持スルモノノ如シ

二、城内外觀平靜ニシテ交民巷ニ引揚ケタル外國人中既ニ歸宅セル者多シ

三、城内百三十二師ノ保安隊改編ハ一應完了セルモ軍側ハ結局右ヲ解散歸郷セシメ治安維持ハ警察局ヲシテ之ニ當ラシムル方針ナリ

四、北寧線ハ一日修理班ヲシテ調査セシムル筈ナリシモ沿線不安ノ爲取止メタル處一兩日中ニハ我方ノ管理スル所トナルヘシ損害程度不明

支、天津、上海、滿ヘ轉電セリ

~~~~~

632 昭和12年8月5日 広田外務大臣より  
在天津堀内総領事宛(電報)

# 華北における警察官増援要請につき回訓

本省 8月5日後5時20分発

第二七八號(極秘)

貴電第六二四號及第六三五號後段ニ關シ

一、事變以來滿洲國內ニ於ケル蘇支ノ地下工作ハ日ヲ逐フテ露骨化シ來レルヤノ觀アル處萬一ノ場合ハ滿洲ニ於ケル

軍ノ現狀ニ鑑ミ關東局及外務省ノ警察官ヲシテ軍ト協力更ニ一層同國々内ノ治安維持ニ當ラシメサル可カラサルヘク右様ノ事態ニ立到ルニ於テハ現在ノ應援警察官モ或ハ急遽歸任セシムルノ必要スラ生スルヤモ計ラレサル狀態ナルヲ以テ此ノ上滿洲ヨリノ應援ハ到底望ミ得サル實狀ニ在リ他面事態ノ將來ハ全く豫見シ得サル現狀ニシテ事態更ニ惡化スレハ警察官ヲ増員スルモ十分ナル目的ヲ達シ得サルヘク又此ノ儘事態平靜ニ歸スルニ於テハ御申出ノ如キ多數警察官ノ派駐必要ナキニ至ルヘシトノ議論モアリ何レニスルモ將來ノ見透付カサル今日増員ヲ要求スルモ到底詮議叶ハサルヘシト認メラル(濟南及山東沿線ノ全面的引揚又ハ中南支ノ引揚等實施ノ曉ニ於テハ引揚警察官中相當部分ヲ貴地ニ應援派遣スルコトニ取計フ豫定爲念)

二、憲兵ノ貴地租界外及北平方面ヘノ進出ハ軍事行動ニ伴フ當然ノ措置ナルヘキモ之ト建前ヲ異ニスル警察官ヲシテ同一ノ行動ヲ取ラシムルコトニ付テハ慎重考慮ノ要アルヤニ認メラル從テ現在ニ於テハ遠隔ノ地ニ於ケル我工場並社員職工ノ實力保護ハ差向軍側ニ委ネ漸次秩序恢復ス

ルヲ待ツテ軍、憲兵ノ領導下ニ支那警察ヲシテ保護セシムルノ建前ヲ取ルコト可然ト存ス(尤モ此ノ場合連絡ノ爲極少數ノ警察官ヲ派シ置クコトハ支障ナカルヘシ)三、就テハ警察官ノ苦勞竝貴官ノ立場ハ十分諒トスルモ敍上ノ方針ニテ進ムコトト致度此ノ上乍ラ警察官及巡捕ヲ指導督勵シテ善處セラレンコト切望ニ耐ヘス支、滿ヘ轉電セリ冒頭貴電支ヘ暗送アリタシ

633

昭和12年 8月6日

在北平森島大使館參事官より  
広田外務大臣宛(電報)

北平市内平静に歸し避難命令解除を検討中の  
旨報告

第六四二號

一、二十七日避難命令發出以來今猶居留民ノ市内外出ヲモ禁シ居ル處既ニ城内ノ支那兵撤退シ城外ノ保安隊ノ武裝解除モ進捗シ來リ市面漸ク平静ニ赴キタルニ付便衣隊等ノ

北平 8月6日後発  
本省 8月7日前着

危険絶無トハ言ヒ難キモ六日午後ヨリ地域ヲ限リ男子ノミノ晝間歸宅ヲ許可スルコトトセルカ目下進捗中ノ通州ヨリ逃亡シ來レル保安隊ノ掃蕩ノ結果等ヲ考慮ニ加ヘ漸ク追ツテ避難命令ノ解除ニ努メ度キ意嚮ナリ然レトモ他方事態ハ相當長引クモノト想像セラレ場合ニ依リテハ再ヒ避難ヲ命スル要アルヘキニ付此ノ際成ルヘク婦女子及永住ノ意思ナキ男子ヲシテ自發的ニ内地方面ニ引揚ケシムルコト機宜ニ適スト認メラル

634

昭和12年 8月8日

在山海関藤井(啓二)分館主任より  
広田外務大臣宛(電報)

冀東政府への軍側対応振りなど山海関特務機

二、依テ北寧線ノ無賃乗車方ニ付考究中ナルカ(奉山線ハ五割引トナリ居レリ)本省ニ於テ本邦船會社ニ對シ少クトモ三等船客ノ無賃輸送方及内地汽車賃ノ半額割引方等御取扱ヲ得ハ好都合ト存ス右ハ中南支方面ヨリノ引揚者ト一併御考慮中ノコトトハ存スルモ居留民ニ對スル指示ノ都合モアリ何分ノ結果至急御回電相成度シ支、在支各總領事、滿ヘ轉電セリ

関長の内話報告

第三八號(極秘扱)

山海關 8月8日後発  
本省 8月8日夜着

天津ヨリ歸任セル特務機關長ノ内話中左記御參考迄

(一)池宗墨ヨリ軍側ニ對シ冀東政府ヲ唐(山)ニ移シ度シトノ  
申出アリタルモ依然通州ニ置カシムルコトナレリ

(二)殷汝耕ヲ軍ニテ近ク逮捕查辦シ今後ハ同人ヲ使用セス

(三)北寧線ハ當分日本側ニテ管理スルカ如キコトヲ避ケ現存  
支那人幹部ヲ中心トシ滿鐵ニテ有力ニ之ヲ支持セシム  
支、滿、天津、北平へ轉電セリ



635 昭和12年8月10日 在天津堀内総領事より  
広田外務大臣宛(電報)

華北占領地域での海關行政や塩務行政に對する  
軍の対応振り報告

天津 8月10日前発  
本省 8月10日前着

第七二三號(極秘)

往電第六九二號ニ關シ<sup>(1)</sup>

其ノ後ノ進展左ノ通り

一、海關

軍力海關ニ對シ申告ヲ爲ササルコトセルハ軍用船ニ依  
ル軍需品ノ輸入及普通船ニ依リ軍宛ニ送付セラレタル荷  
物ノミニシテ一般商人力輸入シテ軍酒保等ニ納入スルニ  
際シ當該商人ノ海關ニ對スル申告ニ軍用品ナル旨ノ證明  
ヲ爲シテ免稅セラルル物(主トシテ雜貨類)及一般商人ヨ  
リ免稅値段ニテ購入シ後ニ當該商人力同一ノ品物ヲ輸入  
スル場合軍用品ナル旨ノ證明ヲ與フル物(自動車「ガソ  
リン」等)ニ付テハ從來通り申告書ニ證明ヲ與フル譯ナ  
リ

此ノ點軍ノ一部ニ誤解アリテ二、三日來一切ノ證明ヲ與  
ヘサルコトトセル爲一部邦商ハ海關ニ對シ軍ニ於テ證明  
ヲ爲ササルコトトナレルニ付申告ヲ爲サスシテ通關スト  
申入レ船舶ノ「クリヤランス」ニ困難ヲ生シタルカ當方  
ヨリ軍ト協議ノ結果前記ノ通り決定セル次第ナリ(右協  
議ノ際敵ノ機關ニ申告ヲ爲スハ不都合ナリ等ノ議論アリ  
タルモ差當リ海關接收ヲ爲ササル中央ノ方針ナルニ付一

般商人カ輸入税ヲ支拂フハ當然ニシテ之ト區別付カサル物ニハ軍用品タルノ證明ヲ與フル必要アリトノ意見ニ落着キタル譯ナリ)

尙冒頭往電二分ノ一税ノ噂トカ右ノ經緯ヲ誤傳シテ總テ強制通關ヲ爲スコトトナレリトカノ噂ノ爲邦商方面ニモ相當不安ヲ與ヘタル模様ニ付九日商工會議所員ニ當方ヨリ説明セリ(右噂ノ爲大連等ヨリ無申告ニテ輸入ヲ計ラントスルモノアルヤノ聞込アル處是等火事泥式ノコトハ嚴禁スル方針ナリ)外商方面ニ於テモ日本軍占領ノ上ハ關稅ノ遞減ヲ見ルヘシトテ輸入ヲ差控ヘ居ルモノアリ物資缺乏ノ一因トナリ居レリ(スタンダード・オイル)ノ如キハ高税ヲ拂ヒテ輸入セル「ガソリン」ヲ免稅値段ニテ軍ニ納入シ將來新規輸入ノ場合關稅力減免セラルレハ損失トナルニ付此ノ點ノ保障ノ約束ヲ得サレハ納入セスト稱シ居ル趣ナリ)

## 二、鹽務

日本軍人カ英租界内ノ鹽務管理局長宅ニ赴キ接收ヲ爲シタルコトニ付テハ英國總領事ヨリ館員ニ對シ文句ヲ言ヒ居タル趣ナルカ八日英國司令官香月司令官ヲ來訪ノ際モ

之ニ言及シ日本軍人カ英租界内ニ於テ封印等ヲ爲ス等ノ行爲ハ不都合ナリト述ヘタル趣ニテ軍側ニテハ治安維持ノ委囑ニ依リ鄭副局長カ李局長ニ面會シ事務引繼ヲ受ケタルモノニシテ軍係官ハ萬一治安維持會側力不都合ノ行爲ヲ爲ササル様之二同行セルニ過キス封印ハ鄭力爲シタルモノニシテ印ヲ見ラレハ判ル筈ナリトノ趣旨ニテ回答ノ筈ナリ

尙鄭<sup>(3)</sup>ノ調査ノ結果鹽稅ノ殘金ハ六十二萬元位(七月中冀察及冀東ニ送金スヘキ分ヲ送金シ居ラサルニ依ル)ナル力之カ引出シハ困難ノ由但シ六月頃ヨリ製鹽期ノ關係上收入ナク銀行ヨリ借入シ居リ銀行トシテハ今治安維持會ニ新規貸出ヲ拒否セハ却テ舊債ノ返還ヲ受ケラレサルコトナルニ付多少ノ貸出ニハ應スヘシトノ見込ノ由

## 三、郵務及電報(部外祕)

軍側ニテ當方ノ往電第六九一號ノ如キ意見(治安維持會ノ權限ヲ通信事項ニ迄擴張スルハ疑問ナリトノ)ヲモ考慮シ接收ノ問題ハ軍政施行等ノ時機ニ至リタル上ノコトトシ差當リハ軍ノ必要トスル最小限度即チ通信檢閲又ハ遮斷ヲ行ヒ檢閲ヲ爲サシムル間ニ將來接收ノ場合ノ調査

準備ヲ爲サシメ度シトノ意見ニテ之ニ對シ當方ヨリ接收ノ可否及能否ハ別トシ檢閱スラ外國租界ニテ行フニハ共同檢閱ノ形ヲ採リ外國側ト合意スルヨリ外ナカルヘキ旨説明シ往電第七一四號ノ如キ措置ヲ取リタル次第ナリ尤モ共同檢閱スラ不可能トナリタル場合軍ヲシテ租界外ニ於ケル遮斷ニテ満足セシメ得ヘキヤ及終局ニ於テ接收ヲ斷念セシメ得ヘキヤハ目下ノ處見當付カス

尙郵便局員ハ七日以來總局ニ來ラス英租界内ニテ執務シ居リ郵便物ハ外國船ニテ運搬シ居ル模様ニシテ電報ハ有線ハ殆ト切斷セラレ居リ無線ニテ東京及上海方面ト通信シ居リ上海方面ハ通信充分ナラサルカ如シ

#### 四、電話(部外秘)

電話ニ付テモ軍側ハ英租界ノ第三局ニ派員監督シテ接收ノ準備ヲ爲サシメントノ意見ナルカ九日午前西田ヲ電話局長ノ許ニ派シタル際(日本租界當館等六箇所ニ電話ヲ引ク件ニテ)英國兵力立番シ居リ局員外ノ出入ヲ許サストテ西田ヲ追拂ヒタル程ニテ(本件ハ英國側ヘ抗議セリ)到底無斷ニテ電話局ニ派員スルコトハ困難ナルヘク右派員ハ監督ノ爲ニシテ電話傍聽ニ依ル通信檢閱ヲ考ヘ居ル

譯ニアラサルニ付共同檢閱ト言フ譯ニモ行カス成ルヘク軍側ヲ「デイスカレッジ」シ英租界電話局ニ實行派員スル等ノコトトナラサル様注意スル所存ナリ

尙電電ノ計畫中日本租界中央局ハ數箇月ヲ要スヘク之カ完成後モ三局(英租界)、四局(伊太利租界)トノ接續ノ方法ヲ技術及對租界關係上如何ニスヘキヤハ相當問題ナルヘシ

支、北平、上海ヘ轉電セリ

636 昭和12年8月10日

在北平森島大使館參事官より  
広田外務大臣宛(電報)

#### 北平市内常態に復し商店一斉開店の旨報告

北平 8月10日後發

本省 8月10日夜着

第六七二號

市内殆ト常態ニ復シ九日歸宅セシメタル邦人ハ何等事故ナク十日ヨリ一齊開店セリ尙西城外城方面居住者ハ尙一兩日引續キ收容ノ豫定

朝鮮總督ヘ轉電アリタシ



支、天津、上海へ轉電セリ

637

昭和12年8月11日

在天津堀内総領事より  
広田外務大臣宛(電報)

日本軍による電報および郵便の検閲問題につ  
き東京において英仏側と交渉ありたき旨請訓

天津 8月11日後発

本省 8月12日前着

第七三三號

往電第七三二號ニ關シ

軍力各國軍及領事館ノ無電等ヲ放置シテ公衆電報及一般郵便ノ檢閲ヲ固執スルハ稍神經過敏ノ嫌アルモ外國租界カ南京政府ノ通信機關ヲ存置セシメテ軍ノ行動及後方ノ安全ニ害アル通信ノ送達ヲ自由ナラシメ軍力此ノ有害ノ通信ト善意ノ通信トヲ區別シ前者ノミヲ阻止スルニ必要ナル措置ヲ講スルヲ認メサル以上軍トシテハ租界ヨリ外部ヘノ一切ノ通信ヲ遮斷スルモ或ハ已ムヲ得サル所ナルヤニ存セラル(此ノ場合一般公衆ノ不便ノ責任ハ我方ノミ負フ限りニ非スト主張スルモ無理ナラサルヘシ)

當方トシテハ往電第七三三號ノ三ノ如ク外國租界内ノ通信機關ノ接收等租界ト實力衝突ヲ來ス虞アル方法(十日以來英佛共郵便局電報局等ヲ軍隊及警察ヲ以テ物々シク保護シ居レリ)ヲ避ケ檢閲ノミテ満足スル様軍側ヲ説得シ來リタル次第ナルカ檢閲スラ外國側ノ態度樂觀ヲ許サル事情ナルニ付東京ニ於テモ英佛大使ニ對シ更ニ御交渉方御配慮ヲ煩シ度ク東京ニテ交渉セラルルヲ得ハ其ノ間軍ヲ待タスヘク何分ノ儀折返シ御回電アリ度ク又萬一先方カ飽迄檢閲ヲ拒否シ來リタル場合ハ當方トシテハ(一)軍ニ對シ暫ク此ノ儘放任シ置ク様説得スヘキヤ(二)租界外ニ於ケル遮斷ハ已ムヲ得ストナスヘキヤ(完全ナル遮斷ノ爲ニハ電線切斷郵囊出。界。等ノミナラス無電ノ妨碍郵便物ヲ租界埠頭ヨリ搬出スル外國船ノ檢査等モ必要トスルヘシ)何分ノ儀併セテ御回電アリ度シ(一)ノ場合ニハ其ノ旨軍中央ヨリモ電報セシメラレ度シ尙外國租界内ニ於ケル實力行使回避方ニ付テモ軍中央ヨリ電報セシメラル、方安全ト存ス

支、北平、上海へ轉電セリ

昭和12年8月12日

## 陸軍省作成の「北支政務指導要綱」

## 北支政務指導要綱

## 其一、方針

一、北支政務指導ノ要ハ作戰地後方地域(冀東ヲ含ム以下同シ)ニ於ケル各般ノ政務事項ヲ統合指導シ該地域ヲシテ日滿提携共榮實現ノ基礎タラシムルニアリ

## 其二、要領

一、政務指導各般ノ處理ハ嚴ニ敵國占領ノ精神ヨリ脱却シ將來ノ長計ヲ考慮シ地方固有ノ社會組織並習俗ハ成ルヘク之ヲ存置善導スルコトニ努メ且軍隊對住民ノ關係ハ特ニ之ヲ圓滑ニ調整スルモノトス

二、作戰地後方地域ノ政治機關ハ住民ノ自主的發生ニ基クモノトシ其機構運營亦住民ノ積極的參贊ニ據ル

冀東政權ハ特ニ其内部ヲ刷新合理化スルモノトス

三、前項地域ノ經濟開發ハ差當リ冀東地區ヲ主トシ冀東政權ヲ內面的ニ指導シテ之ヲ行フ

而シテ經濟開發實施ノ爲ニハ成ルヘク興中公司ヲシテ直

接實行若ハ調整ニ當ラシムルモノトス

經濟開發ニ關スル具體的事項ハ別ニ連絡ス

四、現地ノ明朗化ヲ妨害スル不良分子(浮浪人排日及共產分子等)ハ何レノ國籍人タルヲ問ハス之カ徹底的整理ノ手段ヲ講シ速ニ之ヲ實施スルモノトス

之カ實施ハ軍内諸機關、外務官憲及支那側機關相互ノ協力ニ依ル

五、住民ノ爲文化的諸施設就中保健醫療施設ノ普及ニ關シ所要ノ措置ヲ講スルモノトス

639

昭和12年8月15日

在天津堀内総領事より  
広田外務大臣宛(電報)

## 外国租界への戒嚴・軍政適用につき方針指示方請訓

天津 8月15日後発

本省 8月15日夜着

第七五五號(部外祕)

<sup>(1)</sup>支那側及特區ニ於テハ軍及軍ノ指導スル治安維持會治安ノ維持ニ當リ居リ租界内(租界外居住邦人ニ付テモ特ニ軍ノ必要アルモノノ外ハ同様)ハ成ルヘク領事館警察ヲ以テス

ルコトニ軍側ト打合セ居ル處目下外國租界カ一種ノ戒嚴狀態ニ在ルコトハ既電ノ通りニシテ今後事態ノ如何ニ依リ租界ニ於ケル戒嚴實施ノ問題ヲモ生スル處アリ又軍側ニテハ戰線南下ノ場合ニハ軍(政)ヲモ考慮シ居ルコト既電ノ通りナルヲ以テ戒嚴又ハ軍政施行ノ場合日本租界ニ對スル領事官ノ行政權、裁判權及租界外邦人ノ地位等ニ付豫メ方針ヲ確立シ置クノ必要アリト存セラル即チ

## 一、戒嚴

(一)戒嚴令(明治十五年太政官布告)ハ屬地のニ日本領土内ニ於テノミ適用アルモノト解スヘキヤ

(二)戒嚴令ニ依ル戒嚴力支那ニ於テモ可能ナリトスルモ本來日本憲法及法律等ヲ以テ定メラレタル通常ノ行政及司法上ノ事務ヲ停止スルヲ目的トスルモノナルヲ以テ租界内ニ於テノミ其ノ適用アルニアラサルカ(租界外ニ於テハ邦人ニ對スル屬人的ノ日本ノ行政及司法權ヲ停止スル爲ノミニ戒嚴ノ意義アリトモ解セラル)

(三)戒嚴ノ宣告ニ依リ軍ニ關係アル(第九條)又ハ一切ノ(第十條)領事官ノ地方行政事務及司法事務ハ戒嚴司令官ノ手ニ移ルモ第十條ノ場合ト雖地方行政及司法事務

以外ノ領事ノ權限ニ屬スル事項ハ影響ヲ受ケスト解シ然ルヘキヤ

## 二、軍政<sup>(2)</sup>

(一)軍政ハ敵國行政下ニ在リシ占領地ニ施行セラルルモノナルヲ以テ假令平津地方一帯ニ軍政施行セラルルカ如キ場合ニ於テモ列國行政下ニ在ル外國租界ニハ軍政ハ行ハレス又日本租界ニ付テモ領事館ノ權限ニ何等變化ナキモノト解シ然ルヘキヤ

(二)尤モ租界内ノ支那人ハ平時ヨリ支那ノ法律ニ服シ居ルモノナルヲ以テ右支那ノ法律力軍律ニ依リ變更セラルル限度ニ於テ軍政ノ效果カ租界内支那人ニ及フモノト解スヘキヤ

(三)租界外ニ在ル邦人ノ地位如何

(イ)軍政ノ屬地性ニ依リ軍政ニ服スルコトナルカ或ハ平時治外法權ノ效果トシテ日本ノ行政權ニ服シ居ル範圍ニ於テハ依然領事官ノ行政權ニ服スルヤ

(ロ)裁判權ニ付テモ同様ノ問題ヲ生スルカ如何

以上ノ如キ各點ハ何時直ニ實現ノ問題トナルヤモ測リ難ク且現ニ租界外ノ邦人ノ犯罪ノ處理等ニ付テハ軍側トノ間ニ

(脱?)旨話合ヲ爲シ居ル次第二モアリ至急本省ノ御意嚮承知致度シ

支、北平、上海、青島へ轉電セリ

640 昭和12年8月15日 在天津堀内総領事より  
広田外務大臣宛(電報)

外国租界への戒嚴・軍政適用方針設定に当たつての留意点について

天津 8月15日後発  
本省 8月15日夜着

第七五六號(部外秘)

往電第七五五號ニ關シ

本件ハ未タ軍側ト協議シタル次第二アラス御回訓ヲ得タル上ニテ篤ト協議シ置ク所存ナルモ出先軍側トシテハ軍ニ於テ萬事ヲ爲スヘク租界行政權及領事裁判權ノ如キハ當然停止セラルル位ニ考ヘ居ル向モ鮮カラサル模様ナルニ付方針御決定ノ上ハ東京ニ於テ一應軍側ト御協議相成リ置カルル様御配慮煩度シ

尙主義上ノ問題ノミヲ主張シ實效之ニ伴ハサルカ如キコト

アラハ到底軍側ヲ納得セシメ得サル次第二付同時ニ領事館(警察及司法領事關係ヲ含ム)ノ増強殊ニ往電第六三五號末段警察官ノ募集ノ實現性ノ有無ヲモ考慮セラレタル上方針ヲ御決定相成様致度シ

支、北平、上海、青島へ轉電セリ

641 昭和12年8月17日 在天津堀内総領事より  
広田外務大臣宛(電報)

天津治安維持会の活動状況報告

天津 8月17日後発  
本省 8月18日前着

第七六九號

中央軍天津奪回ノ流言アル爲人心何トナク不安氣分ヲ脱スル<sup>(1)</sup>ニ至ラサルモ其ノ後治安維持會ノ警備ノ充實、交通ノ復舊工作、救護事業ノ進捗等ニ伴ヒ着々安定ニ向ヒ居リ殊ニ近ク下記ノ軍斡旋ノ維持會ノ百萬圓政費借款成立ヲ見ハ之ヲ以テ治安維持會モ愈本格的活動ヲ爲スヘシト認メラル維持會其ノ後ノ經過等左ノ通り

一、社會局長ニ紐傳善<sup>(兼)</sup>就任王竹林ハ鹽務管理局長竝ニ物資對

策委員會委員長專任(十日)

一、地方法院復舊整備策考究(同日)

一、商品檢驗處(職員逃亡シ居レリ)ノ復活(十一日)

註、商品檢驗處ハ主義上容認ノ限リニアラサル制度ニ屬ス  
一方大体收入本位ニシテ商取引上無益ノ施設ナルカ故ニ  
當方トシテハ之カ管理ニハ異存ナキモ棉花ノ水氣検査等  
通商ノ實際上必要ナル制度ニ關シ治安維持會トシテ特定  
機關ヲ設ケシムルコト、致度ク軍側ト協議中ナルモ軍側  
ニテハ一應回復ノ上修正ヲ考慮スヘシト申シ居レリ

一、營業稅ノ廢止

營業稅ハ收入トシテモ少ク又小資本業者ヲ壓迫スルコ  
ト甚タシキカ故ニ廢止セラレタル由(同日)

(2) 一、水上公安局ノ編成完了、公安局ヘ隸屬セシム(同日)

一、天津特務機關將校ノ顧問就任(監督指導ヲ目的トシ維持  
會會議關係ハ永嶺中佐、總務局ハ永嶺中佐、公安局ハ池  
上少佐、財政局ハ井戸垣少佐、社會局ハ多喜少佐、衛生  
局ハオウスズ大尉(十二日)

一、三民主義反對布告及各學校ニ對スル三民主義及國民黨義  
禁止令發出方決定(同日)

一、避難民收容所ノ閉鎖

一萬五千ニ達セル避難民ハ數百名ニ激減シ且收容所ノ必  
要ヲ感セサルニ至レリ(同日)

一、菸酒印花局及統稅局ノ處置ハ北平トノ關係アルニ依リ研  
究方決定(同日)

一、英租界在庫食料搬出方交渉成立

英租界ニテハ麥粉六十萬袋及白米十萬包等ノ在庫食料ノ  
租界外持出ヲ禁シ居リタルカ維持會ニ於テ交渉ノ結果同  
租界引當トシテ麥粉三萬袋、白米一萬包ヲ殘シ其ノ他ハ  
同租界持出ヲ承諾セリ右ニ依リ一時急迫セル食糧問題ノ  
ミハ緩和セリ(同日)

(3) 一、牙稅徵收方決定(十四日)

一、鮮銀百萬圓借款

軍ニテハ現ニ維持會カ未タ舊市政ヲ回復スルニ至ラサル  
爲何等收入ナク近ク收入ヲ復舊スルコトモ至難ト認メ維  
持會當座ノ經費ニ充ツル爲鮮銀ヨリ百萬圓借款セシムル  
コトニ內定シ中央ニ具申セル處今回中央ヨリ本件借款ハ  
興中公司ヲシテ之ニ當ラシムルノ方針ノ下ニ軍、鮮銀、  
興中公司及維持會ノ四者カ細目ノ協定ヲ行ヒ差支ナシト

ノ回訓アリタル由ニテ興中公司ニテハ前記鹽務管理局局長  
王竹林ヲ相手ニ鹽稅擔保ニテ借款契約ヲ結ヒ度キ意嚮ニ  
テ目下交渉中ナリ(本項極秘)

(註、維持會當局ハ未タ此ノ議ヲ知ラス同當局トシテハ  
事變直前迄天津市ハ大體六百數十萬元ノ收入アリ右ノ内  
七十五萬元丈ケ中央ヘ送金シ居リタルカ右收入ノ大宗ハ  
田房契稅、營業稅、牙稅、屠殺稅、菸酒牌照稅、房舖捐  
ニシテ此ノ税金ハ營業ノ復舊ヲ見サレハ到底取立ツルコ  
ト能ハス假ニ取立テ得ルトスルモ本年度ハ百萬元モ六ケ  
數カルヘシ此ノ際トシテハ鹽稅等ヲ擔保トシ日支何レヲ  
問ハス相談シ得ル者ヨリ借入ヲ行フ外ナシト言ヒ居レ  
リ)(同日)

尙軍側ニテハ鹽務管理局ヨリ鄧沽鹽田稅警カ天津事件ノ際  
二十九軍ト共ニ逃亡セル爲直後該地方ハ產鹽ノ強奪行ハレ  
居ルニ付右取締方要請アリタルニ付十二日特務機關治安部  
ハ約百名ノ警戒兵ノ編制ヲ完了現地ヘ派遣セリ  
上海、北平、青島、滿ヘ轉電セリ

642

昭和12年8月20日 在天津堀内総領事より  
広田外務大臣宛(電報)

# 華北占領地域での第三国人の治安攪乱や間諜 行為に対する当面の対処方針訓詁

天津 8月20日後発  
本省 8月20日夜着

## 第七八六號

日支間ニ於テハ未タ外交關係ノ斷絶ヲ見ルニ至ラス又全面  
的宣戰ノ布告モ行ハレ居ラサル過渡的事態ナルニ鑑ミ北支  
占領地域ニ對スル占領地行政方針確立スルニ至ル迄差當リ  
第三國人ニ對シテハ左ノ如ク措置スルモノト存ス(但シ租  
界外ナルコトヲ要ス)

(一)軍ニ對シ直接危害ヲ與フル行爲ニ對シテハ軍ニ於テ左ノ  
如ク處理ス

(イ)軍ニ對スル加害行爲又ハ間諜行爲ヲ現ニ爲シツツアル  
者ニ對シテハ其ノ場ニ於テ右行動ヲ阻止スルニ必要ナル  
措置ヲ講シ得ルモノトス

(ロ)軍ニ對スル加害行爲又ハ間諜行爲ヲ爲サントシツツアル  
者アルトキハ確實ナル證據ヲ得ルニ努メタル上之ヲ

抑留ス

(イ)及(ロ)場合ニ於テ抑留セラレタル者ハ差當リ治外法權國人ハ所屬國領事ニ引渡シ又非治外法權國人ヲ支那裁判所ニ引渡シ之ヲ處置セシム

(二)治安ヲ案シ又ハ案サントスルノ行爲アル者例ヘハ反日又ハ共產黨運動ニ従事セル者ハ治安維持會ヲシテ布告ヲ發セシメ支那警察官ヲシテ取押ヘタル上非治外法權國人ハ支那裁判所ヲシテ處罰セシメ治外法權國人ハ所屬國領事ニ引渡シ處置セシム

注意事項

右措置ノ實施ニ當リテハ外交問題トナレル場合我方ノ立場ヲ有利ナラシムルコト緊要ナルニ鑑ミ出來得ル限り確實ナル證據ニ基クコトトシ必要アル場合相手國側ニ其ノ實證ヲ提示シ得ル様努力シ置クヘシ

上海、北平ヘ轉電セリ

~~~~~

643

昭和12年 8月21日

在天津堀内総領事より
広田外務大臣宛(電報)

軍が新たに地方政權樹立を企図しつつある中

で治安維持会の活動は警察・救済・宣撫事項
などに限定すべき旨意見具申

天津 8月21日後発
本省 8月21日後着

第七九八號

貴電⁽¹⁾第二八五號ニ關シ(軍政施行ノ問題)

一、治安維持會ハ往電第七六九號乃至往電第七八〇號ノ通り
特務機關ノ指導ニ依リ漸次警察、救済、宣撫等ノ事業ヲ
進メツツアルモ同時ニ

(一)軍トシテ軍事上必要ノ措置ニシテ軍力占領地行政ノ態
度ヲ明カナラシメサル限り軍自ラ表面ニ立ツヲ憚ルモ
ノヲ同會ヲシテ爲サシメントスル傾向アリ(例ヘハ通
信機關ノ接收ノ如キ又第三國人業(務)取締ノ如キ)

(二)治安維持會カ北平及天津ノ地方的組織ナル爲之ヲシテ
爲サシムルハ如何ニモ無理ナル事項アリ(例ヘハ鹽務
管理局長、法院長、海關監督等ノ任命ノ如キ又ハ幣制
關係事項ノ如キ)是等工作ノ爲ニハ冀察政務委員會ヲ
形丈ケニテモ存置スルヲ可トスルモ考ヘラレタルモ軍
司令部内ニハ同委員會ハ存置セシムヘカラストノ意見

モ聞ク(其ノ點ハ北平軍側トハ意見多少相違アリタルカ如シ)今や冀察ニ活ヲ入ルルハ大勢上困難ト認メラレ勢ヒ是等ノ工作ノ爲治安維持會ノ任務ヲ不當ニ擴大シテ政權化スルカ別ニ何等カノ北支政權ヲ作ラントスル傾向ヲ生シツツアリ

(三)⁽²⁾一面ニハ華北人ノ華北ナル標語ヲ以テ或種團體ヲシテ治安維持會ヲ支持セシムルノ工作行ハレ居リ又此ノ間ニ失業老政客連ノ動向ニモ注意ヲ要スルモノアリ復僻運動ノ噂サヘ耳ニセサルニアラス

二、依テ貴電ノ如ク今後ノ日支關係ノ全面的調整ヲ考慮シテ地方政權ノ樹立ノ如キ傾向ヲ避クヘシトセハ治安維持會ナル構成自體カ既ニ多分ニ滿洲の傾向ヲ有スルコトニ留意シ同會ノ活動ヲ其ノ本來ノ任務即チ警察等ニ關スル地方的事項ニ限定スルコト肝要ナルヘク之カ爲ニハ何人モ軍事上必要ナリト認ムル措置ハ一時的ニ絕對必要ナル最小限度ヲ軍自ラ爲スコトトシ治安維持會ヲシテ爲サシムレハ軍ノ必要以上ニ相當ナ事ヲシテモ可ナリトノ考ヲ棄テ前記海關監督、法院長等ノ如キ逃出シタル者ハ治安維持會等ヲシテ任命セシムトスルモ(占領地ノ安寧維持ノ

義務ヨリ軍自ラ任命スルモ差支ナシト存スルモ)是等機關ヲ治安維持會ニ隸屬セシメス獨立ノ機關トシテ之ヲ必要ノ限度ニ於テ軍カ成ルヘク內面的ニ「コントロール」スルノ形ヲ取ルコト然ルヘシ(現ニ北寧鐵路ノ如キ其ノ儘存在シ軍ノ鐵道監部[。]及滿鐵員カ事實上之ヲ「コントロール」シ居ルモ何人モ之ヲ當然視シ居レリ)

三、⁽³⁾貴電ノ如ク軍政施行ヲ飽迄避ケントスル御趣旨ハ軍政施行又ハ一定區域ノ占領ヲ宣言スルコトノ對外關係ニ及ホス影響ヲ顧慮セラルル結果ト存スルモ前記ノ如キ建前ノ軍ノ措置ハ必スシモ總括的ノ軍政宣言ヲ要スル次第ニアラス事實上日本軍カ後方ノ安全ヲ確保スルニ要スル當然ノ措置トシテ又ハ支那側機關ノ離散セル地域ノ安寧秩序ヲ確保スルノ義務ニ基クモノトシテ個々ノ措置ニ付布告又ハ「コミユニケ」等ヲ發シ行ケハ外國側等ヲモ納得セシメ得ヘク戰局中支ニモ發展シタル今日殊ニ北支ニ於テ第二段ノ作戰ニ移リタル上ハ假令此ノ種ノ事ヲ言明シタルトスルモ事態擴大ノ責ヲ我方ニ歸シ又ハ我方ノ侵略的意圖ヲ宣傳セラルル心配ハナカルヘク寧口治安維持會ノ活動範圍ヲ最小限度ニ局限シ居ル事實ト相俟テ却テ我方

カ第二ノ滿洲國ノ如キ既成事實ヲ作ル下心アルカノ如キ
疑念ヲ解消セシムル所以ナリト存ス

軍ハ近ク喜多少將ノ著津ノ上ハ特務部ヲ設クル計畫ニシテ
夫レト同時ニ此ノ邊ノ方針ヲ決定スルモノト解セラレ又今
後各般ノ問題ノ處理上一々問題トナル點ニモアリ右ニ對ス
ル貴見爲念今一應至急御回電ヲ請フ
上海、北平へ轉電セリ

~~~~~

644 昭和12年8月21日 在天津堀内総領事より  
広田外務大臣宛(電報)

平津方面第三国人に対し前線周辺への移動自  
粛を求める旨領事団へ通報について

別 電 昭和十二年八月二十一日発在天津堀内総領事

より広田外務大臣宛第八〇五号

右通報

天津 8月21日後発  
本省 8月21日夜着

第八〇四號

本官發北平宛電報

第六〇號

軍ヨリノ依頼ニ依リ別電第六一號ノ趣旨ヲ二十一日首席領  
事ヲ通シ領事團ニ通報セル處右ハ獨流鎮、長辛店、南口等  
各方面ヲ含ム趣旨ナルニ付テハ貴方ニ於テモ同様通報方然  
ルヘク御取計相成度シ

本電別電ト共ニ大臣、上海へ轉電セリ

(別 電)

天津 8月21日後発  
本省 8月21日夜着

第八〇五號

本官發北平宛電報

No. 61.

I have the honour to request You inform colleagues  
that Japanese military authorities think it inadvisable for  
foreign residents Tientsin Peiping to go to far out these  
cities towards vicinity Japanese front lines in view of  
danger prevailing in these zones.

Japanese military can not hold themselves responsible

for any mishaps which foreigners may be involved, in case they have disregarded abovementioned advice.



645 昭和12年 8月24日

在上海岡本総領事より  
広田外務大臣宛(電報)

虹口・楊樹浦方面における行政権は軍事的必  
要の許す限り工部局に任せるよう軍側へ説示  
について

上海 8月24日後発  
本省 8月24日夜着

第一〇八八號(部外極秘)

往電第一〇八三號前段ニ關シ

二十四日楠本大佐ハ館員ニ對シ今後戰鬭ノ中心ハ次第二租界ヨリ離レ虹口、楊樹浦方面モ漸次常態ニ復シ來ルニ連レ同方面ニ外支人カ復歸シ來ルヘク又斯クシテ我軍ノ後方ニ於ケル經濟活動ヲ順調ナラシムルコトハ作戰上ヨリモ必要ナル處同方面ノ警察其ノ他行政機構ヲ如何スヘキヤ領事館ニ於テ研究アリ度キ旨述ヘタルヲ以テ館員ヨリ先般來ノ工部局警察(以下S・M・Pト稱ス)ノ撤退ニ際シ之ヲ機會ニ

我方ニ於テ行政權ヲ接收スヘシトノ議論モアリタルカ支那トノ約束ニ基カスシテ我方ノ專管行政ヲ施行スルコトハ理由ナク又斯ル意圖ヲ知ラシムルコトハ政策的ニモ不可ナリ依テ我方トシテハ矢張り工部局ノ行政權ヲ認ムル建前ヲ持シ一般警察ニ付テモ我方ハ工部局ヲ督勵スル態度ニ出テ唯我方ノ軍事的必要(軍事警察ヲ含ム)ニ關スル限り支那人及非治外法權外國人ニ對スル或程度ノ權力ヲ行使スルコト然ルヘキ旨説明セル處

同大佐ハ之ヲ諒トシ唯憲兵隊モ手不足ナレハ(イ)領事館警察ヲ強化スルコト並ニ(ロ)工部局外人警察官及外人義勇隊員ハ餘リ好マサル旨述ヘタルヲ以テ(イ)ニ付テハ既ニ手配中ナルカ元來屬人的行政權ノミ有スルモノナレハ外支人ニ對スル行政ハ矢張りS・M・Pニ委ヌル外ナク(ロ)ニ付テハ義勇隊ハ必要ナカルヘキモ外人警察官ハ特ニ楊樹浦方面外國人財産保護ノ爲一概ニ之ヲ排除シ得サルヘキモS・M・P日本隊ノ強化ハ考慮ニ値スル旨述ヘ置キタル趣ナリ

陸軍側ニ對シテハ右ノ如ク應酬セシメ置ケルモ工部局殊ニS・M・Pニ對シテハ冒頭往電本官ノ「ボーン」ニ對スル應酬振ノ「ライン」ニ依リ先方ノ我儘ヲ許サス適宜我方ノ

強硬ナル態度ヲ仄カシツ、日本隊ノ強化等ノ措置ヲ容認セシムル意嚮ナリ不取敢

646

昭和12年 8月25日

在上海岡本総領事より  
広田外務大臣宛(電報)

蘇州河以北の租界内の治安維持工作に關し陸

軍側が方針案提示について

別電一 昭和十二年八月二十五日發在上海岡本総領事

より広田外務大臣宛第一一一六号

右方針案

二 昭和十二年八月二十五日發在上海岡本総領事

より広田外務大臣宛第一一一七号

避難外国人の復歸取締に關するわが方布告案

上海 8月25日後發

本省 8月25日夜着

第一一一五號

往電第一〇八八號ニ關シ

二十五日楠本大佐ヨリ別電第一一一六號ノ如キ治安維持工作方針ニ付當方及海軍側ノ意嚮ヲ徴シ來レルヲ以テ(一)ハ極

力之カ達成ヲ圖ルモ漸進主義ニ依ル要アリ(二)ハ異存ナク工部局ニモ其ノ旨通スヘシ(三)ニ付テハ憲兵及陸戰隊ノ任務ハ(二)ノ通りトシ海軍側ハ當分陸戰隊ヲ警察用ニ用フル餘力ナキヲ以テ憲兵隊ノ増派ヲ實現スルコト然ルヘシ(四)ハ早速手配スヘシ(往電第一〇八八號)(五)ハ領事館警察ノ増強ニ伴ヒ分駐ヲ考慮スヘシ(六)ニ付テハ艦隊長官ヨリ別電第一一一七號ノ趣旨ニテ布告ヲ發スルコトニ打合セタリ

(別電一)

上海 8月25日後發

本省 8月25日夜着

第一一一六號

(一)蘇州河以北ノ租界内ノS・M・P署長ヲ此ノ際日本人ト

シ且日本隊ヲ増強ス

(二)右租界内ノ治安維持ハS・M・Pノ任スル所ナルカ軍ハ

作戰ニ關係アリト認ムル事項ニ對シ必要ノ措置ヲ執ル之

カ爲各署要スレハ各派出所ニ憲兵ヲ立會ハシム

(三)憲兵ハ陸戰隊ト協力シテ租界内ノ治安維持ニ任ス

(四)在留民ノ復興以前ニ内地ヨリ渡來スル者ノ防止策(渡航

許可證發給)

(五)北四川路、越界路區方面ニ復歸スル日本人ノ取締(領事館警察ノ増強)

(六)避難外支人ノ復歸取締

(別電二)

第一一七號

上海 8月25日後發  
本省 8月25日夜着

我軍事行動ノ進展ニ伴ヒ楊樹浦、虹口方面ニ潛入シ來レル者又ハ同方面ノ住民ニシテ避難地ヨリ漸次原住地ニ復歸セントスル者アル處未タ同方面ノ治安回復充分ナラサルヲ以テ追テ禁令ヲ解除スル迄當分ノ間支那人ノ潛入復歸ヲ禁止ス外國人住民ハ我軍ノ治安工作ヲ了解シ前記期間ニ於テハ自發的ニ同方面潛入復歸ヲ見合サンコトヲ期待ス

~~~~~

647

昭和12年8月27日
在天津堀内総領事より
広田外務大臣宛(電報)

上海から来津した塩務総局ボードの長蘆塩管

理局の現状をめぐる活動振り報告

天津 8月27日後發
本省 8月27日夜着

第八二九號

(一)⁽¹⁾上海ノ財政部鹽務總局佛國人「ボード」十八日本官ヲ來訪シ長蘆鹽管理局ヨリ二月ヨリ七月迄南京ヘ送金ナキニ付此ノ期間ニ於ケル宋哲元政權ニ支給セル鹽稅ノ帳簿ヲ檢査スル爲來津セル旨ヲ述ヘタルニ付右ハ我方ニ關係ナキコトナルモ御希望ナラハ便宜ヲ供與スヘキ旨ヲ答ヘ置キタルカ其ノ際「ボ」ハ來津ノ主タル目的ニアラサルモ天津事件後ノ管理局ノ狀況ハ何トカ解決ノ方法ナカルヘキヤト言ヒタルニ依リ天津及太沽鹽田方面ニ於ケル擾亂ノ結果責任當局ナクナリタルニ付天津及其ノ附近ノ治安維持ノ爲ニ組織セラレタル治安維持會カ鹽務ノ利益保全ノ爲必要ナル措置ヲ執リ居ル旨聞及ヒ居ルモ直接日本當局ノ關係スル所ニアラサルヲ以テ本問題ニ付當方ニ申出テラルル筋筋ニアラサルヘク且今ハ本件ノ解決ヲ計ル時機ニアラサルヘシト答ヘ置ケリ

(二)「ボ」ハ廿四日附ヲ以テ領事團首席ニ對シ「本職ノ調査

ニ依レハ天津管理局ハ日本軍ノ手ニ移リ大部分ノ職員ニハ變更ナキモ治安維持會ノ名ニ於テ一切ノ命令ヲ出シツツアリ新ニ若干ノ日本人ヲ任命シ支那銀行ニ在ル稅收ヲ抑留シ朝鮮銀行ニ當座ヲ設ケタリ自分ヨリ日本領事ニ「デマルシユ」ヲ爲シタルモ容レラレス堀内總領事ハ目下日本軍當局ト交渉ヲ爲ス時機ニアラスト述ヘタリ依テ自分ハ上海總局ニ報告スルト共ニ出來得ルナラハ支那當局ヨリ外交手段ニ依リ日本政府ニ對シ鹽稅收入ハ外債ノ擔保ニ供セラレタル國稅ニシテ斯ノ如ク沒收セラルヘキニアラサル旨ヲ申入ルル様「サジエスト」セリ天津領事團首席ハ自分ノ口頭申入ヲ「テイクノート」セラレタリ尙堀内總領事ハ外債擔保部分ハ尊重セラルヘキ旨ヲ言明セラレタルコトヲ附言ス」トノ覺書ヲ提出シ領事團回章ニ附セラレタリ

(三)⁽²⁾二十五日附ヲ以テ「ボ」ヨリ本官ニ對シ十八日ノ會談ノ「コンファメイシヨン」ナリトテ「現下ノ事態ノ對策ヲ責任當局ト協議方ヲ申出テ第三國銀行ニ稅收ヲ預金スルモ一案ナルヘキコトヲ申出テタルニ對シ貴總領事ヨリ軍當局ト會談スル時機ニアラスト述ヘラレタルヤ自分ノ責

任上日本軍ノ占領及其ノ後ニ於テ長蘆鹽管理局ニ對シ執ラレタル措置ニ付留保ヲ表明セル」旨ノ覺書ヲ送付越セルニ依リ二十七日附ヲ以テ十八日ノ會談ハ前記(一)ノ通りニシテ右覺書ヲ領事團首席ニ對スル覺書モ十八日會談ノ内容ト相違スルニ付訂正ヲ要求スル旨回答シ右寫ヲ「ボ」ノ本官ニ對スル來翰ト共ニ領事團首席ニ送付シ置キタリ

(四)尙「ボ」ハ二十六日萩原ヲ來訪シ鹽稅收入二千九百萬元中冀察ニ拂ハレ居タル一千八百萬元ハ冀察ノ解消セル今日鹽務總局トシテハ新ナル手續ヲ經スシテ他ノ用途ニ供セラルルコトヲ認メ難キ次第ナルモ現狀ハ如何トモ仕方ナキニ付治安維持會ノ任命シタル王竹林ヲ管理局長ニ任命シ前記一千八百萬元ヲ治安維持會ニ支拂フコトスル外ナカルヘク南京ノ意見ヲ徵シ見ルモ可ナリト述ヘ居タル趣ナルカ軍側ト協議ノ結果二十七日萩原ヨリスノ如キ措置ハ今更不可能ナルヘキ旨ヲ回答セシメ置キタリ右「ボ」ノ申出ノ「ライン」ニテ交渉スルコト或ハ對外關係上望マシキニアラスヤト考ヘタルモ軍側ハ海關ハ條約上其ノ機構統一ヲ保障シ居ルヲ以テ南京政府ノ機關ヲ

認ムル外ナキモ鹽務ニ關シテハ外債擔保部分ノ送金サヘ
爲セハ其ノ他ノ事項ニ付南京ノ命令ヲ北支ニ認ムル要ナ
シトノ意嚮ナリ

上海、北平へ轉電セリ



648

昭和12年8月27日

在天津堀内総領事より
広田外務大臣宛(電報)

郵政業務の再開や邦人顧問の採用方針など天

津市政の現状に關し報告

天津 8月27日後発

本省 8月27日夜着

第八三二號

往電第八一四號ニ關シ

一、警察局ノ市内一齊檢索實施

天津市警察局ハ八月二十三日管轄地域全般ニ亘リ一齊檢
索ヲ行ヒ主トシテ隱匿武器ノ押收ニ努メタル處押收品ハ
僅少ナリシ趣ナリ右ハ檢索方法ノ適切ナラサリシコト一
因ナルヘキモ事實敗殘兵等ノ武器ハ殆ト郊外部落ニ埋藏
セラレ居ルモノ如ク市内ノ檢索ヨリモ天津郊外ノ村落

ノ肅正ヲ必要トスル模様ナリ

一、天津縣政ノ指導

特務機關ヨリ指導官ヲ入レ縣政ノ指導ニ當ラシム

一、新聞檢驗處改名

新聞檢驗處ハ之ヲ新聞管理處ト改名シ單ニ檢閱ノミナラ

ス指導ヲモ行フコトナレリ

一、郵政業務ノ開始

既報ノ通り八月二十三日ヨリ日本軍部ノ通信檢閱ノ下ニ

東站郵政總局ハ開局シ二十四日支那街所在ノ各支局モ一

部ヲ除キ業務ヲ開始セリ

一、天津防水調査

既報ノ各關係者ノ共同現地調査ノ結果目下ノ處天津外圍
ノ大堰堤ノ一部其ノ他ノ應急補修ニ依リ洪水ハ避ケ得ラ
ルル見込ナリ

一、邦人ノ顧問及職員採用方針

(一)極メテ少數ノ邦人顧問ヲ樞要部門ニ配置シ重要事項ハ

總テ顧問ノ同意ヲ得テ決定セシム

(二)右顧問等ニハ軍、滿鐵等ノ所屬者ヲ當ツ就テハ支那側
ヨリハ報酬ヲ受ケシメス但シ通譯其ノ他下級職員ハ此

ノ限りニアラス

尙天津市ノ治安ハ概ネ舊態ニ復セリ就テハ八月末ニハ治安維持會ヲ市政府ト改稱シ平常ノ行政機構ニ戻ス様議ヲ進メツ、アル模様ナリ

上海、北平、滿、青島ヘ轉電セリ

~~~~~

649

昭和12年 8月29日

在天津堀内総領事より  
広田外務大臣宛(電報)

日本軍による天津英租界内での英国人殴打事件発生のため日本軍の租界通過を自発的に中止する旨英仏両領事へ通報について

天津 8月29日後発

本省 8月30日前着

第八四九號

(一)<sup>(1)</sup>英國租界ノ武装軍隊通過ハ平常ヨリ豫メ租界當局ニ通告許諾ノ上ニテ爲スコトナリ居リ(本來ハ總領事ノ許諾ヲ求ムル建前ナルモ我方ニテハ客年來日本軍當局ヨリ英國警察署長ニ直接通告其ノ許諾ヲ得ルヲ以テ足ルコトニ打合セ居レリ)天津及附近ニ於ケル敵對行爲發生後ハ一

定ノ通過經路ヲ定メ居レル處最近太沽ニ上陸陸路白河右岸ニ沿ヒ天津ニ來ル部隊及裝備竝ニ食糧ノ増加及特一區部隊駐屯ニ伴ヒ特一區ヨリ英佛租界ヲ通過シ日本租界及支那街トノ間ヲ往復スル部隊頓ニ増加シ其ノ間通過手續ノ不履行、數町ニ亘ル長列部隊ニ依ル交通妨害、兵卒ノ拳銃誤發事件(本件別電ス)、軍用「トラック」ノ速<sup>(2)</sup>(力)超過及是等ニ伴フ事故頻發シ英字紙等ニモ是等事故ニ付屢非難的記事掲載セラレ皇軍ニ對スル反感ヲ起スカ如キ事態現出ノ惧アルニ至レリ

(二)右ニ關シ二十三日英國總領事本官ヲ來訪シ外國軍隊ノ英國租界通過ハ元々已ムヲ得サル特殊ノ場合ニ限ル趣旨ナリシニ拘ラストテ前記(一)後段狀況ヲ縷述シ斯ル狀態ノ繼續ハ日本軍カ英國租界ヲ交通路トシテ使用シ居ルモノト見ル外ナク右ハ英國ノ中立態度ニ牴觸スルコトナリ此ノ上容認シ難キニ付日本軍當局ニ對シ例外的ノ場合ヲ除キ租界ヲ通路ニ使用セサル様勸告アリ度ク又通過ノ許可權モ從來ノ如ク警察署長ニ一任シ置キ難キニ付自分又ハ總領事館幹部ノ許可ヲ得ルコトトセサルヲ得ス且四時間以前ニ通過スヘキ軍隊ノ正確ナル數ヲ書面ニテ申入ル

ルコトトセラレ度キ旨ヲ申入レ來レリ(後刻右趣旨ノ「エードメモアル」ヲ送り來レリ)

(三)右ニ對シ直ニ軍トモ話合ノ上二十七日英國總領事本官ヲ再ヒ來訪ノ際先ツ本官ヨリ口ヲ切り過日御申入ノ如キ軍ノ通過ハ極メテ短期間ニ過キスト期待シ居ルコト(軍ニテハ大體八月一杯ニ輸送ヲ終ル旨述ヘ居タリ)及天候其ノ他目下ノ狀況ニ顧ミ特一區ト日本租界ヲ聯絡スル通路ハ英國租界ヲ通過スルヨリ外ナキコトヲ述ヘ日本軍トシテハ日英間ノ親善關係ニモ鑑ミ英國官憲カ日本軍ノ爲開カレタル唯一ノ門戸ヲ閉鎖セサルコトヲ強く希望スル旨ヲ述フルト共ニ租界内軍隊通過ニ際シ生スル小事故及通過手續ニ關スル行違ニ付テハ日本軍及領事官憲ニ於テ防止及是正方ニ最善ノ努力ヲ拂ヒ居リ現ニ二十四日附ニテ司令部ヨリ軍隊租界通過ニ關スル詳細ナル訓令ヲ各部隊ニ發シ其ノ他徹底的の措置ヲ執リ居レル次第ヲ告ケ

本官トシテハ總領事始メ英國官民ニ於テ今暫ク忍耐の態度ニ出テ土地ノ事情ニ馴レサル日本部隊カ租界内ニ於テ行違事故等ヲ生シタル際ニハ理解ヲ以テ之ヲ援助セラレンコトヲ望ム旨懇説シ(右ノ次第ハ既ニ二十四日萩原ヲ

シテ英國總領事館員ニ申入レシメ置クト共ニ前記二十七日日本官トノ會談後「エード、メモアル」ヲ送付セリ)タルニ英國總領事ハ其ノ後モ通過軍隊ハ頓ニ増加スル一方ニシテ自分ハ愈々日本軍ノ通過ヲ禁止セサルヲ得サル立場ニ陥リ直ニ公文ヲ出サンカトモ考ヘタルモ先ツ懇談ニ來レル次第ナリト述ヘタルニ付本官ヨリ種々説得ノ結果愈々通過ヲ止メル以前ニ今一度話合フコトニ打合セ別レタリ

(四)然ルニ本二十九日午後英國總領事佛國領事ヲ同伴來訪シ同日朝大部隊ノ日本輸送隊英國租界通過中其ノ隊列餘リ長キ爲交叉點ニ於テ交通整理上巡捕之ヲ區切ラントシタルニ端ヲ發シ日本軍人ハ右巡捕及道ヲ横切ラントセル英國人「グリーンランド」ヲ打擲シ果テハ之ヲ鞭ニテ打ち或ハ足蹴リスル等凡ユル亂暴ヲ働キタル後大聲ニテ嘲笑シタル事件(佛國租界ニテモ同様ノ事件起レル趣ナリ)アリ

右ハ英國人ニ對スル此ノ上ナキ侮辱ニシテ之ヲ目撃セル英人(知名ノ者アリ)證人モ相當アリ自分トシテハ之以上軍隊通過ヲ容認スルコトハ如何ナル事態ヲ起スヤモ測リ



難ク到底困難ナルニ付明三十日朝貴官ニ公文ヲ以テ三十日夜半限り軍隊通過ヲ禁止スル旨申送ルコトナレル旨ヲ告ケ(佛國領事モ英國側ト同様措置スヘキ旨述ヘタリ)本官ヨリ種々再考方ヲ求メタルモ應スル色ナカリキ(英國總領事ハ地方ノコトハ自分ノ權限ニテ爲シ得ル次第ナルモ本件措置ハ大使ニ報告スヘキ旨述ヘ居タリ)

(五)依テ本官ハ已ムヲ得ス參謀次長<sup>マツマ</sup>及係官ニ對シ前記(四)ノ次第ヲ告ケ話合ヘル結果軍トシテハ英國側ノ公文發出ニ先立ち自發的ニ三十日正午ヲ限り第一特區方面ヨリノ軍隊ノ英佛租界通過ヲ取止ムルコトニ決シタルニ付其ノ旨竝ニ第一特區ニ在ル小部隊トノ聯絡及交代ニ必要ナル少數ノ將校又ハ兵ノ通過ニ付テハ從前ノ手續ニ依ル便宜供與方軍ヨリ依頼スルコトアルヘキ旨公文ヲ以テ英、佛兩領事ニ通報セリ

上海、北平へ轉電セリ



650  
昭和12年 8月31日

### 本邦人の中国渡航取締に関する外務省発表

本邦人ノ支那渡航取締(八月三十一日)

從來本邦人ノ支那ニ渡航スルニハ旅券ヲ必要トセス自由テアリマシタカ今次ノ北支事變ノ進展ニ伴ヒ現ニ北支及上海方面ニ於テハ軍事行動進行中ニシテ又其ノ他ノ地方ニ於テモ在支邦人ノ生命財産ハ甚大ノ危險ニ曝サルルニ至ツタ結果支那在留本邦人ノ大部分ハ引揚クルノ已ムナキ事態ニ立至リマシタス如キ狀態ナルニ拘ラス此ノ際從來ノ如ク一般本邦人ヲシテ自由ニ渡支セシムルコトハ在支邦人ノ保護上危險アルノミナラス軍事行動ノ進行シツツアル地方ニ於テハ軍ノ行動上及軍後方地區ノ治安維持上支障ヲ及ホス虞アルヲ以テ此ノ際本邦人ノ支那渡航ニ對シ一定ノ取締ヲ爲スコトト致シマシタ、併シ乍ラ業務上家庭上其ノ他正當ナル目的ノ爲至急渡支ヲ必要トスル者ニ對シテハ其ノ渡航ヲ制限スル限りテハアリマセンカラ此ノ種私用ノ爲此ノ際支那ニ渡航セントスル方ニ對シテハ願出ニ依リ本人ノ居住地所轄警察署長ヨリ渡航目的、理由、期間等ヲ記載セル身分證明書ヲ發給シ右證明書ヲ有スル者ニ限り出發港ニ於テ乗船セシムルコトナリマシタ、次ニ公務ヲ帶ヒ此ノ際支那ニ渡航セラルル方モ乗船ノ際其ノ身分ヲ證明スル爲派遣官

公署ノ身分證明書例ヘハ官吏ナ<sup>(一)字アキ</sup>ハ其ノ所屬官公署ノ發給シタル身分證明書又市町村ヨリ派遣セラルル公務員ノ如キハ其ノ市町村長ノ發給シタル身分證明書ノ携帯ヲ必要トシマス、但シ制服着用ノ軍人軍屬ハ身分證明書携帯ノ必要ハアリマセン、尙本取扱方ハ支那現地ノ事態ノ許ス限り可成速ニ之ヲ撤廢スル積リテアリマス。

編注 本文書は、昭和十二年十月、情報部作成「支那事變關係公表集（第一號）」から抜粋。

651

昭和12年8月31日 在天津堀内総領事より  
広田外務大臣宛（電報）

作戰地域における日本軍への敵対行為や間諜行為を厳罰に処する旨の布告発表について

別電一 昭和十二年八月三十一日発在天津堀内総領事

より広田外務大臣宛第八五七号

支那駐屯軍司令官の布告

二 昭和十二年八月三十一日発在天津堀内総領事

より広田外務大臣宛第八五八号

治安維持会および冀東防共自治政府の布告  
三 昭和十二年八月三十一日発在天津堀内総領事

より広田外務大臣宛第八五九号  
布告に際しての軍当局談

天津 8月31日後発  
本省 8月31日夜着

第八五六號

往電第八三一號二關シ

九月一日附ヲ以テ軍司令官ヨリ別電第八五七號ノ通り又天津治安維持會、北平地方維持會及冀東防共自治政府ヨリ夫々別電第八五八號ノ通り佈告ヲ發スルコトナレリ尙軍佈告ニ關シテハ天津軍當局談トシテ別電第八五九號ノ通り發表ノ豫定ナリ

本電別電ト共ニ在英大使ヘ轉電シ土ヲ除ク在歐各大使壽府ヘ轉電セシメラレタシ

在米大使ヘ轉電シ紐育、伯ヘ轉電セシメラレタシ

本電別電ト共ニ上海北平ヘ轉電セリ

（別電一）

第八五七號

布告

天津 8月31日後發  
本省 8月31日夜着

爾今作戰地域内ニ於テ左ノ通りノ行爲ヲ爲シ又ハ爲サント  
スル者ハ嚴罰ニ處シ第三國人ト雖其ノ自由ハ保障セラレサ  
ルヘシ

一、間諜ヲ爲ス行爲

一、日本軍ニ對シ反逆ヲ爲ス行爲及之ヲ教唆スル行爲

一、其ノ他日本軍ノ安全ヲ害スル行爲

昭和十二年九月一日日本軍司令官

(別電二)

第八五八號

布告

天津 8月31日後發  
本省 8月31日夜着

本會(冀東ハ政府)管轄内ニ於テ左ノ行爲ヲ爲シ又ハ爲サン  
トスル者ハ處罰スヘシ

一、虚偽ノ風説不穩ノ主義ヲ流布シ又ハ右目的ヲ以テ印刷物  
ヲ頒布スル行爲

一、不法ニ人心ヲ煽動スル行爲

一、經濟及金融ヲ攪亂セントスル行爲

一、前各項ノ目的ヲ以テ集合結社ヲ爲スノ行爲

一、許可無クシテ武器ヲ輸入シ又ハ所持スルノ行爲

一、掠奪、暴行、強迫其ノ他治安ヲ紊シ又ハ紊サントスル行  
爲

(別電三)

第八五九號

天津 8月31日後發  
本省 8月31日夜着

今次天津軍カ發布シタ布告ノ目的ハ日支間ニ於テ現ニ敵對  
行爲カ行ハレテ居ル事實ニ鑑ミ作戰地域内ニ於ケル日本軍  
ノ安全ヲ確保シ作戰ノ遂行ニ障害無カラシメンカ爲之ニ有  
害ナル一切ノ行爲ヲ彈壓セントスルニアルカ租界及第三國  
人ニ對シテハ國際法及諸條約ニ準據シ措置セラルルコトハ  
勿論テアル

652

昭和12年9月1日

在天津堀内総領事より  
広田外務大臣宛(電報)

日本軍の天津英仏租界通過を自發的に中止する  
旨のわが方通報に対する英仏両国の回答振  
りについて

天津 9月1日後発  
本省 9月1日夜着

第八六三號

往電第八四九號ニ關シ

(一)同電(五)ノ公文ハ英國宛ノ分ハ二十九日夜本官自身總領事  
ニ手交スルト共ニ自發的ニ斯ル措置ニ出テタル我方ノ意  
ノアル所ヲ述ヘ先方ヨリノ公文發出ヲ思ヒ止マラシムル  
様説キタルニ總領事ハ我方ノ態度ヲ諒トシ三十日午後ニ  
至ルモ武裝兵ノ通過ヲ見サル限り之ヲ取止ムヘキ旨ヲ述  
ヘ第一特區トノ聯絡交代等ニ際スル從來通りノ手續ニ依  
ル通過申出ハ例外的措置トシテ之ヲ承諾スヘシト述ヘタ  
リ

尙英國總領事ヨリハ三十日附公文ヲ以テ冒頭往電(四)ノ事  
件ニ關シ同電(二)(三)及(四)ノ本官トノ話合ノ經緯ヲ詳細引用

シタル上各「ウイットネス」及警官ノ報告寫ヲ添ヘ本事  
件ハ重大ナル侮辱ト見ル外ナク本公文及附屬ヲ香月司令  
官ニ傳達シ(イ)事件ノ調査(ロ)必要ナル「デイスプリナー・  
アクシヨン」ヲ執ラレ度キコト及(ハ)英國總領事ニ對スル  
陳謝ヲ要求スルト共ニ特別區ヨリノ小部隊往復ノ爲ノ通  
過ニ付テハ申込用紙ヲ用意スヘク凡テ英國租界ヲ軍隊通  
過ノ際ハ少クトモ四時間以前ニ右用紙ヲ用ヒ申込ヲ受ケ  
タル場合ニノミ之ヲ許容スヘキ旨ヲ申出テ來レリ

(二)<sup>(2)</sup>佛國領事ニハ同シク二十九日夜萩原ヲシテ公文ヲ持參セ  
シメ尙日本租界ヨリ萬國橋ヲ越エ第三特區ニ至ル爲ノ佛  
國租界通過ハ本公文ニハ關係ナク從テ從前通り通行シ得  
ルモノト了解スル旨ヲ述ヘシメタル處同領事ハ我方ノ措  
置ヲ多トシ萬國橋ニ至ル租界通過ハ從前通りニテ結構ナ  
リト述ヘ尙三十日附公文ヲ以テ日本軍カ佛國側ノ困難ヲ  
諒察相成リタルコト及佛國側力從來供與セル便宜ヲ多ト  
セラレタルコトヲ感謝スル旨第三特區トノ交通ハ日本軍  
カ其ノ通行ヲ成ルヘク少カラシムルコトヲ期待シツツ喜  
ンテ從前通り開放スル旨既ニ發生セル小事件ニ付テハ之  
ヲ忘却シ度ク何等申出ヲ爲ササルヘキ旨竝ニ事情ノ許ス

限り日本軍ヲ「ウエルカム」シ自分ノ意思ニ反シ全ク已ムヲ得サルニ至ラサル限り態度ヲ變更セサル旨ヲ申送り來レリ

天津、北平へ轉電セリ

653

昭和12年9月1日  
在天津堀内総領事より  
広田外務大臣宛(電報)

張家口は当分軍政に準じた統治を行う方針のため  
領事館復帰は当面延期方関東軍通報について

天津 9月1日後発  
本省 9月1日夜着

第八六五號(極秘)

張家口復歸問題ニ關シ關東軍參謀長ヨリ天津軍ニ對シ張家口方面ハ當分軍政ニ準シタル統治ヲ行フ方針ナルニ付領事館ノ進出ハ暫ク見合スコト然ルヘキ旨電報越セリ不取敢北平ヨリ中根ニ傳ヘラレ度シ

北平、上海へ轉電セリ

654

昭和12年9月4日

### 陸軍省作成の「察蒙處理要綱」

#### 察蒙處理要綱

##### 第一、方針

一、察蒙處理ノ主眼ハ内蒙政權領域ノ燥急ナル擴大ヲ避ケ速ニ同政權ヲ充實強化シ親日滿防共自治ノ實力充備ヲ圖ルト共ニ同政權領域内ニ於テ蒙民族ノ安住繁榮ヲ計リ北支就中察南及山西處理トノ關係ヲ適正ニ調整スルニ在リ

二、將來ニ於ケル關東軍ト北支軍トノ察哈爾省方面政務指導ニ關スル境界ハ外長城線トシ綏東四旗中平綏線(之ヲ含ム)以南ノ地域ハ北支軍ニ屬スルモノト豫定ス

三、關東軍及北支軍ハ各々擔任スル政務指導並施策ニ關シ緊密ニ連繫シ特ニ漢蒙兩民族ノ指導ニ關シ調和ヲ圖ルモノトス

##### 第二、要領

一、差當リ關東軍ノ政務指導地域ハ察北、察南ノ範圍トシ必要ノ場合張家口以西平綏沿線ノ施策ヲ擔任シ將來察南ノ政務指導及平綏沿線地方ニ對スル施策ハ北支軍之二當リ

關東軍ハ錫盟及察盟ノ大部(工作ノ進展後ハ烏盟ニ及フ  
 範域)ニ對スル工作ヲ實施ス

但綏東四旗ニ對スル積極的工作ハ内蒙政權實力ノ強化ト  
 綏遠及山西ニ對スル大局的考慮ノ下ニ行フモノトス

二、内蒙工作ハ蒙古人心ノ把握ヲ以テ主眼トシ親日滿防共自  
 治ヲ國是トスル蒙古ノ建設ヲ指導シ對蘇特ニ對内蒙態勢  
 ヲ調整スルヲ以テ窮極ノ目的トス之カ爲先ツ以テ前掲二  
 盟ヲ範域トスル内蒙ノ内部強化ヲ主トス

右ノ進展ニ伴ヒ逐次烏盟ニ對シ工作ノ擴張ヲ計ル但之カ  
 爲ノ施策ニ於テハ特ニ内蒙ヲ刺戟セサル様考慮ヲ拂フモ  
 ノトス

三、上記内蒙ノ防衛並治安確保ノ爲日滿側ヨリ所要ノ經費、  
 兵器、器材等ヲ支給シ之ヲ援助ス

内蒙軍ノ整備並ニ之カ所要ノ經費ニ關シテハ昭和十二年  
 二月二十七日附陸滿密第七五號ノ要領ニ準據ス

四、察南ハ察北ノ内蒙政權ニ合併スルコトナク其政務指導ハ  
 北支政務指導要綱ニ準據シ特ニ同地方漢族民衆ニ基礎ヲ  
 置ク機關ヲシテ治安ノ維持民心ノ安定經濟ノ開發等ニ當  
 ラシム

五、綏遠(烏盟ヲ除ク)ニ對スル施策ハ北支軍ニ於テ内蒙工作  
 並北支就中山西ノ處理ヲ考慮シ適宜之ヲ行フ

(終)

655

昭和12年9月6日

在滿州國植田大使より  
 広田外務大臣宛(電報)

察南自治政府の管轄区域は作戰地域として関東  
 軍が行政司法權を管掌する旨軍側内報について

新 京 9月6日後発

本 省 9月6日夜着

第七九五號(極秘)

軍側ヨリ四日成立セル察南自治政府ノ區域内ハ同政府側請  
 願ノ次第モアリ之ヲ作戰地トシテ戰時體制ノ下ニ戒嚴ニ準  
 シ關東軍司令官ニ於テ一切ノ行政司法權ヲモ管掌シ其ノ統  
 制ニ依リ事務ヲ實施セシメツアリ從ツテ將來日本領事館  
 カ張家口ニ歸任スル場合ニ於テモ軍司令官ノ指揮ノ下ニ其  
 ノ職務ヲ執行セシムル方針ナル旨内報アリタリ御參考迄  
 北平、天津へ轉電セリ

昭和12年9月6日

在満州国植田大使より  
広田外務大臣宛(電報)

## 察南自治政府への指導方針に関する吉岡大佐

## の内話について

新 京 9月6日後発

本 省 9月6日夜着

## 第七九六號

張家口ヨリ歸來セル吉岡大佐ノ内(話)ニ依レハ同地ハ日本軍入城以來極メテ明朗化シ各店舗モ殆ト開店ノ状態ニアリ土著民衆(南京系ノ者ハ殆ト逃走セリ)ノ總意ニ依リ四日察南自治政府ノ成立ヲ見タリ同政府ノ根本方針ハ勿論日滿支ノ提携防共等ノ大精神ニアルモ差當リノ指導方針トシテハ戰時体制ノ下ニ軍事ヲ中心トシ直接治安財政等緊急事項ノ處理ヲ先ニシ漸次一般ニ及ハントスルモノニシテ先ツ治安維持、財政金融、交通通信等ノ委員會ヲ組織セルカ

(一)金融財政政策ニ於テハ現地ノ有リ金ヲ利用スルモ紙幣ハ舊幣ヲ斥ケ新ニ發行スル紙幣ヲ流通セシムルコト、支拂猶豫ヲ實施スルコト等ヲ主眼トシ従前ヨリノ各種税捐局ハ殘留官吏請願ノ形式ニ依リ全部接收ヲ終リ目下相當ノ

## 稅收アリ

(二)交通、通信、郵政等ハ將來特定機關ニ之ニ移(ヲツ)スルモ差當リ之ヲ關東軍司令官ノ運營管理トス

(三)産業指導方針トシテハ軍需資源ノ培養貯藏ヲ中軸トシ米作ヲモ考慮スルコト(鑛山資源モ附近ニ相當アリ)

等ノ方針ニテ著々整備ヲ進メツツアルカ要スルニ同政府地域内ハ非武装地帶トシ日本軍以外一切ノ武装ヲ許サス關東軍司令官統卒ノ下ニ一切ノ行政司法ヲ行フノ建前ヲ取リツツアル趣ナリ

上海、北平、天津へ轉電セリ

~~~~~

657 昭和12年9月9日

在天津堀内総領事より
広田外務大臣宛(電報)

北清事變議定書の關係から涉外事項に関して
は支那駐屯軍の名称を建前上継続する方針に
ついて

第八九九號(極秘)

天 津 9月9日後発

本 省 9月9日夜着

香月司令官着任ノ際ハ一々ノ儀禮ハ省略セルモ其ノ着任ヲ各國駐屯軍ニ通知シ二、三ノ外國司令官、領事等ノ訪問モ受ケ文書ニモ同司令官ノ名ヲ用ヒ來レリ然ルニ今次ノ改變ハ各軍ノ名稱モ司令官ノ名モ一切部外極祕トシ居ルヲ以テ之ヲ對外關係上如何ニスヘキヤニ付軍ヨリ協議有リ軍トシテハ支那駐屯軍ナルモノモ無クナリタル譯ナルモ涉外關係事項殊ニ團體議定書關係事項ニ關シテハ其ノ名稱ヲ存シ置クコト然ルヘシト思考シ此ノ種事項ニ關スル限り引續キ支那駐屯軍司令官トシテ香月中將ノ名ヲ用ヒ但シ同中將天津ヨリ不在トナラハ喜多少將カ支那駐屯軍司令官ノ代理タル建前ニテ涉外事項ヲ處理スルコトニ致シタリ北平大使館衛兵隊長モ然ルヘク決定ノ筈

上海、北平ニ轉電セリ

658

昭和12年9月27日

在天津堀内総領事より
広田外務大臣宛(電報)

平津地方維持會連合會の成立について

天津 9月27日後発
本省 9月27日夜着

第一〇〇五號(極祕)

本月二十二日當地治安維持會事務所ニ天津、北平各治安維持會代表冀東防共自治政府聯絡員參集シ軍側ヨリ當地特務部長、平津各特務機關長等列席ノ上平津地方維持會聯合會ヲ成立セシメ成立宣言書ヲ發表シ聯合會章程ヲ決定セリ(別途郵送)

右聯合會ハ成立宣言書ニモ示サレ居ル如ク平津兩治安維持會、冀東政府三者間ノ事務上ノ聯絡竝ニ對外事項ノ處理等ニ付一代表機關ヲ設クルノ必要上設置セラレタルモノニシテ將來ノ平津地方ノ政治形態トハ何等ノ關聯ヲモ有セサルモノニシテ此ノ點ニ付テハ其ノ後開催セラレタル特務部關係者會合ノ席上特務部長ヨリ明確ニ指示スル所アリタリ

上海、北平へ轉電セリ

659

昭和12年10月2日

在天津堀内総領事より
広田外務大臣宛(電報)

治安状況など天津近況につき報告

天津 10月2日後発
本省 10月2日夜着

第一〇二五號

當方面ノ治安狀況ハ其ノ後天津治安維持會ノ諸措施竝ニ警察機構ノ改變等ニ依リ漸次安定ニ向ヒ居リ殊ニ支那街及特區方面モ我軍憲ノ指導ト相俟ツテ概ネ順調ニ回復シツ、アリ唯英佛租界内ニ於テハ今尙避難學生ノ一部、藍衣社其ノ他共產黨ノ不良分子カ小報ヲ發行シテ戰況ノ逆宣傳ヲ爲シ或ハ流言蜚語ヲ放ツ等反日活動ヲ爲ス者少カラス一般支那人中ニハ是等策動ニ惑ハサレ未タ不安ノ念ヲ抱キ店舗ヲ開カサル者相當アリシカ占領ノ真相漸次判明スルト共ニ我方及治安維持會ノ宣傳竝ニ宣撫工作等ニ依リ是等商人モ漸次門戸ヲ開キ市内ノ人出モ頻繁トナリ華街其ノ他ノ劇場、活動寫眞館等ノ各館モ増加シ仲秋節數日前ヨリハ特ニ市内一般ニ活況ヲ呈シ來レリ此ノ傾向ハ其ノ後保定及滄州陷落シ日本側ノ祝賀會(九月二十六日)行ハルルニ及ヒ益々顯著トナリ軍側内面指導モ手傳ヒ一日ニハ支那側ニ於テ河北青年黨、天津市商會其ノ他ノ民衆團體ヲ中心ニ中日聯歡大會開催セラレ一般民衆及學校生徒(約五千)ノ旗行列行ハレ日本側學校生徒之ニ和スル等平和親睦ノ空氣漲リツツアリ(支那街最近ノ開店狀況ハ小中商店ハ全部、大商店六、七割)

然レトモ天津市近郊ニ於テハ尙敗殘兵相當數橫行シ居リ治安維持會ニテハ軍ト協力シ之カ掃蕩ニ努メツツアリ最近特ニ意ヲ用ヒツツアルハ防水及防疫ノ對策ナル處兩者共軍及治安維持會其ノ他關係各機關及外國側ト協力シ極力之カ防止ニ努メツツアリ(「コレラ」ハ天津市内眞性二名決定セリ)

尙九、一八記念日前後ノ不逞分子ノ行動狀況ハ既電ノ通りナルモ詳細ハ別途報告ス
上海、天津、滿ヘ轉電セリ

660 昭和12年11月17日

在上海岡本総領事より
広田外務大臣宛(電報)

上海の戦線が租界を離れたことに伴う邦人の
復帰方針について

第二三〇〇號

上海 11月17日後発
本省 11月18日前着

往電第二一四一號ニ關シ

其ノ後南市及浦東陷落シ戦線租界ヲ離レタルニ依リ陸上ヨ

リ攻撃ヲ受クル危険ハ除去セラレタルカ右ニ伴ヒ陸戰隊ニ於テハ十五日ヨリ北部立退區域ノ大部分ニ亘リ邦人ノ歸住ヲ許可スルニ至リ目下電燈、水道、瓦斯等ノ修繕モ徐々ニ開始セラレ居ル状態ナルヲ以テ更ニ陸海軍側トモ協議ヲ遂ケタル結果當分ノ間(一)前上海在留者ハ歸還後不正行爲ヲ爲ス惧アル者及歸還後直ニ生活救済ヲ爲ササルヘカラサル惧アル者ノ外ハ男子ノミナラス婦女子ニ付テモ歸還ヲ許可ス(當館ノ身分證明書發給ハ從來ノ通り)又(二)長江沿岸引揚ノ前在留者(蘇州、杭州、長沙及鄭州ヲ含ム)ノ上海渡航ニ對シテハ其ノ身許及渡航後ノ業務確實ナル場合ニ限り(一)二準シ渡航ノ便宜ヲ供與ス(必要ニ應シ所轄警察署ニ對シ照會ス)ルコトニ取扱ヲ緩和セリ尤モ冒頭往電ノ事情モアルニ付(二)以外ノ前支那在留者及新規渡航者ニ付テハ至急渡支ヲ必要トスル事情アル者ノ外ハ依然嚴重ニ抑制相成度シ尙九月八日以来本日迄ニ當館ニ於テ發給シタル證明書件數三、一二〇件(内六〇八件ハ本邦ヘ往復ノ爲)ニシテ既ニ歸還シタル者約二千二百名、同期間ノ在留民出國數約千八九百名ノ見込ナリ

661

昭和12年11月22日

蒙疆聯合委員會設立に際しての關東軍司令官
と蒙疆連合委員会との秘密交換公文

蒙疆聯合委員會設定ニ際シ蒙疆聯合委員會ト

關東軍司令官トノ秘密交換公文

滿文正文(日文譯文)

中華民國二十六年十一月二十二日蒙疆方面各政權ハ

成吉思汗紀七百三十二年十一月二十二日蒙疆方面各政權ハ

相互協議ノ上蒙疆聯合委員會設定ニ關スル協定ヲ締結セル

ニ據リ本聯合委員會ハ爰ニ各政權ノ同意ヲ得テ左ノ諸件ノ

確約ニ付得貴意度照會候也

一、今次事變ニ於ケル貴帝國出師ノ根本義ニ鑑ミ蒙疆地方ニ

於ケル本委員會ノ處理スヘキ一切ノ命令及執行ニ關シテ

ハ貴軍占據ニ伴フ軍事ノ要請ニ應セシムヘク就テハ貴軍

竝日滿兩國ヨリ充分ナル協力ヲ仰キ度特ニ貴軍司令官ノ

內面的指導ニ關シテハ深甚ナル配慮ヲ仰キ度キコト

ニ、本委員會ノ最高顧問參議顧問及委員會職員中主タルモノ

ハ貴軍司令官ノ推薦スル日滿兩國ノ者ヲ充當致度コト三

政權内日滿系顧問職員ニ就テモ右ニ準スヘキコト

三、本委員會ノ管理若ハ統制スヘキ重要交通及重要産業ニ關シテハ必要ニ應シ貴軍司令官ノ指定スル日滿各機關ニ經營ヲ委任シ若ハ合辦事業ヲ營マシムルコトアルヘク此場合特ニ便宜ヲ與ヘラレタキコト

四、本委員會管下ノ金融事項ニ關シテハ蒙疆銀行ヲシテ中央銀行タラシムルヲ根本方針トスルニ付之ニ關聯シテ將來生スヘキ諸事項ニ關シ御援助ヲ願ヒ度キコト

五、本委員會ハ當分貴帝國軍ノ駐兵ヲ希望シ之カ爲其管理又ハ經營スル事業ニ關シ財政上ノ餘力ヲ生スルニ至レハ貴帝國軍駐兵ニ伴フ經費ニ關シ現金又ハ物納ノ形式ヲ以テ努メテ之ヲ分擔スルコト

六、將來正式條約協定等締結セラルルニ際シテモ蒙疆地方ニ關スル前記各條項ハ本聯合委員會構成ノ政權ニ關スル限リ實質上何等ノ變更ナキ如ク調整スルコト

中華民國二十六年十一月二十二日

成吉斯汗紀七百三十二年十一月二十二日

蒙疆聯合委員會

右諸條ニ關シ下名ハ夫々其政權ノ正當ノ委任ヲ承ケテ連署ス

蒙古聯盟自治政府代表委員 卓圖巴札布
察南自治政府代表委員 于品卿
晋北自治政府代表委員 夏恭
關東軍司令官 植田 謙吉閣下

日本文正文

中華民國二十六年十一月二十二日即成吉斯汗紀元七百三十二年十一月二十二日附貴聯合委員會カ夫々各政權ノ正當ナル委任ヲ承ケタル代表委員ノ連署セル書翰ヲ以テ照會ニ係ル諸件了承候

當方ノ支障ナキ限リニ於テ協力スルコトト致度

右及回答得貴意候也

昭和十二年十一月二十五日

關東軍司令官 植田 謙吉

蒙疆聯合委員會

蒙古聯盟自治政府代表委員 卓圖巴札布殿

察南自治政府代表委員 于品卿殿

晋北自治政府代表委員 夏恭殿

~~~~~

昭和十二年十二月三日

駐蒙兵團設置に際しての關東軍司令官と蒙疆  
聯合委員会との交換公文

付記一 作成年月日不明

〔蒙疆政務處理要綱〕

二 昭和十三年一月十四日

蒙古軍の統帥に関する駐蒙兵團と蒙古連盟自治政府との交換公文

駐蒙兵團設置ニ際シ關東軍司令官ト蒙疆聯合委員會  
トノ交換公文

(往翰)

今般駐蒙兵團設置セラレ貴地方ニ駐屯スルニ際シ貴蒙疆聯合委員會ト本職トノ間ニ取換シタル公文ニ關シテハ左記諒解ノ下ニ措置スルコトト致シ度キニ付諒承相成度候  
尙此機會ニ貴蒙疆聯合委員會及各自治政府力各々其成立ノ經緯ト目的トニ鑑ミ其關係ヲ一層鞏化シ日滿兩國ト提携シ益々發展興隆セラレンコトヲ衷心ヨリ希望スル旨附言致候

左記

(一) 昭和十二年十一月二十二日即成吉思汗紀元七百三十二年十一月二十二日蒙疆聯合委員會ト關東軍司令官トノ間ニ取換シタル祕密交換公文中關東軍司令官トノ關係ハ駐蒙兵團司令部設置ト共ニ駐蒙兵團司令官ニ移行セラルル儀ト承知相成度

(二) 關東軍司令官ハ滿洲國政府ト共ニ能フ限りノ協力援助ヲ行フヘク右協力援助ハ原則トシテ駐蒙兵團司令官ノ行フ指導ヲ通シ實施セラルヘシ

(三) 貴聯合委員會ト滿洲國トノ關係ニ就テハ當軍トシテモ充分隔意ナク協議ニ應シ共榮ノ爲支援助方努力スヘク又成ルヘク速ニ防共、通商、經濟、金融關係其他ニ付滿洲國トノ間ニ所要ノ協定ヲ締結シ特ニ貴地方重要物資、資源等ノ滿洲國ニ對スル優先的ナル利用開發ニ便宜ヲ供セラレンコトヲ希望ス

(四) 駐蒙兵團ト關東軍トノ關係上將來交換公文ノ内容ニ調整ヲ必要トスル場合ニ於テハ別途措置スルコトトス

(五) 將來貴聯合委員會構成ノ内容ニ著シキ變化ヲ生スヘキ場合ニ於テハ豫メ當軍ノ同意ヲ求メタル上措置セラルヘキモノトス

昭和十二年十二月三十日

關東軍司令官 植田 謙吉

蒙疆聯合委員會

蒙古聯盟自治政府代表委員 卓圖巴札布先生

察南自治政府代表委員 于 品 卿先生 均鑑

晋北自治政府代表委員 夏 恭先生

(復翰)

昭和十二年十二月三十日附貴翰正ニ接受候

貴翰ノ條々一々諒承異存無之將來共貴軍司令官竝滿洲國政府ヨリ隔意ナク從前通り御援助賜ハリ度切望候又貴軍司令官ニ對スルト同様駐蒙兵團司令官ニモ齊シク信賴シ其指導ヲ受クヘク爰ニ確約仕候

尙當方面ノ各政權及蒙疆聯合委員會發達ノ經緯ニ鑑ミ更ニ一屬密接ニ其關係ヲ鞏化シ防共民族協和ノ大義ニ則リ發展ニ努ムヘク特ニ格別ナル御援助ヲ願上候

成吉思汗紀元七百三十二年十二月三十日

中華民國二十六年十二月三十日

蒙古聯盟自治政府代表委員 卓圖巴札布

察南自治政府代表委員 于 品 卿

晋北自治政府代表委員 夏 恭

關東軍司令官 植田 謙吉殿

(付記一)

蒙疆政務處理要綱

蒙疆地方政務處理ニ關シテハ昭和十二年十二月二十四日閣議決定ノ事變對處要綱(甲)ニ據ルノ外差當リ左記要領ニ據ルモノトス

左 記

一、蒙疆地方ノ政務指導ハ駐蒙兵團司令官之ニ任シ關東軍司令官ノ同地方政權ニ對シテ得タル政務指導上ノ諸權限ヲ繼承スルモノトス

二、駐蒙兵團司令官ノ行フ蒙疆地方政務指導ハ差當リ關東軍司令官ノ實施セル方針ヲ踏襲スルモノトス

三、駐蒙兵團ノ政務指導ニ關スル擔任區域ハ察北、察南、晋北及綏遠省トシ其ノ關東軍及北支那方面軍トノ政務指導ニ關スル擔任區域ノ境界ハ察哈爾省東部省境ヲ經テ八達嶺以南以西ノ內長城ヲ連ヌル線(徠源縣及其附近河北省

内ハ北支那方面軍ニ屬ス)トス

四、蒙疆地方ノ政務指導ニ方リテハ特ニ漢蒙兩民族指導ニ關スル完全ナル調和ヲ圖ルト共ニ北支那方面軍及關東軍ノ行フ政務指導ト密ニ連繫シ相互ノ摩擦相剋ヲ生セシメサル爲萬遺憾ナキヲ期スルモノトス

(付記二)

蒙古軍ノ統帥ニ關スル駐蒙兵團ト蒙古聯盟自治政府

トノ交換公文

謹啓 今般貴兵團蒙疆地方ニ設定セラルルニ當リ蒙古聯盟自治政府副主席德王及蒙古軍總司令李守信ハ主席雲王ヲ代表シ日本軍ノ蒙疆地方ニ駐屯又ハ作戰スル間蒙古軍統帥權ノ運用ヲ在蒙疆日本軍最高指揮官ニ委任致シ度ク就テハ日本軍ニ於テハ蒙古軍ノ建設育成ニ十分ナル協力援助ヲ與ヘラレ度

右貴意ヲ得度候

成吉思汗紀元七三三年一月十四日

昭和十三年一月十四日

蒙古聯盟自治政府副主席 德穆楚克棟魯普

蒙古軍總司令 李守信  
蒙疆日本軍司令官 蓮沼 蕃閣下

復啓

昭和十三年一月十四日即成吉思汗紀元七百三十三年一月十四日附蒙古軍統帥ニ關スル御來翰ノ趣諒承仕候

昭和十三年一月十四日

蒙疆日本軍司令官 蓮沼 蕃

蒙古聯盟自治政府副主席

德穆楚克棟魯普 閣下

蒙古軍總司令

李守信 閣下

~~~~~

663

昭和13年1月11日

在青島大鷹總領事より
広田外務大臣宛(電報)

青島への居留民復帰につき先發隊派遣方請訓

青島 1月11日後発

本省 1月12日前着

第四號

青島邦人財産ノ被害狀況ハ目下調査中ナルモ諸般ノ情報ヲ綜合スルニ青島ハ損害額其ノモノハ巨額ニ上ル見込ナルカ（主要工場ノ破壊、商品ノ完全ナル掠奪）濟南ト異リ建物破壊セラレタルモノ豫想外ニ少ク（各學校、銀行、會社等ノ建物無事）從ツテ人員ノ收容（個人住宅ハ燒失又ハ掠奪ノ爲居住當分困難）ニハ余リ不自由ヲ感スル模様ナキノミナラス此ノ分ナラハ居留民ノ復歸シ復興事業ニ着手スルモ想像セル程ノ不便モ無之カルヘク復舊モ案外ニ迅速ニ行ハルヘシト存セラルルニ付成ルヘク速ニ居留民第一回先發隊ノ復歸ヲ見ルコト然ルヘク（食料、寢具等適當攜帶ノ要アリ）右ハ海軍側及陸軍特務機關ニテモ全然同感ニ付右様大至急御取計相成度シ

追テ市内ノ秩序ハ略完全ニ確定セル模様ナリ

（海軍無線經由）

664

昭和13年 1月15日

在青島大鷹總領事より
広田外務大臣宛（電報）

青島邦人財産の被害状況報告

第二三號

貴電第一號ニ關シ

在留民復歸ヲ考慮シ今日迄調査判明シタル當地ノ狀況左ノ通り

一、水道ハ白沙河水源^〇地ノ給水ノミニ俟ツ次第ナルカ工場復活セサル間市民ノ生活ニハ間ニ合フ見込ナリ

二、電燈ハ四方發電所破壊セラレ居ルモ（損害一五〇萬圓修理ニ一年ヲ要スル見込）臺西鎮ノ電力ノミニテ當分差支ナキ見込

三、邦人側工場ハ各紡績、鈴木糸廠等ハ油房等ヲ初メトシ大小ノ工場ハ完全ニ爆破燒毀セラル

四、石炭ハ小港ニ六百噸、大港ニ二千噸ノ煖房用炭ヲ殘スノミニテ他ニ數千噸ノ粉炭アルニ過キス早晚非常ナル不足ヲ告ケル見込ニ付大連ニ注文方手配濟

五、遺留セラレタル木材ハ殆ト完全ニ殘存スルモ家屋修繕材料トシテ窓硝子、煙突材料等ハ全ク當地ニ於テ補充充方不可能ノ見込ナリ「ストーブ」モ幾分補給ヲ要スヘシ

青島 1月15日前發
本省 1月16日後着

六、邦人住宅ノ焼失セルモノ三十餘軒アリ各被害人名ニ付テハ別電ス

七、一般邦人住宅店舗ノ内部ハ大部分慘澹タル掠奪被害ヲ受ケ(全然被害ナキ家屋モ多少アリ其ノ所有人名ニ付テハ目下調査中)復歸ニ當リテハ寢具、衣類、炊事道具等生計必需品ハ殆ト殘存シ居ラサルモノト覺悟ヲ要ス又水道管ハ氷結又ハ破壊シ居ルモノ少カラサル見込

以上ノ如キ狀況ナルヲ以テ在留民復歸ニ當リテハ先ツ各人ノ住居ノ安定ヲ得ル迄ニハ相當ノ時日ト費用ヲ要スヘク就テハ曩ニ本省ニ於テ大藏、陸、海軍等五省關係者會合ノ際外務省案トシテ内示シタル復歸費ハ當地現實ノ狀況ニ照ラシ其ノ額猶過少ニ失シ復歸後當地ニ於テ多大ノ困難ニ逢着スヘキハ豫想ニ難カラサルニ付復歸者ニ對シテハ當地到着後住居ノ復舊及當分ノ生活維持費トシテ一世帶當リ最少限度金五〇〇圓ノ補助ヲ與フルコト必要ト存セラル關係各省トノ御折衝モ進捗シツアルコトト存スルモ此ノ點特ニ御考慮ノ上然ルヘク御措置相煩度シ

665 昭和13年1月15日 在青島大鷹總領事より
広田外務大臣宛(電報)

青島の被害状況を踏まえた邦人復帰方針について

青 島 1月15日後発
本 省 1月16日夜着

第二七號

復歸在留民及新來住者ノ來青ニ付往電第二三號ノ如キ事情モアリ且當地ノ復興及秩序ノ統制ニモ至大ノ關係アルニ付軍側トモ打合ノ結果此ノ際三省打合ノ民團側復歸順序ニ依ル來青者ノ外ハ陸海軍及當館ノ了解アル者ニ限り當地上陸ヲ許可シ其ノ他ノ者ニ付テハ假令便船ニ依リ來青スルコトアルモ上陸ヲ許可セサルコトニ決定シタルニ付此ノ旨至急關係方面へ御通達相成ルト共ニ東京民團ヨリ大連方面ニ聯絡ヲ取ラシメ此ノ旨徹底セシムル様御取計相成度シ
追テ膠濟方面ノ在留民復歸ニ付テハ當方ヨリ何分ノ通知ヲ爲ス迄來青ヲ見合シムル様御取計相成度シ

666 昭和13年1月21日 在青島大鷹總領事より
広田外務大臣宛(電報)

陸軍作戰上の入域制限地域に青島も含まれて
いるところ復興の観点から青島については再

考方陸軍側へ交渉ありたき旨訓請

青 島 1月21日前発

本 省 1月22日後着

第五六號(至急、極秘)

⁽¹⁾當地特務機關長大木中佐(十九日前任眞方少佐ト交代セリ)
ヨリ今般第二軍ニ於テ作成セル軍作戰地域ノ入域及營業取
締規程ヲ送付シ來リ當館ノ協力ヲ求メタルカ右ニ依レハ青
島市モ本件作戰地域内ニ包含セラレ(一)市内ニ於テ陸軍ノ占
據スル地域ニ入市スル者(旅行者ヲ含ム)ニ對シ青島特務機
關長ハ本官ノ許可證ヲ有スル者ニシテ入域差支ナシト認ム
ル者ニ對シ入域許可證ヲ交付シ(二)又居住營業ヲ爲サントス
ル者ハ從來ノ既許可者タルト否トヲ問ハス更ニ改メテ本官
ノ許可ヲ受ケシメタル上青島特務機關長ノ許可ヲ受クヘキ
旨ヲ規定シ居レリ

⁽²⁾右ニ對シ本官ハ青島市カ平穩無事ニ占據セラレ治安モ極メ
テ能ク維持セラレ居リ他ノ軍行動地域ト同一視シスヘカラ
サルコト居留民ノ復歸ヲ促シ復興事業ニ當ラシムルコト第

一義ナル此ノ際身分證明書以外煩雜ナル手續ヲ執ラシムル
コト實狀ニ適セサルノミナラス實際問題トシテ相當困難ナ
ル⁽³⁾ニト陸軍側ニ於テ此ノ種措置ヲ執ル場合海軍側ニテモ同
様ノ希望ヲ有スヘク其ノ結果入域者營業者等ニ付兩者間ニ
機微ナル關係ヲ生スルコトアルヘキコト從來ノ届出營業ヲ
許可營業ト變更スルニハ館令ノ改正ヲ要スルコト軍政モ布
カサル地域ニ於テ領事以外ノ官憲カ行政處分ヲ爲スノ不合
理ナルコトヲ説明シ

⁽³⁾入域居住營業其從來ノ儘トシ軍側ニテ特定人ノ入域居住ヲ
不可トスル場合ハ其ノ都度能フル限り軍ノ希望ニ應スル様
措置スルコトト致度キ旨(新規營業許可ノ際豫メ軍側ト打
合ノ上徹底スルコトモ可ナル旨)說示シ再考ヲ求メタル處
軍ノ作戰上必要ナリトノ理由ニテ容易ニ應スル模様ナク廿
一日早速之カ實施ヲ要求セリ

⁽⁴⁾本件ハ館署員手不足ノ折柄事實上實行困難ノ次第ハ兎モ角
當地ニ於ケル第一義ノ問題ハ復興事業ニテ之ニ對シテハ海
軍側ニテモ充分同情ヲ示シ居ル際居留民ノ復歸及營業ニ軍
カ最終ノ許可權ヲ握ルニ至ラハ居留民ノ不安モ鮮カラサル
ヘク政府トシテモ不許可ノ居留民ニ對シテ復歸旅費ヲ無益

ニ支給スル結果トナルヘク次ニ復興ハ全居留民ノ協力一致ヲ以テシテモ尙充分トハ認メラレサル今日居留民内ニ陸軍系、海軍系等ノ色彩アル黨派ヲ生スルコトナラハ結局當地ノ事態トシテハ甚タ感心セサルモノアルヘク當方トシテハ居留民復歸ニ關シ既ニ數月以來民團ト協議シ出來得ル限リ周到ナル案ヲ樹テテ既ニ實行ニ移リタル此ノ際ナレハ軍側ノ要望ニ對シテハ本省ノ御訓令ヲ得サル限り應諾出來サル旨ヲ繰返シ回答シタルニ拘ラス軍側ハ作戰上ヨリ上述ノ措置ヲ必要トスルモノト主張スル次第ナレハ右事情御了承ノ上本省ニ於テ軍側ニ對シ青島ノ分ハ(濟南ノ分ハ有野總領事ニ於テ主義ニ於テ贊成セル旨軍側ニテ語り居タリ)再考方御交渉相煩度ク結果何分ノ儀御同電アリタシ

追テ軍側ニテハ漸次當方面ニ軍政ヲ布カントノ意嚮ナルヤニ承知スル處右ハ帝國政府ノ御方針トセラルル所ナリヤ併セテ御同電アリタシ

天津ヨリ濟南ヘ轉電アリタシ
北平、天津、上海ヘ轉電セリ

667

昭和13年1月24日

在濟南有野總領事より
広田外務大臣宛(電報)

濟南邦人財産の被害状況甚大に鑑み救済方法

につき意見具申

濟南 1月24日後発

本省 1月24日夜着

第一八號

今次事變ニ依リ當地在留邦人被害ノ詳細目下極力調査中ナルカ其ノ極メテ廣汎且深刻ナルコトハ累次ノ往電ニ依リ御諒察ノ通りニシテ從テ歸還在留民ニシテ今日迄ニ何ウニカ營業ヲ開始シ得タルハ僅ニ軍關係食料店一、料理店二ニ過キス其ノ他大部分ハ被害現場ヲ眼ノ當リ見テ茫然爲ス所ヲ知ラス復興ノ目算モ建チ難キ有様ナルカ一方是等在留民ハ數箇月ノ徒食ニ依リ資金ヲ使ヒ果シ家屋ノ修理、商品ノ仕入ハ勿論當座ノ生活費ニモ窮シ居ル者少カラス之カ救済方乃至資金ノ供給ハ焦眉ノ急タリ殊ニ其ノ營業資金ノ供給ハ目下恰モ物資缺乏シ且相當數ノ皇軍駐屯シ居ル今日其ノ額ノ大小ニ拘ラス最モ效果的ニ利用シ得ヘク例ヘハ二百圓、五百圓ノ小資本ニテモ優ニ一營業トシテ成リ立チ極メテ生

産のニ利用シ從テ居留民ノ復興ニ資スルコト少カラサルヘ
キ現狀ナリ而シテ是等資金トシテ差當リ三十萬元至急調達
ノ要アル次第ナルカ貴電第二號ノ通り既二十萬圓ノ調達ヲ
得タルヲ以テ更ニ殘額二十萬圓ヲ必要トスル次第ナルカ此
ノ外張店及博山管内モ近ク復歸ノ見込ナルニ付テハ右兩管
内ノ分十萬圓ヲ加ヘ合計三十萬圓調達ノ必要ヲ痛感シ居ル
次第ナリ右資金ハ既ニ御手配中ノ復歸資金及將來御詮議アル
ヘキ復興資金等ヲ引當トシ償還セシメ度キ所存ナルカ之
カ支給ハ前記ノ如ク急ヲ要シ且早ケレハ早イ丈ケ效果多キ
次第二付事情御賢察ノ上此ノ際右三十萬圓ノ額ヲ銀行等ヨ
リ民團ニ對シ大至急融通貸付方特別ノ御配慮相仰度シ

668 昭和13年4月27日

交通・通信・航空等に関する北支那方面軍司
令官と中華民國臨時政府行政委員會委員長と
の間の覚書

交通通信及航空等ニ關スル覺書

日本軍司令官伯爵寺內壽一及中華民國臨時政府行政委員會

委員長王克敏ハ北支方面現下ノ情態ニ鑑ミ左記ノコトヲ約
ス

左記

日本軍カ現ニ占有シアル交通通信及航空等ノ將來ニ關スル
處理ハ情勢ニ應シ後日協定セラルヘキモ日本軍カ軍事行動
ヲ必要トスル期間ニ於テハ日本軍北支最高指揮官ハ交通通
信及航空等ニシテ軍事上必要ナルモノニ付之ヲ管理ス

昭和十三年四月二十七日

於北京

民國二十七年四月二十七日

日本軍司令官伯爵 寺內 壽一

中華民國臨時政府 行政委員會委員長 王 克 敏

669 昭和13年7月4日

陸軍省作成の「蒙疆政務指導要綱」

蒙疆政務指導要綱

蒙疆ノ政務指導ハ當分ノ間左記要領ニ基キ北支那方面軍司
令官駐蒙軍司令官ヲ通ジテ之ヲ實施スルモノトス

左記

一、蒙疆ノ政務指導ニ方リテハ該地域ニ廣汎ナル自治ヲ認め且其特殊性ヲ保續ス

二、蒙疆ノ行政機構、行政區域ハ現状ノ儘トス

三、蒙疆ノ金融ハ蒙疆銀行ヲシテ之ニ當ラシメ將來全支ニ互ル金融ノ根本的改革ヲ行フニ方リテモ右蒙疆地方金融組織ノ特殊性ヲ十分ニ考慮ス

四、蒙疆ノ經濟開發(交通通信等ヲ含ム)ハ北支ト一元的ニ實施ス但シ之カ實施ニ方リテハ蒙疆ノ特殊事情ヲ十分考慮ス

五、北支那方面軍司令官ノ蒙疆ニ對スル政務指導ハ前記各項ニ依ルノ外重要ナル事項ハ陸軍大臣ノ認可ヲ受ケテ之ヲ行ヒ尙滿洲國ト關係ヲ有スル事項ハ關東軍司令官ト密接ニ連繫ス

670

昭和13年7月6日

在北京堀内大使館參事官より
宇垣外務大臣宛(電報)

日本軍による北寧鐵路局の改組・管理に際し
外国權益處理に関する方針案請訓

別電一

昭和十三年七月六日發在北京堀内大使館參事官より宇垣外務大臣宛第九八六号

右方針案

二

昭和十三年七月五日發在北京堀内大使館參事官より宇垣外務大臣宛第九八七号

対英回答案

北京 7月6日前發

本省 7月6日前着

第九八五號

貴電⁽¹⁾第五六〇號ニ關シ(北支鐵道ノ改組ニ關シ英國側ヨリ申出ノ件)

一、軍ニ於テハ事變後滿鐵ヲシテ北京北支事務局ヲ設置セシメ其ノ管理下ニ北京、天津、張家口、濟南ノ各事務所ヲ設ケテ從前ノ支那側各鐵路局ヲ合體セシメ軍事輸送ヲ主體トスル鐵道ノ管理經營ニ當ラシメ居タルカ北寧鐵路局ノミハ諸般ノ關係上之ヲ天津事務所ニ合體スルコトナク之ト併立セシメ置キタルカスル併立關係ヲ存續スルコトハ軍事輸送ノ圓滑ヲ期シ且機密ヲ保持スル上ニ少カラサル支障アリタルト他面北支交通會社設立ヲモ考慮シ逐次

統一的經營ニ移行スルノ準備ヲ進メ置クノ必要モ認メラレタル爲六月廿日ヲ期シテ北支事務局管下各事務所ノ改組ヲ實行シ天津事務所ト北寧鐵路局ヲ合併シテ之ヲ天津鐵路局ト改メ之ト同時ニ他ノ事務所モ北京、張家口、濟南鐵路局ト夫々其ノ名稱ヲ改メタリ

改組ニ基ク鐵路局ノ職制ハ鐵路局ニ總務、經理、營業、運輸、工務、電氣、警務七處竝ニ參與及監察ヲ設ケタルカ之ヲ天津鐵路局ニ付テ見ルニ舊北寧ノ事務處ヲ營業處ニ、機務處ヲ輸送處ニ夫々名稱ヲ改メ又新ニ電氣處ヲ新設セル以外舊北寧鐵路局ノ機構ト大體變リナク唯北寧ノ人事力業務關係別ノ縱列ニ依リ統制セラレ居リタルヲ總務處ニ統轄シタルコト、稽核室力從來南京ノ目付役ヲ爲シ居リタルヲ廢止シテ同主任ヲ監察ト爲シタルコト、祕書處ヲ廢止シ總務處ニ合併セラルル程度ナリ人事異動ノ主ナルモノハ元北寧鐵路局ノ會計處(長)「バートン」ハ總經理局(長)ニ元會計副處長ノ王選ヲ經理處長ニ夫々任命シ新ニ經理副處長ニ日本人ヲ任命シ元機務處機械總工程司^(工カ)「タンバリン」ヲ輸送處顧問ニ、元車務處顧問「ステール」ヲ名稱變更ニ基キ營業處顧問ニ夫々任命シ

總工程司、ヤウ總監室工程司兼總監「ウイリス」ハ總工程司兼總監トシテ

從前⁽³⁾(通リ)トシ別ニ新設ノ電氣處ノ處長及總務處ノ副處長ニ日本人ヲ又營業處、輸送處、工務處ノ副處長ニ支那人副處長ノ外新ニ日本人副處長ヲ夫々任命セリ要スルニ從前ノ外國人職員ニ對シテハ作戰行動ノ關係上多少祭上ケノ形トセルモ依然從前通りノ地位ヲ其ノ儘認メ居レル現状ナリ

尙各鐵路局ノ管轄ハ天津ハ北寧線、津浦線(桑梓店迄)、北京ハ北寧線ノ一部(豐臺、黃土坡間ニ二杆以上)、京綏線一部(西直門驛ト清華園ノ中間)、京漢線全部、正太線、同蒲線(風^(廢カ)渡、原平鎮間)、張家口ハ京綏線ノ大部分、同蒲線(大同、縣間^{(二)字アキ})、濟南ハ津浦線(桑梓店、黃河間)、膠濟線全部ナリトス

二、北寧線ニ關スル借款及附帶權益ニ關スル處理對策ニ付テハ往電第八七八號外國權益對策方針ニ基キ借款對策委員會ニ於テ研究ヲ進メ居タルカ大體別電第九八六號ノ如キ對策案ニ付決定ヲ見タルヲ以テ右方針要領ニ基キ往電第九五一號英國側申出ニ對シテハ軍側トモ打合ノ上不敢

第九八六號

(別電一)

別電第九八七號ノ通り回答スルコトニ一應話合ヲ遂ケタルカ本件ハ重大ナル關係アルヲ以テ當方及軍側何レモ中央ニ請訓スルコトトセルニ付右回答振ニ關シ御意見アラハ至急御回答ヲ得度シ

尙北寧線以外ノ各線ニ關シテモ順次對策ヲ研究中ナルカ北寧線ニ對シテハ軍側トシテモ鐵道子會社ノ設立ニ障礙ノ起ルヲ慮リ居ルニ付英國側ノ抗議アリタルヲ機會ニ右設立工作ニ並行シ前掲別電ノ要領ニ依リ速ニ中英公司其ノ他英國側トノ交渉ヲ側面ヨリ援助シ行クコトト致度キ所存ナルカ本件ハ北京山海關鐵道還附協定追加協定ニ變更ヲ加フルモノニシテ英國側ノ態度如何ニ依リテハ日英關係ニモ重大ナル影響ヲ與フルモノナルヲ以テ右ニ對シテモ此ノ際併セテ御意見至急御回答相成度シ

本電別電ト共ニ上海、天津、青島、濟南ヘ轉電セリ

北京 7月6日後発

本省 7月6日後着

(1) 北寧借款ニ對スル具體的對策案

一、略

二、(イ)略

(ロ)略

(ハ) 現有債務ニ對スル支拂若クハ支拂保障ノ意思表示ヲ爲シ之ト同時ニ借款附帶權利ヲ拋棄セシムル方針借款ニ對スル根本對策ハ目下研究過程ニアリ從テ右ノ如キ方針ヲ採擇スルコトハ早計ノ憾ナキニアサルモ究極ニ於ケル借款問題ノ歸趨ヲ案スルニ債務自體ハ多分ニ技術的修正ヲ爲スコトヲ前提トシテ繼承シ之ニ伴フ附帶權利ハ諸般ノ國策ニ應シ全面的ニ調整若クハ解除スルヲ至當トスヘシ

從テ北寧鐵道借款ニ對シテモ前掲ノ趣旨ヲ基ニ個々ノ契約ニ付テハ尙我方ニ有利ナル解決ヲ期スルコトトシテ鐵道財政力辨濟可能ナル時期ニ到達スルヲ待テ支拂ヲ開始スヘキ用意アル旨表明シ之ト同時ニ一八九三年關内外借款ノ如キ大連會議ノ結果既ニ事實上滿洲國政府ニ於テ辨濟シ山海關以北ノ鐵道債權モ現實ニ消滅セラル狀態ニ置カレアル事實ニ鑑ミ將來借款ノ支拂ヲ確實

ナラシムル理由トシテ英國ヲシテ右關内外借款契約竝ニ北京、山海關鐵道還附協定ニ基ク諸權利ヲ拋棄セシムルモノトス

(二)⁽²⁾當分ノ間不即不離ノ關係ヲ持續シ事態ニ應シ對策ヲ決定スルノ方針

本項ハ借款問題ノ根本方針カ決定スルニ至ラサルト北支經濟開發方針ノ具體化セサル現狀ニ鑑ミ今暫ク事態ヲ靜觀シタル上對策ヲ決定スルモノニシテ此ノ場合採擇スヘキ事由左ノ如シ

(一)軍事行動カ現ニ繼續中ナルコト

京津地方ハ日本軍ノ適切ナル行動ニ依リ局地のニ安定シタルカ如キモ未タ軍事行動繼續中ニシテ現ニ同地方治安維持上多大ノ犠牲ヲ拂ヒ居リ從テ斯ル作戰地域ニ於ケル事業權利ニ對シ平時同様ノ主張ヲ爲スハ國際道義上反省ヲ求ムルノ外ナシ

(二)輪轉材料其ノ他財産ノ損害大ナルコト

北寧線カ比較的順調ニ復舊シツツアルハ日本軍ニ於テ常ニ外國權益ヲ尊重シ多大ノ犠牲ヲ拂ヒ有效適切ナル行動ニ出テタル結果ナリ

然ルニ該鐵道ハ事變初期ニ於テ實質的ニ英國職員管理下ニ在リ乍ラ支那軍ノ爲輪轉材料ノ大部分ヲ南方ニ搬出サレ(暗ニ英側ノ責任ト見ラルヘキ旨強調シ)鐵道ノ運營ヲ著シク破壊セラルルニ至リタリ而シテ我方ハ目下莫大ナル犠牲ヲ拂ヒ之カ復舊ニ專念シ居ル狀態ナリ

(三)⁽³⁾財政ノ現狀ハ未タ借款ヲ支拂フ餘裕ナキコト

財政現狀カ前記ノ通りナルコト及之カ内容ハ英國職員ニ於テモ知悉スル所ナル旨指摘シ鐵道財政カ斯ク喰込ミ狀態ナル以上目下借款支拂ニ應シ難シ

(四)借款支拂ニ關シ外貨ノ買付不能ナルコト

借款ノ償還ハ磅建ナルモ北支ノ金融情勢上差當リ外貨ノ買付困難ナル事情アルヲ以テ支拂ヲ實施スル場合ニ於テモ中國聯合準備銀行券又ハ其ノ他ノ國內通貨ヲ以テ決済スル外ナシ

(※)英國職員ノ權限行使ニ關スル件

鐵道ハ軍事行動ノ根幹ヲ爲スモノニシテ直接軍事行動ニ關係アル事項ニ對シ日人ヲシテ當ラシムルハ自衛上當然ノ措置ニシテ此ノ結果自然外人ノ干涉ヲ僅少ナラ

シムルハ事情已ムヲ得ストノ主張ノ下ニ反駁ス
對策方針

第一、方針

北寧鐵道ニ對シ英國ノ有スル權益ハ鐵道運營ヲ掣肘スル
コト大ナルヲ以テ關内外借款契約第十一條ヲ適用シ該借
款ヲ一舉ニ償還スルヲ得策トスルカ如キモ日滿支ノ經財
的實情ヲ檢討シ我北支經濟開發方針ヲ考慮スルトキハ
甚タ困難ナル事情モアルモノト思惟セラルルヲ以テ左記
要領ニ依リ北寧鐵路代表ヲシテ中英公司代表ニ申入レシ
ムルト共ニ我方ニ於テモ同様ノ趣旨ニ依リ確實ナル方法
ヲ以テ借款ノ支拂ヲ斡旋スルノ用意アル旨通告スルモノ
トス

第二、要領

一、北寧鐵道ノ對英借款ハ同鐵道ノ重要性ニ鑑ミ可及的速ニ
英國權益ヲ排除スルコトヲ目的トシ之方對策ハ前記ニノ
事由ヲ強調シツツ他ノ方針ヲ以テ以下記載セル要領ニ依
リ商議スルモノトス

二、北寧鐵道ノ收入金ヲ以テ從來支拂ヒ居タル借款ハ概ネ同
鐵道ノ財政恢復期タル民國二十八年度下半年期(明年一月)

以降鐵道收益ニ應シ逐次償還ヲ爲スモノトス但シ借款ノ
繼承及之方償還方法ニ關シテハ別途双方協議ノ上決定ス
ルコトトスルモ支拂ニ付テハ中國聯合準備銀行券ニ依リ
決濟スル建前ヲ固持ス

三、關内外支拂ハ從前通り奉山局ヲシテ履行セシムルニ依リ
中英公司ハ一八九八年關内外借款及一九〇二年北京、山
海關、鐵道還附協定追加協定ニ基ク諸權利ヲ拋棄スルコ
トトス

四、前項ノ場合ニ於テ支拂保障ヲ要スルトキハ鐵道收入金ノ
一部ヲ銀行ニ供託シ當該銀行ヲシテ保障セシムル等適當
ナル保障ノ方法ヲ提示ス

五、英國職員ノ權限行使ニ關シテハ鐵道トシテ何等回答スヘ
キ筋合ニアラサルヲ以テ別個ニ本關係當局ニ於テ解決ス
ルモノトス

(別電二)

北京 7月5日後發
本省 7月5日夜着

第九八七號

拜啓六月廿五日附貴翰拜見仕候

御承知ノ如ク北支ニ於ケル鐵道ハ事變以來敵軍ノ爲破壊セラレ且輪轉材料及従業員等モ逃避シタル者少カラスシテ日本軍ハ作戰上非常ナル不便ヲ感シアリ候依テ今回日本軍ノ作戰期間中特別ノ處置トシテ其ノ能率ヲ最大限ニ發揮セシムル爲一時的ニ機構ノ改組ヲ行ヒタルモノニ御座候而シテ此ノ改組ハ右申ス如ク日本軍力作戰上ノ必要ニ基キ關係各機關ト充分了解ノ上實施シタルモノナルコトヲ申上候前記ノ如ク最大能率ヲ舉クル爲ニハ運營其ノ他ニ關シ一部日本人力干與シツツアルハ事實ニ候處此ノ改組ニ依リ英國ノ權益ヲ犯スノ意思ハ毛頭無之西洋人會計處長タリシ人モ實質的ニ舊北寧鐵路所管ノ會計ニ關シ必要ナル「チエツク」且「サイン」ヲ爲シアル次第第二候

尚以上機構改正モ鐵道收入ヲ朝鮮銀行ヘ預託スル件モ總テ借款協定ニ依リタル西洋人職員ト事前ニ了解ヲ遂ケ又ハ協議ノ上其ノ同意ヲ得テ爲サレタルモノニ付此ノ點亦了承相成度シ

671

昭和13年7月7日

在上海日高總領事より
宇垣外務大臣宛(電報)

華北塩務行政の復旧を塩務総局ボードが要請 について

上海 7月7日後発

本省 7月7日夜着

第二一二九號

先日或宴席ニテ本官ニ紹介サレタル鹽務總局「ボード」本七日日本官ヲ來訪曾禰代ツテ應接セルカ同人ノ語レル處概ネ左ノ通り御參考迄

一、「ロツクハート」ハ事變以來只管漢口ノ氣息ヲ伺ヒ鹽務機構ノ國際的重要性ニ思ヲ致サス「ボ」ノ屢次ノ說得ニ拘ラス占領地鹽稅處理ニ關シ日本側ト接洽ヲ圖ラサリシ處最近英大使及「ホールパツチ」ヨリ其ノ無能ヲ叱責セラレ(英國側ニテハ「ロ」ヲ罷免シ英人ヲ後任ニ据エント試ミ居ル由)今ニ至リテ日本側トノ聯絡ニ惱ミ始メタリ

二、外積支拂ニ付テハ事變以來今日迄鹽務總局ニ對スル未占領地ヨリノ外債「クオータ」送金ト從來ヨリノ積立金

〔ピクル〕三十仙ノ外債附加税ニシテ平時ノ年收約八百萬元ニ達スヲ以テ支拂ヲ繼續シ延滞ナカリシカ既ニ長蘆、山東ノ外兩淮ヲ失ヘル以上次期支拂(九月)ニハ愈々漢口ヨリノ特別送金ナキ限り不足スル計算ナルヲ以テ日本占領地方ヨリ「クオータ」及外債附加税ノ送金方望マシキ次第ナリ

三、⁽²⁾上海ニ於ケル鹽務機關ハ外債支拂審計部ニ對スル報告等ノ外上海鹽務局トシテ佛租界及共同租界トノ協定ニ基キ租界内私鹽ノ取締ニ任シ居ルモ漢口ニ對スル送金ノ如キハ一切爲シ居ラス

四、鹽務ハ關務ト異リ開港場ヲ離レタル奥地ニテ徵稅ヲ要シ之カ機能ノ破壊ハ一朝ニシテ回復シ得サルヲ以テ速ニ日本占領地ニ於ケル鹽務ヲ從來ノ鹽務機關ヲシテ確保セシムルコト必要ナリ

尙「ボ」ノ來訪ハ約二週間前東京ニ於テ英、米、佛大使ヨリ共同申入ヲ爲シタルコトニ關聯シ居ル模様ナルカ(御回電アリ度シ)曾禰ヨリ今トナリテハ鹽務機關カ日本側ニ接觸ヲ圖ルモ時期遅レナルコト、新政權側トノ關係ニ付テハ鹽務機關カ新政權ニ忠誠ヲ誓フコトカ前提條件ナルコトヲ

指摘シ置ケル由

北京、天津、青島へ轉電セリ

~~~~~

672

昭和13年8月18日

在上海日高總領事より  
宇垣外務大臣宛(電報)

# 塩務新会社設立報道に対する英国大使抗議への回答振り報告

上海 8月18日後発

本省 8月18日夜着

第二五一四號

貴電合第二六二一號ニ關シ(鹽務ニ關スル英國側申出ニ對スル回答ノ件)

一、當地ニ於テモ十一日附公文ヲ以テ「カー」ヨリ谷公使宛新聞報道ニ依レハ中支ニ於テハ資本金五百萬圓ヲ以テ通源。公司ナルモノ設立セラレ又北支ニ於テモ資本金三千五百萬圓ノ北支鹽業會社ヲ設立計畫中ノ趣ナルカ日本政府ハ右御承知ナリヤ又然リトセハ是等會社設立ニ依リ影響ヲ受クルコトアルヤモ知レサル英國ノ利益保全ノ爲如何ナル措置ヲ執ラントスルヤ御通報アリ度キ旨申越シ又十

六日附公文ヲ以テ佛國側ヨリモ大體同趣旨ヲ申越セリ  
(委細郵報)

二、右ニ對シテハ通源公司ナルモノハ舊來ノ鹽商ニ依リ組織  
セラレタルモノナル由承知シ居ルモ北支鹽業會社ニ付テ  
ハ何等具體的計畫アルヲ承知シ居ラサル旨ヲ附加シ大體  
貴電合第二六二二號ノ通り回答シ度キ所存ナリ

三、尙冒頭貴電後段外債「クオウタ」ハ各鹽區毎ニ稅收ヲ算  
出シ得サル等ノ爲實行困難云々ノ點ニ付鹽稅ニ關シテハ  
關稅ノ場合ト異ナリ從來各鹽區ニ對スル「クオウタ」カ  
決定シ居リタルハ御承知ノ通りニシテ外債支拂不能ナル  
一半ノ理由トシテハ抑奧地徵稅ヲ要スル鹽務全體ノ運行  
カ時局柄至難ナルニアリト存セラル

北京、青島へ轉電セリ

昭和13年10月17日 在北京堀内大使館參事官より  
近衛外務大臣宛(電報)

華北交通會社設立に關する北支那方面軍と中  
華民國臨時政府との間の覺書案について

別電 昭和十三年十月十七日發在北京堀内大使館參

事官より近衛外務大臣宛第一五七三號  
右覺書案

北京 10月17日後發  
本省 10月17日夜着

第一五七二號(部外祕)

貴電第九六七號ニ關シ(北寧鐵道借款對策ニ關スル件)

軍司令官王克敏間覺書案(別電第一五七三號)ハ未タ確定案  
ニハアラサルモ軍參謀長ノ決裁ヲ經タルモノナル趣ナリ交  
通會社設立ニ關スル王克敏トノ話合ハ監督權問題等ニ關シ  
多少曲折アリタル模様ナルモ大體順調ニ進ミ居ル由ナリ  
本電及別電ハ上述ノ理由モアリ關係者ニ對シ直接及間接ニ  
モ提示セサルコトト致度シ  
本電別電ト共ニ上海、天津へ轉電セリ

(別電)

北京 10月17日後發  
本省 10月17日夜着

第一五七三號(部外祕)

北支交通會社設立ニ當リ寺内軍司令官ト王克敏トノ間ニ左

記了解ヲ遂ケ有事ノ際ニ於ケル軍司令官ノ交通管理權ヲ發動シ得ル如ク措置ス

但シ之カ發動ニ當リテハ充分事前ニ軍中央部ト聯絡ヲ保持スルモノトス

北支那交通株式會社設立ニ關スル了解事項

現下ノ時局ニ即應シ北支ニ於ケル治安ノ回復、民生ノ復興ニ資スルト共ニ日滿支三國ノ共榮竝ニ防共ノ實現ヲ期スル爲北支主要交通ニ關シ左記ノ如ク處理スルモノトス

# 左記

一、新ニ中國法人タル特殊會社ヲ設立シ同會社ヲシテ日本軍カ北支ニ於テ現ニ占有シアル交通及爾他主要交通諸事業ヲ綜合的ニ經營セシム

二、會社經營ノ方針ハ左ノ要領ニ依ルモノトス

一、現存鐵道（通古線ヲ除ク）ハ中華民國臨時政府ノ國有トシ其ノ經營ヲ會社ニ委託ス

二、右以外ノ主要鐵道、港灣ノ建設經營ハ會社之ニ任シ且是等ヲ社有トス

三、北支日本陸軍最高指揮官ハ現時ノ情勢ニ鑑ミ會社設立後ニ於テモ軍事行動間ハ昭和十三年四月二十七日交通

通信及航空等ニ關スル覺書ニ依ル管理ハ依然之ヲ繼續ス

但シ會社ノ經營ヲ良好ナラシムル爲中華民國臨時政府及日本側ノ適當ナル機關ニ所要ノ監督權ヲ委任スルモノトス

## 備考

通信、航空ニ關スル會社ニ於テモ概ネ前各項ニ準シ適切ナル措置ヲ講スルモノトス

上海、天津ヘ轉電セリ



674

昭和13年10月28日 陸軍・海軍・外務三大臣決定

## 「漢口方面政務處理要綱」

漢口方面政務處理要綱

昭和十三年十月二十八日

陸海外三大臣決定

漢口方面ニ於ケル政務處理ハ差當リ概ネ左ノ趣旨ニ準據スルモノトス

## 第一方針

漢口方面ノ政務關係ノ處理ハ國軍ノ作戰並治安維持ノ範圍ニ止メ爾他ノ政務ハ努メテ支那側ノ實施ニ委スルモノトス

## 第二要領

一、政治指導ハ左ノ要領ニ據ルモノトス

(一) 特ニ軍政ヲ行ハス政務ノ施行ハ努メテ支那側ノ自治ニ俟ツモノトス

(二) 差當リ治安維持會ノ育成ヲ主トシ情勢ノ安定ニ伴ヒ防共地方政權ヲ樹立ス

右政權ノ區域ハ差當リ江西、湖南及湖北ノ各省トス

右政權ノ樹立ハ支那側ノ發生ニ委ス但政權樹立ノ促進

ハ我政務指導機關(陸海外漢口連絡會議)協力ノ下ニ主

トシテ謀略機關(對支特別委員會)之ニ當リ成立後ノ政

權ノ内面指導ハ政務指導機關之ニ當ルモノトス尙政權

樹立工作ニ方リテハ焦燥且粗惡ノ政權樹立ヲ避クルモ

ノトス

(三) 漢口日本租界ヲ中心トスル邦人ノ復歸並復興ニ努ム

二、經濟指導ハ左ノ要領ニ據ルモノトス

(一) 經濟ニ關スル施策ハ差當リ國軍ノ生存ニ必要ナル物資獲得ヲ主トシ漸次支那民生ノ回復ヲ期スルト共ニ我質

易ノ振興ヲ圖ルヲ以テ主眼トス

(二) 經濟ノ建設ハ主トシテ支那人ヲシテ之ヲ實施セシメ我國資本及資材ニ依ル新ナル建設ヲ企圖セサルト共ニ支那側既存企業ノ買收、併合等支那側指導上弊害ヲ生スル虞アル施策ヲ行ハサルモノトス

三、第三國關係ノ處理ハ左ノ要領ニ據ルモノトス

(一) 第三國ノ權益ヲ尊重シ外交經濟等紛糾ノ惹起ヲ避ケ特ニ第三國ヲシテ事變ニ對スル干涉ノ口實ヲ捉ヘシメサルコトニ努ム若シ紛糾惹起シタル場合ニハ大局的の見地ニ立チ即時成ルヘク現地ニ於テ之ヲ處理ス

(二) 第三國租界ニ對シテハ不必要ノ刺戟ヲ與ヘサルコトニ努ムルモノトシ第三國排撃等ノ措置ヲ戒ム

四、漢口方面政務關係ノ處理ハ陸海外三省現地機關ニ於テ構成スル陸海外漢口連絡會議之ヲ審議決定シ且實施ノ衝ニ當ル

右連絡會議ト謀略機關(對支特別委員會)トハ密ニ連絡協調ヲ保持スルモノトス

675

昭和13年10月28日 陸軍・海軍・外務三大臣決定

「南支作戰ニ伴フ政務處理要綱」

南支作戰ニ伴フ政務處理要綱

昭和十三年十月二十八日

陸 海 外 三 大 臣 決 定

南支(兩廣以下之ニ倣フ)作戰ニ伴フ政務處理ニ關シテハ差當リ概ネ左ノ趣旨ニ準據スルモノトス

第一方 針

南支ハ之ヲ純粹ノ作戰地域トナシ之カ政務指導ハ國軍ノ作戰竝治安維持ニ必要ナル範圍ニ止メ爾他ノ政務ハ努メテ支那側ノ實施ニ委スルヲ本旨トス

第二 要 領

一、政治指導ハ左ノ要領ニ據ルモノトス

(一) 特ニ軍政ヲ行ハス政務ノ施行ハ努メテ支那側ノ自治ニ俟ツモノトス

(二) 我方ノ行フ政治指導ハ前項ノ趣旨ニ基キ差當リ治安維持會育成ノ程度ニ止ム

(三) 地方政權ノ樹立ハ支那側ノ發生ニ委ス

但地方政權樹立ノ促進ハ我政務指導機關(陸海外廣東連絡會議)協力ノ下ニ主トシテ謀略機關(對支特別委員會)之ニ當リ成立後ノ地方政權ノ指導ハ政務指導機關之ニ當ルモノトス

(四) 南支ニ對スル政治其他ノ指導ハ南支官民カ未タ皇軍ノ威力及我國力ヲ知ラス且特殊ノ性情ヲ有スルニ鑑ミ特ニ軍ノ威力發揚ノ下ニ民衆愛護ヲ徹底セシメ以テ對日依存ノ實ヲ舉ケシムルコトニ努ムルモノトス

二、經濟指導ハ左ノ要領ニ據ルモノトス

(一) 經濟ニ關スル施策ハ差當リ國軍ノ生存ニ必要ナル物資獲得ヲ主トシ漸次支那民生ノ回復ヲ期スルト共ニ我貿易ノ振興ヲ圖ルヲ以テ主眼トス特ニ此際我方ニ於テ新權益ノ設定獨占等ノ施策ハ之ヲ行ハス

(二) 經濟建設ハ主トシテ支那人ヲシテ實施セシメ我國資本及資材ニ依ル新ナル建設ハ貿易振興竝對華僑工作等特ニ必要ナルモノニ限定スルヲ本旨トス

(三) 華僑ニ對シテハ政治其他ノ施策ト相俟テ之ヲ反蔣、親日ノ二指導シ我對南支策ニ寄與セシムルト共ニ對南洋貿易ノ發展ヲ圖リ以テ不足資源ノ獲得ヲ容易ナラシム

三、第三國關係ノ處理ハ左ノ要領ニ據ルモノトス

(一)第三國ノ權益ヲ尊重シ外交經濟等紛糾ノ惹起ヲ避ケ特ニ第三國排撃等ノ措置ヲ戒メ以テ事變ニ對スル干涉ノ口實ヲ與ヘサルコトニ努ム若シ紛爭惹起シタル場合ニハ大局ノ見地ニ於テ即時成ルヘク現地ニ於テ之ヲ處理ス

(二)英國ニ對シテハ特ニ既存ノ權益ヲ認メ嚴ニ問題ノ發生ヲ避クルト共ニ彼ヲシテ蔣政權援助ノ方針ヲ棄テ帝國ノ政策ニ順應セシムル如ク適宜施策ス

(三)澳門ニ對シテハ好意的態度ヲ保持ス

四、南支軍占據地方政務關係處理ハ陸海外三省現地機關ニ於テ構成スル陸海外廣東連絡會議之ヲ審議決定シ且實施ノ衝ニ當ル

右連絡會議ノ擔任區域ハ差當リ兩廣地方トス

右連絡會議ト謀略機關(對支特別委員會)トハ密ニ連絡協調ヲ保持スルモノトス



676

昭和13年11月3日

在香港中村総領事より  
有田外務大臣宛(電報)

華南方面の政務處理に關しては香港にも三省  
連絡會議の設置を検討方意見具申

香港 11月3日後發  
本省 11月3日夜着

第一四七三號(極祕)

貴電第四七五號ニ關シ(南支方面政務處理要綱ニ關スル件)  
陸海外廣東聯絡會議ニ於テ南支政務處理ノコトト相成リタルハ寔ニ結構ナルモ兩廣方面ノ現狀ヨリ見レハ香港ハ國民政府兩廣福建等各方面有力支那人ノ集合ノ中心地タルニ反シ廣東ニハ殆ト人物殘留セス且當地トノ交通モ杜絶シ居リ現ニ廣東汕頭及福建方面ニ乗出シテ目論見居ル分子モ主トシテ當地ニ於テ畫策中ニテ本官ニモ既ニ廣東勞動者團體ヲ始メ陳濟棠時代ノ有力者福建方面ノ有力者等ヨリ接觸ヲ求メ來リ居ル實狀ニテ此ノ傾向ハ當分續クモノト考ヘラル就テハ少クトモ地方政權誕生迄ハ當地ニモ廣東同様三省係官ノ聯絡會議ヲ設置シ廣東會議ト密接ナル關係ヲ持續シツツ政務處理ニ積極的ニ協力セシムルコト必要ト存セラル尙對支特別委員會ノ活動ハ南支ニ關スル限り殆ト陸軍ノミニ限ラレ居ル感アル處舞臺ハ既ニ軍事ヲ離レ政治中心ニ移

り來リタルニ鑑ミ支那ノ各社會層ヲ糾合スル爲ニハ外務方面モ同等ノ資格ニテ其ノ過去ノ聯絡ヲ以テ委員會ニ參加スル必要アルニ付同委員會ノ最高首腦部ノミナラス實際工作ノ衝ニ當ル向ニモ外務省員ヲ參加セシメ積極的二軍側關係者ト聯合シ進ンテ之カ達成ニ寄與スヘキコト時宜ニ適スルヤニ思考セラル

就テハ前記二點ニ付陸海軍中央部トモ御協議ノ上何分ノ御回訓相煩度シ

上海ヘ轉電アリタシ



677 昭和13年12月16日 閣議決定

「中華航空株式會社設立要綱」

中華航空株式會社設立要綱

三、三、一六、 閣議決定

第一 方針

支那ニ於ケル航空事業ノ我方實權下ニ於ケル一元の經營ヲ策シ政治、經濟及國防上ノ要求充足ヲ圖ルト共ニ東亞航空政策ノ實現ニ資スル爲日支合辦ノ本格的航空會社ヲ設立ス

ルコトヲ目標トシ差當リ現下ノ急需ニ應ゼシムル爲暫定的

ニ速ニ中華航空株式會社(假稱)ヲ設立ス

惠通航空股份有限公司ハ之ヲ本會社ニ統合セシム

第二 要 領

一、名稱

中華航空株式會社

二、事業目的

1. 旅客及郵便物又ハ其他ノ貨物ノ航空機ニヨル運送

2. 航空機ノ賃貸事業

3. 其ノ他航空機ヲ以テスル一切ノ事業

4. 航空事業ノ發展ニ資スベキ事業

5. 前各號ニ附帶スル事業

6. 前各號ニ掲グル事業ニ對スル投資

三、資本

1. 資本總額六百萬圓

2. 資本割當(豫定)

|          |       |
|----------|-------|
| 中華民國臨時政府 | 百八拾萬圓 |
| 維新政府     | 貳百萬圓  |
| 蒙疆政府     | 貳拾萬圓  |



惠通航空<sup>(附)</sup>股份有限公司  
大日本航空株式會社

百萬圓(現物出資)  
百萬圓(現物出資)

註一、惠通ノ出資百萬圓ハ本會社成立後臨時政府ニ  
五拾萬圓大日本航空ニ五拾萬圓名義變更サル  
ルモノトス

註二、現金出資ハ當初二分ノ一拂込トシ殘額ハ會社  
設立後六ヶ月後ニ於テ拂込ムモノト豫定ス

註三、現在滿航ヨリ惠通ヘ融通シアル金額ハ一應其  
ノ儘本會社ニ融通シ貸與シアル器材ハ滿航ヨ  
リ本會社ニ賣渡スモノトシ本會社ハ註一、ノ名  
義變更ノ際大日本航空ヨリ所要資金ノ貸付ヲ  
受ケ右融通金及器材代金ヲ滿航ニ對シ支拂フ  
モノトス

四、法人格及本社所在地

臨時、維新及蒙疆政府ノ特殊法人トシ三政府ニ設立登記

ヲナス

本社ハ差當リ北京ニ置クモノトス

五、役員

社長一、副社長一、理事若干名、監督若干名

六、特典

1. 支那ニ於ケル航空事業(航空機製造事業ヲ含ム)獨占權  
ノ享有但シ既ニ國民政府ノ許可ヲ受ケタル航空輸送事  
業ニ付テハ將來ノ整理ニ待ツモノトシ現ニ大日本航空  
及滿航ノ行フ支那國內航空事業ニ付テハ別ニ之ヲ定ム  
2. 國有飛行場使用ニ關シ獨占ノ特權ノ享有  
3. 必需品ニ對スル輸入税ノ免除並ニ租税其ノ他一切ノ公  
課免除

4. 土地收用其ノ他官營事業ニ與ヘラル可ヘ特典ノ賦與<sup>(キヤ)</sup>  
5. 事業上必要ナル通信、標識及放送ノ專用運營權ノ賦與  
6. 三政府其ノ他ヨリ經營上必要トスル補助金ノ交付  
7. 本會社ハ株式全額拂込前ト雖其ノ資本ヲ増加スルコト  
ヲ得

七、特殊義務

本會社ハ公益上必要ナル命令ニ服スルモノトス

八、本會社ノ監督ニ付テハ別ニ之ヲ定ム

備考

一、本會社ハ急速ニ設立セシムル爲差當リ株式公募ノ方  
法ニ依ラズ發起設立ニ依リ成立セシムルモ將來適當

ナル時期ニ於テ一般國民ガ本會社ノ株主タリ得ルノ途ヲ拓クモノトス其ノ際出征者及其ノ家族、在支邦人ニ對シ特別ノ考慮ヲ拂フモノトス

二、本會社ノ人員採用ニ付テハ出征者及其ノ家族、在支邦人等ニ對シ事情ノ許ス限り特別ノ考慮ヲ拂フモノトス

三、支那ニ於ケル第三國ノ航空權益ニ付テハ本會社ヲシテ第三國ノ既得權益線ヲ運航セシメ既成事實ノ作成ニ努メ以テ第三國トノ商議ニ際シ有利ノ地步ヲ占ムル如ク準備スルモノトス

附箋 備考三、第三國權益ノ處理ニ付テハ特別ノ注意ヲ拂ヒ之カ侵害ニ互ラサル様慎重措置セラルルモノト諒解ス

外務大臣 花押

閣議諒解事項(其ノ一)

東亞ニ於ケル航空事業(航空機製造事業ヲ含ム、以下同ジ)ノ整正確實ナル發展ヲ期スル爲支那ニ於ケル航空事業ニ付テハ日本政府ニ於テ實質上一元的統制ヲ保持シ得ル如ク措

置スルモノトス

閣議諒解事項(其ノ二)

一、關稅其ノ他公課ノ免除ニ關シテハ政府補助金ト關聯シテ別ニ定ム

二、本會社ニ對スル民間關係機關ヨリノ補助金ハ原則トシテ大日本航空株式會社ヨリ之ヲ支出セシムル様措置スルモノトス

三、本會社ニハ適當數ノ支那人役員ヲ置クモノトス

四、人員資材ノ供(貸)與、飛行場ノ使用其ノ他運營上陸海軍ハ於テ所要ノ援助ヲ與フルモノトス

五、惠通航空股份有限公司ノ人員ハ原則トシテ本會社ニ引續ギ其ノ主體トシテ之ニ吸收スルモノトス

六、第一方針中ニ掲グル本格的航空會社ハ速ニ之ヲ設立スルモノトシ右設立ニ當リテハ資本ノ構成、人的關係、本社ノ所在地等本暫定會社ニ拘束セラレザル見地ニ於テ行ハルベキモノトス

本格的會社設立ノ際ハ其ノ設立ノ趣旨ニ反セザル範圍内ニ於テ友好國ノ資本及技術ヲ參加セシムル如ク考慮スル

モノトス

閣議諒解事項(其ノ三)

本要綱ノ實施ニ當リテハ資金物資ノ關係ニ付左記ニ依ルモノトス

記

一、本事業遂行ニ要スル諸物資ハ能フ限り之ヲ本邦ニ於テ調達スルモノトス

二、本邦ヨリ既ニ積出濟ノ貨物ノ代金ノ決済モ之ヲ本邦ニ於テ爲スモノトス

三、外國資本(支那資本ヲ含ム)ノ買收ハ極力之ヲ避ケ現物出資ノ方法ニ依ルコト 已ムヲ得ズ買收ノ要アルトキハ契約締結前ニ日本政府ト協議スルモノトス

四、起業費、運轉資金ノ送金及設備用機械類ノ無爲替輸出ニ關シ今後ノ爲替狀勢及物資需給關係等ニヨリテハ當初ノ資金物資計畫ヲ變更スルノ要アルヘシ



678

昭和14年2月10日

日本軍の海南島上陸に関する情報部長談話

日本軍海南島上陸ニ關スル外務省情報部長談

(二月十日)

明治四十年(一九〇七年)日佛協約締結當時ハ支那ハ半身不隨時代テ治安維持ノ能力ヲ缺キソノタメニ日佛兩國ノ支那トノ接壤近邇地帶ノ不安動搖ヲ防止スル見地カラ相互支持ヲ約シタモノテアルカソノ後支那ノ政治情勢ハ一變シ締約當時ノ如キ不安カ一掃セラレタカ茲ニ新シイ危險カ生シタ、即チ支那力整備サレタ大軍隊ヲ擁シテ敍上ノ地帶ヲ策戰根據地帶トシテ接壤近邇國ニ對シテ攻撃ヲ加ヘル可能性力發生増大シ來ツタコトテアル、コレハ又支那事變ノ一ツノ原因ヲ爲シテキルノテアル。

戰局擴大ニツレテ作戰地帶ハ支那全土ニ擴カリソノ重點ハ北カラ南ヘ次第二移行スル傾向ニアリ、海南島ハ目下支那軍ノ重要作戰地帶テ從ツテ支那軍力ヲ掃蕩スルノ目的ヲモツテ今回ノ海南島上陸力行ハレタ以上日佛協約ニ豫見サレタ協約兩國ノ相互平穩保障ノ問題トハ全然別個ノ問題テアル、一八九七年ノ海南島ノ不割讓ニ對スル佛支間ノ交換公文ハ兩國間ノ問題テ何等日本ヲ拘束スルモノテハナイ。

(都下新聞掲載ノモノ)

編 注 本文書は、昭和十四年十二月、情報部作成「支那事變

關係公表集(第四號)」から抜粋。

679 昭和14年3月14日 在広東岡崎総領事より  
有田外務大臣宛

### 海南島への邦人の渡航制限につき報告

機密第一四一號 (接受日不明)

昭和十四年三月十四日

在廣東

總領事 岡崎 勝男(印)

外務大臣 有田 八郎殿

海南島渡航ニ關スル件

海南島ノ占領ハ咄嗟ニ行ハレタルニ付支那住民ハ殆ント逃避セス海口市ノ如キハ目下依然トシテ居住營業シアリテ空屋皆無ノ狀態ナリ旁々邦人カ無制限ニ同地方ニ進出セントスレハ直ニ家屋ノ問題ニ困難ヲ生スルノミナラス元來人口及經濟力共ニ僅少ナル該地方ニテ支那人トノ間ニ競争モ生

シ宣撫工作上種々面白カラサル問題惹起スヘキハ頗ル明瞭ナリ

是ニ於テ海口三省連絡會議ニ於テハ目下邦人ノ進出ハ廣東ト同島トノ間ヲ往復スル軍用船ニ依ルノミニテ一般交通運輸機關整備セサル際ニモアリ差當リ之カ進出ヲ必要ノ限度ニ止ムルコト特ニ利權漁リ等ヲ目的トシ海南島ニ於ケル邦人ノ堅實ナル發展ヲ阻害スルカ如キ惧アル邦人ノ渡來ハ嚴ニ之ヲ禁止スルコトトシ之カ爲海南島渡航希望者(軍人又ハ軍關係ノ者ヲ除ク)ニシテ當館ノ證明ヲ携帯セサルモノハ軍用船ニ便乗セシメサル様希望アリタリ

依テ當地三省連絡會議ニテ協議ノ結果右要望ニ副ヒ當館ヨリ證明書ヲ發給スルコト竝將來臺灣等ヨリ海南島宛直航船運行セラルル際ハ改メテ對策ヲ考究スルコトナレリ

就テハ本邦臺灣方面ニ於テハ渡航希望者相當アルヤノ趣ニ付右趣旨周知方可然御取計相成度此段報告旁申進ス

本信寫送付先 上海、厦門、香港、臺外

680 昭和14年4月13日 在海口昌谷(忠)總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

海口における三省連絡會議において海南島への邦人渡航条件決定について

海口 4月13日後発

本省 4月14日前着

第三四號(至急)

當地聯絡會議ニ於テ當地向ケ一般渡航條件ニ關シ左記ノ通り決定シ來ル四月二十一日以降之ヲ實施スルニ付右關係官廳、在外公館竝ニ航空及汽船會社へ通報方然ルヘク御取計ヲ請フ

記

- 一、在海口陸海外三省聯絡會議ニ於テ調査若クハ産業開發ヲ認許セラレタル關係者
- 二、官廳關係視察旅行者
- 三、海南島永住希望者ニシテ左ノ各項ノ條件ヲ具備スル者
- イ、確實ナル具體的目的ヲ有シ所要ノ資金ヲ有スルコト
- ロ、兵役關係者タラサルコト
- ハ、病弱者タラサルコト
- ニ、所轄官憲ノ身許證明ヲ所持スルコト但シ海外ヨリノ直接渡航者ハ所轄帝國領事館ノ身許證明書ヲ要ス

四、一般寄航者ニシテ單純ナル視察ヲ目的トシ短期間滞在ノモノ

五、第三國人ハ從來海南島ニ關係アリ且右ニ付帝國官憲ノ證明書ヲ有スルモノノ外當分ノ間一般渡航ヲ禁止ス

廣東へ轉電セリ



681 昭和14年4月21日 陸軍・海軍・外務三大臣決定

「海南島政務暫定處理要綱」

海南島政務暫定處理要綱

昭和十四年四月二十一日

陸、海、外三大臣決定

第一、方針

海南島ニ於ケル差當リノ政務處理ハ同島攻略目的ニ鑑ミ先ヅ作戰ノ遂行竝ニ治安ノ確保ニ重點ヲ置クト共ニ我國不足資源ノ急需ニ對應スベキ重要資源ノ調査及獲得ニ努ムルヲ目途トス

第二、要領

一、政務關係處理機關

海南島ニ於ケル政務關係ノ處理ハ現地ニ在ル陸海軍各政務處理機關及外務派遣機關ヲ以テ構成スル海口連絡會議之ヲ擔當シ其ノ實行ニ當ルモノトス

## 二、政治指導

(イ) 差當リ治安維持ヲ目的トスル治安維持會ヲ育成ス

(ロ) 差當リ海南島ノ政治機關ハ將來樹立セラルベキ西南地方政權ト直接關係ナキ地方政治組織タラシムル如ク指導ス

導ス

## 三、經濟指導

(イ) 經濟ニ關スル諸施策ハ島民宣撫並ニ民生回復上必要ト

スルモノノ外爲シ得ル限り現地調辨ヲ旨トシ之ヲ行フモノトス

(ロ) 國防、經濟上重要ナル諸資源ニ對シテハ極力其ノ調査

ヲ促進シ急需ニ應ズル不足資源ニ關シ所在資源ノ獲得ヲ圖ルモノトス

國防上必要ナル特定資源ハ將來之ヲ確保シ得ル如ク考慮スルモノトス

(ハ) 金融、交易、關務、通信、航空、海運等ハ本島ノ地方の事情ヲ考慮シ機宜定ムルト共ニ必要ナル事項ニ付テ

ハ本邦トノ直接連絡ヲ考慮スルモノトス

金融對策中軍票ノ價值維持ニ關シテハ速ニ必要ナル措置ヲ講ズルモノトス

(備考)

海南島ニ於ケル宿舍、物資不足ノ現情ニ鑑ミ調査、視察等ノ爲ノ渡航者ハ現地ノ要望ナキ限り各方面ニ於テ渡航ヲ制限スル如ク措置スルモノトス

(終)

682

昭和14年6月27日 興亜院會議決定

### 「厦門特別市ニ關スル日支間協定事項」

厦門特別市ニ關スル日支間協定事項

今般厦門特別市成立ヲ見ルニ至リタル處日支共存共榮ノ大義ニ則リ市政ノ圓滑ナル運用ヲ期スル爲左記事項ヲ協定ス  
一、市長ノ就任又ハ辭任ニ付テハ其ノ都度豫メ在厦門日本國官憲ニ協議スルコト

二、日本國臣民タル市參議ハ定員ノ半數ヲ限度トシ在厦門日本國官憲ノ推薦ニ依リ任命スルコト

三、顧問ハ在厦門日本國官憲ノ推薦ニ依リ日本國臣民ヲ招聘スルコト

四、警察廳長及副廳長ハ日本國官憲ノ要求アル場合ハ日本國臣民ヲ任命スルコト

五、日本人警察官ヲ六十人以上任用スルコトトシ其ノ身分取扱ニ付テハ顧問ノ承認ヲ經ルコト

六、厦門治安維持會ニ於テ發シタル法令及之ニ基ク行爲及效果ハ厦門特別市之ヲ承繼スルコト

七、厦門治安維持會ニ屬スル事務並ニ財産(負債ヲ含ム)其ノ他ノ權利義務ハ厦門特別市之ヲ承繼スルコト

中華民國二十八年 月 日

興亞院厦門連絡部長官

厦門特別市長

厦門治安維持會々々長

編 注 厦門特別市は七月一日成立。

~~~~~

683 昭和14年6月27日 興亜院會議決定

「厦門特別市ニ關スル日支間覺書(不公表)」

厦門特別市ニ關スル日支間覺書(不公表)

厦門特別市ニ關スル日支間協定事項ノ外ニ厦門連絡部長官ト厦門特別市長間ニ左記要旨ヲ覺書トシテ交換スルモノトス

厦門特別市ニ關スル日支間覺書(不公表)

一、主要ナル經濟部事業ハ日支合辦組織トスルヲ原則トス

二、市政上重要ナル事項ハ興亞院厦門連絡部長官ノ承認ヲ經ベキコト

三、協定事項中在厦門日本國官憲トアルハ興亞院厦門連絡部長官ノコトトス

~~~~~

684 昭和14年8月4日 閣議決定

「蒙疆統一政權設立要綱」

付記一 昭和十四年八月(日付不明)、山脇(正隆)陸軍

次官より山下(奉文)北支那方面軍參謀長、田

中(新二)駐蒙軍參謀長宛電報

蒙疆統一政權の名称に関する注意点

## 1 一般問題

二 昭和十四年九月二日、駐蒙軍參謀部作成

「新支那中央政府ト蒙古聯合自治政府トノ關係調整要領」

### 蒙疆統一政權設立要綱

昭和十四年七月二十八日

興亞院會議決定

昭和十四年八月四日

閣議決定

一、蒙疆聯合委員會及三自治政府ヲ統合シ統一政權ヲ樹立シ之ヲ蒙古聯合自治政府ト稱ス

二、蒙古聯合自治政府ハ高度ノ自治制トス

三、蒙古聯合自治政府ハ民族協和ヲ基調トシ親日防共民生向上ヲ以テ施政ノ綱領トナス

四、首都ハ○○○ニ奠メ其ノ名稱ハ○○○ト定ム但シ當分ノ間ハ張家口トス

五、紀元年號ハ成吉思汗紀元ニ依リ、曆年號ハ支那中央政府ノ年號ニ依ル

政權旗ハ別ニ之ヲ定ム

六、蒙古聯合自治政府ニ主席、副主席ヲ置ク、主席ハ政府ヲ

代表ス

主席事故アルトキハ副主席、主席ノ權限ヲ代行ス

七、主席ノ協議機關トシテ最高顧問ヲ置キ日本人ヲ以テ之ニ充ツ

八、主席ノ諮問機關トシテ參議府ヲ置ク

參議府ノ組織權限ハ別ニ之ヲ定ム

九、主席ノ下ニ政務院ヲ置ク

政務院ノ組織ハ聯合委員會各部權限ニ戰時體制的要請ニ基ク調整ヲ加ヘルト共ニ強力ナル政治ヲ行ヒ得ル如ク工夫スル外概不現機構ニ依ルモノトス

政府ハ民族協和ノ趣旨ニ基キ各民族ノ適任者ヲ以テ之ヲ組成ス

政務院ニ所要ノ顧問ヲ置ク

顧問ハ最高顧問ノ區處ヲ承ク

十、政務院ノ下ニ地方行政組織トシテ政廳又ハ盟公署ヲ置ク

政廳及盟公署ノ下ニ市、縣、旗公署ヲ置ク

備考

一、支那中央政府トノ關係及北支トノ經濟關係事項等ニ就テハ追テ研究ノ上指示スルモノトス



(以上)

(付記一)

蒙疆統一政權ニ關スル件

(陸支密)

次官ヨリ北支那方面軍、駐蒙軍各參謀長宛電報

(暗號、至急)

蒙參電四二三號返

蒙疆統一政權設立要綱ハ八月四日附ヲ以テ興亞院會議決定ノ全文通り閣議ニ於テ決定セラレアルヲ以テ支那全般ノ政治形態ニ關スル日本側要望ノ決定ヲ見ル迄ハ「蒙古聯合自治政府」ナル名稱ハ變更ヲ認メラレサルニ付組織法等公式取扱ヲ受クルヘキ基礎法ニ「邦」又ハ「國」ナル字句ヲ挿入スルコトハ差シ當リ避ケラレ度

要スルニ現地トシテハ各種ノ理由アルヘキモ本要綱決定ノ經緯ニ鑑ミ差シ當リノ名稱ハ「蒙古聯合自治政府」ヲ堅持スル如ク指導アリ度

尙ホ統一政權設立ニ關スル今後ノ準備中政府組織法等重要案件ニ就テハ密ニ當方ト連絡シ現地限リニテ措置セラレサ

ル様嚴ニ注意セラレ度從テ名稱ノ件モ其ノ際更ニ協議スルコトト致シ度ク若シ強イテ貴方ニ於テ九月一日政權統合ヲ實行スルノ必要アラハ領域ニ關スル名稱確定迄組織法等ハ此ノ際公布セサルヲ可トスル意見ナリ

金森氏ノ件ハ交渉進捗次第何分ノ返致スヘク尙暫ク待タレ度

(付記二)

新支那中央政權ト蒙古聯合自治政府トノ關係調整要領

昭和二四、九、二

戊集團參謀部

將來ノ新支那中央政府ト蒙古聯合自治政府トノ關係調整ニ關シテハ左記要領ニ準據致度意見ナリ

就テハ中央ニ於テ新政府成立ニ先チ事前工作ヲ實施アリ度

要領

一、蒙疆諸政權ハ既ニ一昨年各々其成立ニ際シ既ニ國民黨及國民政府ヨリ離脱ヲ宣言セル次第ナルヲ以テ蒙古聯合自治政府ト支那新中央政權トノ關係ヲ調整スル爲メニハ新ニ兩者間ニ別途協定セシムルヲ要ス

〔註〕

蒙疆ハ中華民國正當政府ノ宗主權ヲ認ムルモ國民政府ノ  
宗主權ハ之ヲ既ニ否認シアリ此點ニ於テ維新、臨時兩政  
府トハ本質ヲ全ク異ニスルモノナリ

ニ、新中央政府ト蒙古聯合自治政府トノ新關係設定ノ爲メ新  
中央政府成立ニ先チ然ルヘキ兩者ノ代表ヲ張家口又ハ東  
京ニ於テ會商セシメ宗主權問題ニ關スル一般の原則ヲ認  
ム但シ之カ具體的事項ニ關シテハ新中央政府樹立後別途  
協議ノ上決定スル旨ヲ締約ス

三、支那新中央政府組織ニ當リ建國宣言、國家組織法等ニハ  
蒙古聯合自治政府ニ關係スル既成事實ヲ破壞スルカ如キ  
事項ニハ一切觸レシメサルモノトス

四、新中央政府結成ニ當リテハ蒙古聯合自治政府ヨリ代表  
ヲ派遣セサルモノトス

五、新中央政府ノ成立後適當ノ機會ニ於テ支那新中央政府ト  
蒙古聯合自治政府兩者間ノ關係調整ニ關スル具體的交渉  
ヲ開始ス

六、蒙古聯合自治政府ハ帝國國防ノ第一線タルト共ニ外蒙古  
其他ヲ回收スル必然的使命ヲ有スルカ故ニ此ノ緊急使命

達成ニ不利ナル感及アルモノハ總テ之ヲ排除スルコトヲ  
本旨トシテ兩政府間ノ關係ヲ律スルモノトス

〔附記〕

本要領ニ依リ事前工作完成スルニ方リテハ一般ノ情勢已  
ムヲ得サレハ新中央政府結成ニ際シ蒙疆ヨリ代表者ヲ出  
スコトハ必スシモ拒否セス



685

昭和15年1月26日

在張家口渡辺(信雄)総領事より  
有田外務大臣宛(電報)

新中央政府と蒙古聯合自治政府との關係に關

する協定成立について

付記 昭和十五年一月

右協定案

張家口 1月26日前発

本省 1月26日後着

第一三號(極秘)

汪精衛代理周佛海ト德王代理守信トノ間ニ二十二日青島ニ

於テ中央政府ハ現狀ニ於テ蒙古聯合自治政府ノ高度自治權  
ヲ認ムルコト竝ニ中央政府ト蒙古聯合自治政府ノ關係調整

ニ關シテハ本了解ニ基キ中央政府成立後別途協定スルコトヲ趣旨トスル覺書交換アリタル趣ナリ

既ニ御承知濟ノコトトハ存セラルルモ聞込ノ儘不取敢北京、上海公使へ轉電セリ

(付記)

覺書

中華民國新中央政府樹立ニ關シ汪精衛代理ト蒙古聯合自治政府主席德穆楚克棟普代理トノ間ニ左ノ通協定セリ

一、中央政府ハ現狀ニ基キ蒙古聯合自治政府ノ高度防共自治權ヲ認ムルコト

二、中央政府ト蒙古聯合自治政府トノ關係調整ニ關シテハ

本諒解ニ基キ中央政府成立後別途協定スルコト

本覺書ハ署名ノ日ヨリ效力ヲ生スルモノトス

右證據トシテ下名ハ正當ノ委任ヲ受ケ本覺書ニ署名調印セリ

中華民國二十九年一月青島ニ於テ之ヲ作成ス  
成吉思汗紀元七百三十五年

汪精衛代理

印

蒙古聯合自治政府主席德穆楚克棟普代理 (魯文) 印

686

昭和十五年四月五日

在張家口渡辺總領事より  
有田外務大臣宛

德王が南京国民政府と蒙古連合自治政府との  
關係は兄弟の間柄であり隸屬關係ではないと  
述べ蒙古復興を力説について

機密第一八九號

(接受日不明)

昭和十五年四月五日

在張家口

總領事 渡邊 信雄〔印〕

外務大臣 有田 八郎殿

新支那中央政府成立其他ニ關シ德王ト本官トノ

談話要領報告ノ件

目下當地ニ滯留中ノ蒙古聯合自治政府主席德王先般來健康  
ヲ害セル趣聞及居リタルヲ以テ四月三日病氣見舞旁々德王  
府ヲ往訪セルカ其際本官トノ間ニ大要別紙ノ如キ談話ヲナ  
セリ、右内密ノ御含迄ニ申進ス

本信寫送付先 北京參事官、上海公使、南京、厚和

(別紙)

本官 近頃御健康勝レサル趣聞及ヘルカ御容態如何

徳王 昨今氣分非常ニヨロシキモ未タ全快ニ至ラス、然シ

左程ノ事モナキニ付御休心請フ(因ニ徳王ハ胃腸病ニ惱ミ居ル趣ナリ)

本官 新國民政府モ成立シ事態大イニ改善セラレタルカ右

ニ付テモ將來益々東亞新秩序ニ重大ナル責務ヲ負ハルル貴主席ノ御自愛ヲ祈ツテ止マス

時ニ貴主席ノ新國民政府成立ニ關スル御感想如何

徳王 新中央政府成立ニ對スル明確ナル感想トテハナキモ、

過日卓政務院長及陳長官ヲ南京ニ派遣シタルハ自分トシテハ慶祝使節トシテ送リタルニ過キス、又政府樹立ニ際シ新聞紙ニハ自分カ汪精衛ニ對シ祝電ヲ送リタル如ク記サレ居ルモ右ハ事實ニ非ス又自分ノ關知セサル處ニシテ政府ニ於テ發シタリト云ウ電文スラ承知シ居ラス。

本官 當地邦字新聞ニハ蒙古政府ヨリ祝電ヲ發セル旨記載アリタルカ貴主席ニ於テ發セラレタルモノトハ記シ

アラスト記憶ス(因ニ當初政府トシテハ徳主席ヲシテ發セシムル意嚮ナリシ處徳王之ヲ好マサルニ依リ已ムヲ得ス政府ノ名ニ於テ發シタル趣ナリ)

徳王 新中央政府ト蒙古政府トノ關係ハ謂ハバ兄弟ノ間柄

ニシテ吾々ハ新中央政府ニ隸屬スヘキモノニ非ス將來共新東亞建設ノ爲互ニ協力スヘキモノナルノミ

蒙古ハ既ニ四年前、綏東事變當時ヨリ日本ノ援助協力ヲ得テ遠大ナル蒙古民族ノ理想達成ノ爲立チ上リタルモノニシテ事變後ニ出來上リタル各政權トハ自ラ異リタルモノアリ從ツテ蒙古ノ日本ニ對スル理解乃至信賴ノ度ハ他ト比スヘクモアラス

本官 貴主席ノ地位ハ蒙疆全體ノ主席ナルカ故ニ舊ニ蒙古

民族ノミナラス全蒙疆地域内ニ包括サルル漢民族其他ノ民族ノ福祉増進ノ上ヨリスルモ貴主席ノ責任ハ誠ニ重大ナリ

徳王 貴説御尤ナルモ残念乍ラ目下ノ自分トシテハ他ノ民

族ノコト迄考ヘ得ラレス、吾人ハ先ツ吾カ蒙古民族復興ノ爲努力スヘキモノニシテ他民族ノ事ニマテ現在ノ情況ニ於テハ手ノ廻リ兼ナル有様ナリ、何トナ

レハ蒙古民族ノ負ヘル傷手カ余リニモ大ナルカ爲ナリ、茲ニ例ヲ舉ケテ説明セハ蒙古ハ既ニ病篤キ病人ナリコノ病人カ自ラノ病篤キニ氣付キタルトキ見渡シタルトコロコノ病ヲ治シ得キ名醫ナク只々日本トイフ名醫アルヲ知り、コノ醫者ヲ除キテコノ病ヲ治シ得ルモノナカルヘシト考フルニ至リ、爾來コノ病人ハソノ名醫ニ絶對的信賴ヲ以テ治療ヲ受ケツツアリ、唯コノ病人ノ最モ恐レ居ル處ハ名醫ノ考ヘニシテ變化ナキヤノ點ナリ、コノ病人ハ素ヨリ貧乏ナル病人ト云フヲ得ヘシ、將來トモ引續キ名醫ニ見放サルルコトナク療養シタキハ一旦ソノ名醫ニ信賴セラル以上病人トシテ尤モナルコトナルヘシ、然ルニ今度名醫ノ病院ニ新患者ノ入院ヲ見タルカ而モ其患者ハ金持ナリ(新中央政府ヲ諷シタルモノト存ス)我々ノ懸念スルトコロハコノ名醫カ貧シキ患者ヲ見限り新シキ富メル患者ノ治療ニ力ヲ注クニアラサルヤノ點ナリ

#### 本官

自分ハ貴主席ノ所謂病院ノ代診ニ過サルカ各科部長乃至院長ノ心持ハヨク承知致シ居ル積リナリ、院長

乃至部長ハ絶對のニ差別待遇ハナサル可ク又名醫タルノ名譽ニ掛ケテモ決シテ舊患者カ貧乏ナルノ故ニ手放スコトアルマシク必ス治シテ見セル自信ヲ持チ居ルコトト思考ス

唯々コノ名醫モ場合ニ依リテハ服藥ノミナラス外科的手術ノ要ヲ認ムルヤモ計リ難ク、カカル場合ハ治癒ヲ迅速ナラシムルタメニシテ患者モ醫師ニ信賴シテ苦痛ヲ忍ハサルヘカラス

#### 徳王

貴說御尤モナルモソノ病人ハトコマテモ手術ヲ要スルモノト貴官ハ思考サルルヤ、然シ乍ラ出來得可クンハ外科的手術ヲ受クルコトナク治リタキモノナリソレハ醫師ノ判斷ニ任ス外ナシ、醫師ニ於テ斯ク考ヘタル場合ハソレモ止ムヲ得サルヘシ、患者ヲ知ルハ醫師アルノミ、又患者ハ自分ノ病ノ程度ヲ詳知シ得サルモノナリ、要ハアセラスニ醫師ノ腕ニ委ヌヘキモノナリ

#### 本官

(態度ヲ改メテ)今迄ハ例ニヨリ申上ケシモ改メテ理解サレタキ事ハ日本ニ於テモ、蒙古民族カ如何ニ貴國ニ頼リ居ルヤ、又如何ニ防共上重要ナル役割ヲ努

#### 徳王

メ居ルヤヲヨリ一層認識サレ、又蒙古復興ノ爲ニモ  
今後共更ナル御援助ヲ賜リタシ

本官

貴意ノアルトコロヲヨク承知ス機會アル毎ニ貴説ヲ  
傳ヘン本官昨今多忙ナルカ少暇ヲ得テ一度東京ニ歸  
リ度キカ貴主席ハ日本ノ菓子ヲ好マルルト聞クカ其  
他ニモ何カ御希望ノ品アラハ「おみやげ」トシテ持  
チ歸ル可ク遠慮ナク仰セラレ度シ

徳王

御厚意ヲ深謝ス、自分ノ欲スルモノハ他ニナシ、タ  
ダ前述ノ考ヘヲ中央ノ方々ニ御傳言願ヒ度キノミ、  
貴官ノ責務亦重大ナリ御自愛ノ程ヲ祈ル

本官  
多謝

以上

687

昭和16年1月30日 松岡外務大臣より  
在南京杉原(荒木)総領事宛(電報)

蒙古独立に対する日本側意向を確認するため  
徳王が訪日を希望しているところ興亜院の対  
応振り通報

別電 昭和十六年一月三十日發松岡外務大臣より在

南京杉原総領事宛第一三号

興亜院の右対応方針

付記

昭和十六年二月十二日、東亜局第一課作成

「徳王應待要領ニ關スル件」

本省 1月30日後8時發

第一二號(極秘、館長符號扱)

外信

日高參事官へ東亞局長ヨリ

二十九日興亜院連絡委員會幹事會ニ於ケル蒙疆連絡部係官  
ノ説明ニ依レハ最近蒙古王侯及青年層ニ於ケル蒙古獨立ノ  
希望漸ク盛ナルモノアリ徳王ニ於テハ自ラ蒙古建國促進案  
ナルモノヲ起草シ上京ノ上蒙古獨立ニ關スル日本側ノ意向  
ヲ確メ度又國民政府ト蒙古トノ關係ニ付明確ナル協定(客  
年一月二十三日青島ニ於テ作成セラレタル覺書ノ二參照)  
ヲ結ビ度キ強キ希望ヲ有シ居リ蒙疆連絡部トシテハ從來ノ  
經緯モアリ此ノ上徳王ノ渡日ヲ抑フルコト困難ナル趣ニテ  
徳王ハ既ニ二月十一日出發十四日東京着ノコトニ肚ヲ決メ  
居ル趣ノ處一方興亜院トシテモ徳王ノ上京ヲ無碍ニ阻止ス  
ルコト不可能ナリトノコトニテ種々討議ノ結果政務部長ヨ

リ蒙疆長官宛別電第一三號ノ如ク回電スルコトナレルカ  
(德王ニ對スル應待要領等ニ關シテハ引續キ研究中)當方係  
官ヨリ德王ノ上京ニ關シテハ蒙疆連絡部ニ電報ノ上、尠ク  
トモ事前ニ國民政府側ノ諒解ヲ取付ケル形トスルコト然ル  
ヘキ旨述ヘ置ケリ御參考迄  
本電別電ト共ニ張家口、北京、上海ニ轉電セリ

### (別電)

第一三號(極祕、館長符號扱)

本省 1月30日後8時発

德王ノ上京ハ内外諸般ノ情勢上之ヲ見合ハシムルコトト致  
度シ然レトモ之ヲ思ヒ止マラシムルコト困難ナリトセハ左  
記事項御含ミノ上上京ニ依リテ德王ヲシテ却テ困難ナル立  
場ニ陥ラシムルコトナキヤウ御配慮乞フ

一、德王ノ上京ハ儀禮の意義ヲ主タル目的ナラシムルコト  
二、假ニ政治の事項ニ渉ルコトアルモ専ラ現地ノ實情ノ説明  
若ハ希望ノ開陳ニ止メシメ何等カノ政治的諒解ヲ取付ク  
ルカ如キハ企圖セシメサルコト

### (付記)

德王應待要領ニ關スル件

(昭和一二、一二、亞一)

一、德王ノ來朝ニ關聯シ一月三十一日興亞院政務部第二課ニ  
於テ部内ノ意向ヲ取纏メ一應「德王應待要領案」(別紙  
乙號)<sup>(省略)</sup>ヲ作成セルカ右ニ對シ當方ニ於テハ大臣及次官ノ  
御意向ヲモ体シ德王ニ對シテハ出來得ル限り同情共鳴ノ  
態度ヲ採ル趣旨ニテ二月三日附亞一「德王接待要領案」  
(別紙丙號)ヲ作成シ右ニ基キ興亞院側ト折衝セル處主務  
官ニ於テハ大体右趣旨ニテ應待スルコトニ異存ナキ旨述  
フルト共ニ金井最高顧問ノ意向トシテ同顧問ニ於テハ右  
案ニ要領イ「蒙古政府ノ政治ハ蒙古人ヲシテ實施セシメ  
日本人ハ顧問トシテ參劃セシムルコト」ニ關シテハ右カ  
現在ノ日系官吏ヲ排斥シテ可ナリト云フカ如キ印象ヲ德  
王ニ與ヘサル様希望シ居ル旨語レリ(興亞院主務官ノ内  
話ニ依レハ興亞院鈴木政務部長ニ於テハ德王ノ自治要望  
ニ對シテハ出來得ル限り我方ノ立場ヲ「コミット」セサ  
ルコト可ナリトノ意向ヲ有スルモノノ如シ)

二、陸軍省石井中佐ヨリノ通報ニ依レハ陸軍省及參謀本部々

## (別紙)

徳王ニ對スル應答要旨

内ニ於テハ出來得ル限り徳王ニ對シ同情アル應酬ヲナサントスルノ意向強ク特ニ陸軍大臣ニ於テハ從來ノ關係モアリ今回徳王ノ來朝ニ對シテハ成ヘク失望ニ終ラシメサルヤウ好意的應酬ヲナサントノ意向ヲ有シ石井中佐ニ於テハ別紙陸軍省作成「徳王ニ對スル應答要旨」ヲ取纏ムルニ多大ノ苦心ヲ拂ヒタル趣ニテ右案ヲ外務大臣ノ參考トシテ送付シ來レリ(右陸軍案ハ蒙古自治ノ基礎法ニ蒙古自治國ト規定スルコトニ就キ我方ノ立場ヲ拘束スルカ如キ明確ナル言質ヲ與ヘサルヤウ留意シ居ル點ヲ除ケハ終始同情的態度ヲ以テ對セントスルモノニテ亞一案ノ氣持ト大差ナシ)

三、事情右ノ通りニテ此ノ際關係省間ニ正式ニ徳王接待要領ヲ作成スルコトハ間ニ合ハサルニ付外務大臣及次官ニ於カレテハ大体外務案及陸軍案ノ趣旨ニテ適宜應酬セラルルコトト致度

## 配布區分

大臣、次官、軍務局長、田中兵務局長  
參謀總長、田中第一部長、鈴木政務部長  
松岡大臣、所要ニ應ジ寺内大將

徳王カ蒙疆ノ獨立ヲ執拗ニ主張スルコトヲ豫想セラルルニ付テハ左記要旨ニ依リ應答スルモノトス

(イ)蒙疆ガ政治、經濟ノ全部面ニ互リ内部の發展ヲ遂ゲ將來ノ飛躍ヘノ基礎ヲ着々固メツツアルハ洵ニ同慶ノ至リニシテ當方モ大ニ期待ヲ寄セアル所ナリ

(ロ)日本ハ蒙古ノ獨立ニ付テ極メテ好意的關心ヲ有シアルコト勿論ニシテ獨立ノ時期ガ熟スルコトヲ熱望シアリ之ガ爲前述ノ如ク蒙疆ガ先ツ内部の發展ヲ完成シ將來外蒙ヲモ傘下ニ吸收シ得ル實力ヲ培養セラレンコトヲ渴望シ引キ續キ支援致シ度キ所存ナリ

(ハ)貴方ノ希望セラルル高度自治ノ内容ハ實質上完全ニ具現セラレ得ヘキモノト確信シアル次第ナリ即チ其内容ハ豫メ中華民國政府カ蒙疆ト十分ナル協議ヲ遂ケ且日本側トモ十分協議スルコトトナリアルヲ以テ決シテ蒙疆ノ高度自治ヲ害スルモノニアラス

蒙疆自治ノ權限ヲ形式上中華民國政府ノ法令(内蒙自治法)ヲ以テスルモ中華民國ノ宗主權ヲ認メアル蒙疆ノ權



威ヲ害スルモノニ非ルナリ

(二)内蒙自治法ニ於テ蒙疆ノ地域ヲ指稱スル名稱ヲ決定セラ  
ルルニ當リテハ「國」「邦」又ハ「其他適宜ノ文字」等  
各種ノ考案生スヘク當方トシテハ誠意ヲ以テ研究スヘシ  
(二)ニ付テハ日本側ヨリ進ンテ發言スルコトヲ避クルモ  
先方ヨリ具體的發言行ハルル際ハ應答スルコトトス、此  
際我方ノ立場ヲ拘束スルカ如キ明確ナル言質ハ與ヘサル  
様留意スルモノトス)

(別紙丙號)

德王接待要領案

(昭和一九、二、三 亞一)

德王ノ應接ハ主トシテ外務大臣之ニ當ルコトトシ他ノ大臣  
ハ成ヘク儀禮的引見ニ止ムルモノトス

外務大臣ノ應待ハ左記ニ依ルコト

記

一、方針

德王ノ現地實情ノ説明若ハ之ニ基ク希望ノ開陳ヲ聽取ス  
ルコトニ重點ヲ置キ蒙古自治國ノ設立、其ノ時期等ニ關  
スル德王ノ申出ニ對シテハ我方ノ立場ヲ拘束スルカ如キ

言質ヲ與ヘサル様留意スルモノトス

二、要領

(イ)自治政府ノ實力向上ニ關シ

高度防共自治區域トシテノ使命達成ノ爲先ツ蒙古民族  
ノ實力向上竝ニ自治地域内ニ於ケル政治力ノ浸透、經  
濟ノ開發ニ全力ヲ盡ス様說示スルト共ニ蒙古人ノ實力  
發揚ニ關スル德王ノ希望ニ就テハ十分之ヲ聽取シ特ニ  
「蒙古政府ノ政治ハ蒙古人ヲシテ實施セシメ日本人ハ  
顧問トシテ參劃セシムルコト」等自治政府ノ基礎強化  
方ニ關スル德王ノ希望ニ對シテハ日本側トシテモ之カ  
實現方誠意ヲ以テ研究スヘキ旨述フルコト

(ロ)自治權設定ノ形式ニ關シ

中華民國ノ宗主權ヲ認メタル以上中華民國政府カ蒙疆  
ト十分協議ノ上國民政府ノ法令ヲ以テ蒙疆自治ノ權限  
ヲ規定スルハ毫モ蒙疆ノ權威ヲ害スルモノニ非ス、帝  
國政府トシテハ右法令ノ内容ニ關シ重大ナル關心ヲ有  
シ居レリ。

自治政府ニ於テ諸般ノ情勢上是非共自治權ニ關スル華  
蒙間協定ヲ締結シ度シト云フニ於テハ帝國政府トシテ

モ右協定ノ内容ヲ十分検討シタル上前記國民政府ノ法令ト併行シ適當ノ時期ニ協定成立方斡旋スルニ吝ナラス

~~~~~

688

昭和16年3月10日

松岡外務大臣より
在張家口渡辺総領事宛(電報)

德王訪日時の接遇振りにつき通報

別電

昭和十六年三月十日発松岡外務大臣より在張

家口渡辺総領事宛第二八号

松岡・德王会谈概要

本省

3月10日後10時発

第二七號(極秘)

東亞局長ヨリ

一、德王ハ十八日謁見ヲ賜ハリ同日外務大臣ノ晚餐會ニ出席
(公式招宴ハ右ニ止メ其他ハ極メテ内輪ニ陸軍大臣、褚民誼大使、東京市長等ノ招待ニ出席セリ)二十五日ヨリ三月一日迄東北地方(仙臺、盛岡、花巻温泉、福島縣飯坂温泉)ヲ巡遊セルカ八日東京發伊勢(一泊)大阪(二泊)經由歸國ノ途ニ就キタリ

二、今次渡日ニ當リ德王ガ最モ關心ヲ有シタルハ蒙古自治國(尠クトモ自治邦)ノ設立ニ對スル我方ノ見解ヲ確メントスルニ在リタルモノノ如キ處蒙古ノ現狀ニ關スル德王ノ説明ニ對シテハ努メテ理解アル態度ヲ以テ臨ムモ將來ノ問題ニ關シ我方ノ立場ヲ拘束スルカ如キ實質ヲ與ヘサル様留意スル方針ノ下ニ會見モ出來得ル限り之ヲ小範圍ニ止メ大臣、次官、東條陸軍大臣、鈴木興亞院總務長官心得及田中兵務局長等トノミ余人ヲ交ヘス懇談スル所アリ德王ノ希望申出(德王起草ノ案ヲ中心トス)ニ對シテハ出來得ル限り之カ實現方斡旋スヘシトノ趣旨ニテ同情ヲ以テ聽取シタル結果德王モ相當満足セル模様ナリ(松岡大臣トノ會談要旨別電第二八號ノ通)

三、一行ノ滞在ハ出來得ル限り短期トシ度心組ナリシガ同人ハ余人ノ同席ヲ避ケ前記關係者トハ數回ニ亘リ充分懇談ノ機會ヲ作りタル結果自然東京滞在延長セラレタル次第ナリ(其間隨行ノ金井顧問、村谷祕書長、在京蒙古代表等關係日本人間ノ連絡必スシモ良好ナラス當方ニ於テ適宜指導ヲ與ヘタルカ日程其他萬事圓滑ニ運ヒ得サリシ憾ナキニ非リシ處眞相蒙疆連絡部山下事務官ヨリ御聽取ア

リ度)

委細郵報ス

別電ト共ニ北京、南大、滿大、上海へ轉電セリ

(別電)

本省 3月10日後9時發

第二八號(極祕)

二月十八日德王本大臣ヲ來訪同人起草ニ係ル蒙古建國促進案ヲ提示シ蒙古ノ獨立ニ付日本ヨリ一層ノ援助ヲ仰キ度旨述ヘタルヲ以テ個人トシテハ右草案ノ趣旨ハヨク理解シ得ルモ外務大臣トシテハ右草案ト日支基本條約トノ關係ヲ十分檢討シタル上ナラテハ明答シ難キ旨ヲ答ヘタル上日本皇道ノ理念ヲ敷衍説明シ蒙古人カ其ノ本然ノ地位ヲ得ル様日本ハ極力援助スヘキ立場ニ在リ從テ今直クト云フ譯ニハ行カサルモ將來ニ於テ必ス日本ノ斡旋ニ依リ貴意ノ實現ヲ期スヘシトノ趣旨ヲ述ヘタル處德王モ喜ヒノ色ヲ浮ヘテ謝意ヲ表シ約一時間半ニテ會談ヲ終レリ

689

昭和16年4月22日

在広東高津総領事より
近衛臨時外務大臣事務管理宛(電報)

福建華僑工作に關する現地軍の要望について

広東 4月22日後發

本省 4月22日夜着

第一四〇號(絕對極祕、館長符號扱)

本官發馬尼刺、新嘉坡、河内、「バタヴィア」、「タイ」宛電報合第七二號

四月二十一日我軍ハ福州ヲ攻略セルカ福建華僑工作ハ本作戰ノ成果ニ鑑ミ一層其ノ重要性ヲ増大セルヲ以テ軍ヨリ今後出先公館ニ於テ左記趣旨ニテ積極的ニ工作方希望越シタル處當館トシテモ洵ニ同感ナルニ付テハ然ルヘク御配慮相成度シ

一、蔣政權トノ從來ノ連鎖ヲ絶チ福建人ノ福建タラシム

二、福建出身ノ華僑ヲシテ此ノ際大同團結シ蔣政權ヲ沒落セ

シムルコトニ協力セシム

大臣、支、上海へ轉電セリ

690

昭和16年4月28日

在中国本多大使より
松岡外務大臣宛(電報)

蒙疆地域での自治運動進展に関し南京国民政府との関係から影佐少将憂慮表明について

南京 4月28日後発

本省 4月29日前着

第二七一號(極秘、館長符號扱)

影佐少将ノ本使ニ内話スル所ニ依レハ過般徳王日本往訪ノ結果中央ニ於テハ彼ノ希望ヲ或程度容レテ蒙疆地域ヲ自治邦ト爲スコトニ内諾ヲ與ヘ徳王ハ近ク王侯會議ヲ召集シ自治邦組織採用ヲ決定スル趣ナリ

惟フニ蒙疆ノ自治ニ付テハ和平條件協議ノ際ノ一大重要問題ナリシカ漸ク自治區域ナル字句ニ落着キタル経緯ハ御承知ノ通りニシテ今國民政府ト何等ノ話合ヲスルコトナクシテ之ヲ自治邦ト爲スコトハ條約ノ一方的變更ノミナラス又支那側ニモ同意ヲ得ルコト頗ル困難ナリト思考セラル

~~~~~

691

昭和16年4月28日

在中国本多大使より  
松岡外務大臣宛(電報)

蒙疆自治運動や西南政府樹立運動が南京国民政府当局を刺激・困惑させているため同政府の心配を除去するよう尽力方要望について

南京 4月28日後発

本省 4月29日前着

第二七二號(極秘)

往電第二七〇號乃至第二七一號ニ關シ

之等ノ情報ハ何レモ國民政府當局ヲ頗ル刺戟シ居リ相當氣ヲ腐ラシ居ル模様ナルニ付テハ當地總軍ニ於テモ折角考慮中ナルモ中央ニ於テモ時節柄國民政府ノ心配ヲ除去スル様軍側ト聯絡方切望ニ堪ヘス

上海、廣東、北大、張家口へ轉電セリ

~~~~~

692

昭和16年4月29日

在中国本多大使より
松岡外務大臣宛(電報)

余漢謀の幕僚による西南政府樹立運動を制止するよう南京国民政府要望について

南京 4月29日後発

本省 4月29日前着

第二七〇號(極秘)

余漢謀幕僚ナル趙鼎華ナルモノ曩ニ南支軍延。原參謀ト聯絡シ西南政府樹立方運動シ居リタル處汪側ニ於テハ斯カル運動ハ到底成功セサルモノト思考スルモ日本軍ニ於テ趙ヲ支持セラレテ居ル以上ハ短期間中山縣長ノ位置ヲ與ヘ試ミルモ已ム無シトシ西南政府樹立ノ條件ノ下ニ之ヲ容認シ置キタル處今次趙ハ陳永孚ナルモノニ對シ中山縣ニ於テ政務委員會ヲ四週以内ニ組織セラレタキ旨要求セル趣ナリ國民政府ニ於テハ斯ノ如キ政務委員會ヲ組織スルコトハ西南政府樹立ノ如クニモ取ラレ曩ニ與ヘタル了解ニモ反シ面白カラサルニ付取止ムル様取計方影佐ヲ通シ日本側ニ希望シ來レリ

上海、廣東へ轉電セリ

693 昭和16年5月16日

在広東高津総領事より
松岡外務大臣宛(電報)

福州経営は軍中央と現地軍との間に意見の不一致があり長期経営は経済的に困難との観測報告

第一七〇號(外機密、館長符號拔)

往電⁽¹⁾第一六二號及往電第一六六號ニ關シ

福州經營問題ハ當初ヨリ中央及南支軍間ノ懸案ニシテ攻略當初ニ於テモ未タ方針確定セス即チ現地軍カ陳儀抱込ニ依ル重慶陣營ノ一角崩壞ヲ第一目標トシ右ニ失敗シタル場合ニハ華僑工作ニ利用セントスル政治的理由ニ依リ福州經營ヲ主張セルニ對シ中央ハ戰線縮小南京政府育成強化ノ中央既定方針ト共ニ内地ヨリノ物資供給難ノ爲現地^(マ)トシテハ經營ニ反對セルカ只陳儀抱込ニ成功ノ場合ニハ再考スヘシトノ態度ニテ從テ福州經營ハ一ニ懸テ陳儀工作ニ在リタルカ愈攻略ノ結果陳儀ハ既ニ以前ヨリ同地ニ在ラサリシト現地ニ於ケル同人ノ餘リナル不人氣ニ現地軍ニ於テモ同人ヲ見限り専ラ華僑工作ノ爲福州經營ノ肚ヲ決メタルモノノ如ク其ノ結果内地ヨリハ物資ノ補給ヲ期待シ得サルヲ以テ今同ノ當地ニ於ケル福州經濟會議トナリ物資ハ上海、厦門、廣東ヨリ補給スルコトニ大體話合一應纏レル次第ナリ

因⁽²⁾ニ現地軍ヨリ攻略直後領事館再開、民間航路ノ寄航及銀

広東 5月16日後発
本省 5月16日夜着

行ノ進出要請シタルニ對シ中央ハ之ニ同意セサリシ事實アリ以上ノ經緯ニテ現地軍ニ於テハ華僑工作上福州ニ於ケル政治ハ「福建人ノ福建」ノ下ニ一切ヲ支那人ニ委セ日本側ヨリハ干涉セス彼等ニ自由ニ善政ヲ敷カシムル建前ヲ執レルカ此點ハ他占領地トハ趣ヲ異ニス又事實上華僑ノ充分ナル協力ナクシテハ福州ノ經營ハ經濟的ニ至難ノ業ニシテ尠クトモ長期ノ經營ハ困難ナリト思ハル

支、上海、厦門、香港へ轉電セリ

694

昭和16年6月30日

在張家口渡辺総領事より
松岡外務大臣宛(電報)

蒙古自治邦の名称採用を現地要人のみの會議
で決議し興亜院も承認しているとの情報報告

張家口 6月30日後発

本省 6月30日後着

第一一二號(部外極秘、館長符號扱)
大橋次官へ

五月十三日附貴官宛拙信ニ依リ御推察ノコトト存スルカ同月十一日現地人ノミノ會議ニ於テ蒙古自治邦決議セラレタ

リ右ニ關シ翌十二日軍係官ハ本官ニ極ク内密ニ會議ノ顛末ヲ告ケタル上本件決議ヲ爲スコトニ付テハ興亜院會議ノ承認ヲ得居ル次第、汪精衛カ日本ヨリ歸リタル後奧地ヨリ漸次看板ノ塗り替ヘヲナシ又南京ヨリ抗議アリタル場合ニハ現地人ノ決定ニ係ルモノニシテ日本國ノ干與セサリシ故ヲ以テ酬ユル方針ナル旨内話セリ

支那語ニテハ邦ト國トノ區別ハ一應付ケ得ヘキモ蒙古語ニハ其ノ差ナキヲ以テ

一般蒙古人ハ遂ニ國トシテ内蒙ノ存在ヲ認メタルモノト思

考シ居ル如クニテ獨立運動モ爾來其ノ聲ヲ潛メタル様觀察セラル只蒙古要人中ニハ本件承諾カ日蘇中立條約後ナリシヲ恨ムト本官ニ洩セルモノアリ

尙汪精衛歸國ノ今日本件實施振ヲ密ニ注意シ居ルモ現在迄ノ處其ノ氣配ナク最近參謀長ニ質セルニ機密ニシテ洩シ難シト言ヘルモ蒙古要人カ本官ニ内話セル處ニ依レハ金井ハ數ヶ月後ニハ必ス實施セシムヘシト語レル趣ニテ此ノ事情ヨリ本官ハ右期日トシテ九月一日ノ政府成立記念日カ考慮セラレ居ルモノト推測ス最近本官ヲ來訪セル吳政務院長ハ貴官ノ御斡旋ニ對シシミミト感謝シ居レリ

昭和16年8月4日

在張家口渡辺總領事より
豊田外務大臣宛(電報)

蒙古自治邦の名称採用理由および実施方法に

つき軍側より通報について

張家口 8月4日後発

本省 8月4日後着

第一四〇號(外機密、部外極秘、館長符號扱)
往電第一三八號ニ關シ四日ヨリ實施スヘキ「蒙古自治邦」名ノ採用理由竝ニ採用
實施方法左ノ通りナル旨軍側ヨリ内報ヲ受タルニ付何等御
參考迄一、蒙古聯合自治政府ノ地域(「オジユメル」區域)ニ付テハ
未タ適確ナル名稱ナク單ニ自然的發生シタル「蒙疆」ヲ
用ヒ居ルモ種々不便アルニ付蒙疆ニ代フルニ「蒙古自治
邦」ナル地域名稱ヲ採用スルモノニシテ南京政府ノ宗主
權ヲ認ムルコト依然變ルトコロナク從テ本名稱採用後モ
對南京政府關係、地域内政治機構及法令其ノ他何等從來
ト變ルトコロナシ

本處置ハ蒙人ニ對シ將來大蒙古建設ノ有力ナル基礎ヲ内

蒙ニ構成スル一段階ナルコトヲ指示シテ蒙疆建設ノ爲奮
起ヲ促ス資料トスルヲ目的トス二、⁽²⁾右名稱使用準備完了後ハ對内的公文、布告等ニハ新名稱
ヲ用フルモ當分ノ間新聞、雜誌等ニ右使用ヲ嚴禁スルハ
勿論本件施行ハ德王指揮ノ下ニ實施セシメ苟モ日系官吏
カ表面ニ立チ若クハ日本軍民力カ之ヲ指導セシカ如キ感ヲ
與ヘサル如キ限度ニ取締ラシム又前記公文、布告、告示
等ヨリ南京側ニ漏洩シ又詰問的照會ヲ受クル場合ハ對内
問題ナルコトヲ建前トシテ上司ト聯繫シテ對處ス
因ニ本件名稱變更ニ關シ軍側ニ於テハ邦人側ヨリ國民政
府及華北政務委員會ニ對シ漏洩セシメサル様要望シ越ス
ト共ニ關係現地人ニ對シ外部ニ漏洩セサル様特ニ注意セ
ル趣ナリ本電取扱ニ御注意請フ尙冒頭往電ヲ除キ本電ノミヲ南京總
領事(外信トシテ)ニ轉報アリタシ

北大、厚和、滿ニ轉電セリ

~~~~~

昭和16年10月22日

在北京土田大使館參事官より  
東郷外務大臣宛(電報)

# 軍政施行説の流布に關し北支那方面軍參謀長 は軍容に變動なき旨言明について

北 京 10月22日後発  
本 省 10月22日夜着

第六八七號(館長符號扱、部外極秘)

前内閣末期ヨリ日米交渉ニ關聯シ當方面軍内ニ内地戒嚴令  
説ニ呼應スル現地軍政施行説アル旨流布セラレ(今回軍務  
局轉任ノ宮本中佐ノ倭島ニ對スル内話ニ依レハ北支軍トシ  
テ既ニ決意ヲナシタル次第ニアサルモ宮本着任ノ上ハ中  
央ヨリ北支軍ニ對シ軍政施行ニ關スル意見ヲ徵スルコトト  
ナルヤモ知レストノ趣旨ヲ洩シタル由倭島ハ右ニ對シ軍政  
ノ不適當ナルコト及寧口支那側ニ軍事委員會ノ如キモノヲ  
新設スルニ如カストテ強ク反省ヲ促シ置キタル由)タルニ  
モ鑑ミ新内閣成立ノ機ニ軍首腦部ノ内意探查然ルヘシト認  
メ本官二十二日田邊參謀長ニ面會夫レトナク軍方針ノ變更  
ノ有無ニ付質シタル處同參謀長ハ北支軍トシテハ萬般ニ亘  
リ何等ノ變更ナキ建前ヲ堅持シ居リ現ニ司令官ヨリ隷下部  
隊ニ對シ右ノ次第ヲ明確ニ指示シタル旨明言セリ參謀長ハ  
南北兩面ニ亘リ帝國トシテ何等ノ行動ニ出スル場合アリト

スルモ北支ノ軍容ニハ何等ノ動搖ナク北支ヨリスル事變處  
理ノ街道ヲ薦進スル考ナリト述ヘ居留民就中經濟界人士ノ  
危懼ノ念拂拭方ニ付依頼シタルニ付本官之ヲ快諾スルト共  
ニ軍容ノ嚴然タルニ竝行シ政治ノ變遷換言スレハ支那側ノ  
政治的積極關心ヲ導出スルノ急務(即チ間接ニ軍政否認)ヲ  
力説シタルニ參謀長之ニ全然同感ノ旨ヲ表明セリ  
以上些カ抽象的ニ失スルモ現下當方面軍責任當局ノ意嚮表  
明トシテ御參考迄  
南總(外信)ヘ轉電セリ

~~~~~

697 昭和16年12月3日

在広東高津總領事より
東郷外務大臣宛(電報)

國際情勢急転の場合の措置振りにつき軍側と の協議内容報告

広 東 12月3日後発
本 省 12月3日夜着

第五一六號(極秘、館長符號扱)

貴電合第二三四二號ニ關シ⁽¹⁾

本二日軍側ヨリ聯絡アリタルニ付各係官帶同軍司令部ニ於

テ南支軍幕僚ト軍側作成ノ對英米戰開始ノ際ニ於ケル廣東方面敵性權益接收措置及ヒ處理案ニ付テ協議セル處軍側ニ於テモ英租界及ヒ英米權益接收ニ際シテハ無益ノ摩擦ヲ防止スルコトニハ全然同意見ニシテ右接收ニ當リテハ本官ヨリ英米總領事ニ對シ租界其ノ他ノ權益ヲ接收スル旨口頭ヲ以テ通告シ平和的二接收シタル上守備隊ヲシテ實質的二支配セシムルコトトシ英租界ニ隣接スル佛租界ニ付テハ本官ヨリ佛領事ニ對シ我方行動ニ對シ諸般ノ便宜ヲ供與スル様申入レヲ爲スコトトナリ又教會、學校ハ成ルヘク現狀ヲ維持スルコト及ヒ人ノ取扱ハ出來ル丈ケ穩カニシテ惡宣傳ノ具ニ供セラルルコトナキ様トノ本官申出ニ對シ軍側ニ於テ篤ト諒承セリ

⁽²⁾ 尙前記措置及處理案中重ナル點左ノ通り

(1) 英租界

- (イ) 英米總領事館ハ一時其ノ機能ヲ停止セシメ工部局ハ接收シ租界ノ一般人出入及物資ノ搬出入ヲ禁止ス
- (ロ) 租界接收後ハ陸軍警備區域ニ編入ス

(2) 敵國人ニ對スル措置

- (イ) 敵國人ニ對シテハ在外邦人ニ對スル報復ヲ輕減セシム

ル爲努メテ不當苛酷ナル取扱ヲ避クルコトトシ一應現ニ居住ノ住所ニ軟禁シ爾後特定ノ家屋ニ收容ス

- (ロ) 敵側兵力ニ參加スルモノト認メラルル者又ハ有害ナリト認メラルル者ハ抑留スルモ右以外ハ支那奧地又ハ澳門方面ニ退去ヲ命ス

⁽³⁾ 敵性財産ニ對スル措置

敵國公有及ヒ敵國人私有財産ニ付テハ英米側ノ我方ニ對スル資産凍結實施ノ報復モ加味セラレ其ノ措置ハ敵國人ニ對スル措置ヨリモ相當嚴重ナルモ公有財産又ハ之ニ準スル利益ト認メラルルモノハ沒收シ私有財産ハ軍事上ノ必要ノ程度ニ依リ沒收、押收又ハ徵收スルコトトセルモ學校、病院、教會、寺院ニ付テハ出來得ル限り現狀ヲ維持セシムルコトトセリ

(4) 未接收ノ重慶側權益ハ敵國ニ準シテ處理ス

- (5) 海關ハ既定ノ方針ニ依ル郵政局ハ敵性國人罷免ノ上軍ノ監督下ニ置キ電話局ハ接收ス



698

昭和16年12月3日

在北京土田大使館參事官より
東郷外務大臣宛(電報)

國際情勢急轉の場合の敵性權益接收につき大
局的見地に基ついた方針を中央より現地へ指

令すべき意見見申

付記 昭和十六年十二月四日、東亜局第一課作成

「國際情勢急轉」場合在支敵國人及敵國財産
處理二件ヒ帝國外務官憲ノ差當リ執ルヘキ措
置」

北京 12月3日後發
本省 12月3日夜着

第七六七號(館長符號扱)

往電第七六三號^(編注)二關シ

二日北澤有末參謀副長ニ面會ノ節有末ハ北支方面艦隊ニ於
テハ開戰ノ際青島方面ニ於ケル敵性權益ハ教會等ニ至ル迄
之ヲ接收使用スルコトヲ考慮シ居ルカ如クナルヲ以テ軍ト
シテハ陸軍側ニ於テ接收スル敵性權益ハ必要ニ應シ海軍側
ニモ分與スヘシトノ趣旨ヲ以テ海軍側力行過キタル措置ニ
出テサル様協議ヲ進メツツアル旨述ヘタルニ付北澤ハ三日
當地久保田海軍武官ニ面接シ冒頭往電ノ趣旨ヲ篤ト説明シ
海軍側ニ於テモ大局の見地ヨリ開戰ノ際ノ措置振ニ付充分

考慮アリタク右北支方面艦隊側ニモ聯絡ヲ願度キ旨述ヘタ
ルニ同武官ハ御話ノ趣旨ハ同感ナルカ自分ヨリ艦隊側ニ申
送ルコトハ機微ノ事情アリ又本件ハ北支ノミナラス中南支
及南方ノ作戰地域ニ於テモ同様措置スルノ必要アルヘキニ
付中央ノ決定トシテ現地陸海軍側ニ指令アル様取計フコト
適當ト認ムルニ付右様大使館ヨリ中央ニ稟請セラレテハ如
何ト答ヘタル趣ナルニ付テハ右指令ノ發出方ニ付御考慮相
成リテハ如何カト存ス爲念

南總(外信)、上海ニ轉電セリ

編注 本書第398文書

(付記)

國際情勢急轉ノ場合在支敵國人及敵國財産處理ニ
伴ヒ帝國外務官憲ノ差當リ執ルヘキ措置

(昭十六、十二、四 亞一)

一、上海共同租界ニ關シテ取ル可キ措置

(一)米國「マリン」及英米艦船ニ對スル武裝解除勸告ハ陸
海軍司令官ヨリ直接通告スルト同時ニ帝國總領事ヨリ

英米總領事ニ對シテ自發的武裝解除方要求ス

(二)帝國總領事ヨリ工部局參事會議長ニ對シ上海義勇隊ハ日本軍進駐ニ依リ租界内治安維持ノ責任ヲ解除セラルヘキニ付活動ヲ中止スヘキ旨通告スルト共ニ領事團首席領事ニ對シ右通告文寫ヲ送付ス(帝國軍司令官ヨリモ工部局參事會議長宛同趣旨ノ通告ヲナス)

(三)帝國總領事ヨリ佛伊兩國總領事ニ對シ日本軍ハ共同防備協定ハ其ノ存在理由消失シタルニ付之ヲ廢棄スルコトニ決シ其ノ旨伊國軍司令官及共同租界參事會議長宛通告シタル旨通報ス

(四)共同租界進駐直前軍司令官ハ伊太利軍司令官ニ對シ伊軍ハ紛爭防止ノ見地ヨリ兵營ニ於テ待機セラレンコトヲ要請スルト共ニ帝國總領事ハ伊國總領事ニ對シ右通告ニ付通報シ同時ニ伊國軍カ日本軍ノ要請ニ應スル様幹旋方申入ル

(五)進駐ト共ニ帝國總領事ヨリ英大使館及英米總領事館ノ事務ヲ停止セシムルタメ必要ノ通告及措置ヲナス

二、上海佛租界ニ關シテ取ル可キ措置

上海佛租界ニ對シテハ外交交渉ニ依リ我方トヨリ强度ノ

協力關係ヲ設定セシムルヤウ工作ス(内容別紙ノ通)

三、北京公使館區域ニ關シテ取ル可キ措置

(一)大使館ヨリ獨、伊、佛、白、西、和蘭ノ各關係國代表ニ對シ日本軍カ北京英米駐屯軍兵營ヲ占領シ公使館區域内ニ存在スル英米系權益財產ノ一部接收ヲ行ヒタル旨通告スルト共ニ不取敢日本軍ハ公使館區域ノ治安維持ニ任スルニ付右ニ協力アリ度キ旨申入ル

(二)行政委員會ノ改組ヲ求ムル爲メ大使館ヨリ先任大使タル白耳義大使ニ對シ帝國政府ハ今後英米兩國大使館員ノ行政委員トシテノ職權ノ行使ヲ認メサル旨竝ニ從來英國委員ノ行ヒ居リタル行政委員會委員長ノ職務ハ今後日本委員ニ於テ代行ス可キ旨又行政委員會書記英人「ローレンス」ハ日本軍ニヨリ抑留セラレタルニ付一時日本人職員藤井ヲシテ事務所ノ管理ニ當ラシムル旨通告ス

(三)英米大使館ノ事務ヲ停止セシムルタメ帝國大使館ニ於テ必要ノ通告及措置ヲナス

四、天津ニ於テ取ル可キ措置

(一)英米總領事館ノ事務ヲ停止セシムルタメ帝國總領事ニ

於テ必要ナル通告及措置ヲナス

(二) 英租界進駐ト共ニ帝國總領事ヨリ獨、伊、佛、白等ノ領事ニ對シ進駐ノ事實竝ニ自今帝國軍ニ於テ同租界内ノ治安維持ニ任スル旨通告ス

(三) 佛、伊總領事ニ對シ夫々佛租界及伊租界ニ於テ今後我方ニ對シ全面的ニ協力の態度ヲ取ラレタキ旨申入ル

五、其他敵國領事館所在地ニ於テ取ル可キ措置

(一) 其他英米領事館ノ所在地ニ於テハ帝國領事官ニ於テ英米領事館ノ事務ヲ停止セシムルタメ必要ナル通告及措置ヲナス

(二) 南京ニ於テ獨伊等國民政府承認國ニ對シ右我方ノ取リタル措置ヲ通報スル場合ハ帝國大使館ニ於テ之ヲナス六、中央ニ於テ取ル可キ措置

中央ニ於テ獨伊佛各國大使ニ對シ帝國ハ英米ト開戦セル結果支那ニ於ケル敵性租界ヲ我軍ノ權力下ニ置クコトトナリタルカ之等地域ノ管理竝ニ一般ニ支那占領地ノ經營ニ當リテハ現地獨伊佛官憲ノ協力ヲ要スルコト少ナカラサル可キヲ以テ獨伊佛各國ノ政府ヨリ現地自國官憲ニ對シ日本當局ニ協力方改メテ訓令サレタキ旨申入ル

(別 紙)

佛國租界ニ對シテハ差當リ兵力ヲ進駐セシメス我方(軍及外務官憲)ヨリ租界當局ニ對シ必要ナル協力ヲ要求ス

上海佛租界當局ニ對シ要求ス可キ具體的諸項左ノ通り(但シ左記各項ノ要求ハ情勢ノ推移ヲ見タル上適宜申出ツルモノトス)

一、我方ノ共同租界進駐ニ際シ同租界内ニ居住スル敵國人及敵國財産カ佛租界ニ逃避スル場合之ヲ庇護セサルコト

二、我方ノ要求ニ應シ佛租界内ニ在ル敵國人及敵國財産ヲ我方ニ引渡スコト

三、佛租界内居住敵國人ヲ看視スルタメ佛租界内ニ我方憲兵ノ駐屯ヲ認ムルコト

四、公董局董事中重慶側ト關係アルモノ(五名中二名)ヲ罷免シ國民政府側ノモノヲ以テ之ニ代フ(董事、佛九、支五、英二、米一、瑞一、計十八名)

五、英米人董事(三名)ヲ罷免シ日本人董事一名ヲ任命ス六、公董局警察ニ日本人高級職員一名ヲ任命シ以テ連絡ニ當ラシム

七、排日新聞雜誌記事ノ徹底的取締

八、排日放送ノ徹底的取締

九、排日映畫、教科書ノ徹底的取締

十、佛租界内軍票、儲備銀行券流通ノ承認

十一、其他我方經濟施策ニ對スル全面的協力

(備考) 天津佛租界ニ對スル要求モ概ネ右ニ準スルモノトス

